

塩部遺跡 II

— 山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査報告書 —

2005

山梨県峡中地域振興局
甲府市教育委員会

『塩部遺跡Ⅱ』正誤表

誤		正
19頁33行	川跡（全体図中 遺物：図45・46）	→ 川跡（遺構：全体図中 遺物：図45・46）
33頁	P 8 9 土層説明なし	→ 1 2.5Y黒褐3/1 2 2.5Y黒褐3/2炭化物少量
35頁42行	馬の歯とみられる	→ 削除
46頁	P 1 4 7 土層説明なし	→ 1 2.5Y黒2/1 灰オリーブ色土粒多量
	P 1 4 8 土層説明なし	→ 1 2.5Y黒2/1 灰オリーブ色土粒多量
	P 1 4 9 土層説明なし	→ 1 2.5Y黒2/1
	P 1 5 0 土層説明なし	→ 1 5Y黒2/1
69頁	別表参照	
99頁9行	庄内式土器の報告例	→ 庄内式土器と併行する畿内系タタキ甕の報告例
101頁16行	中山編年（中山1999）	→ 中山編年（山梨県1997所収）

※なお、16号溝跡出土の草食動物の歯については、保存処理後に再鑑定したところ、馬ではなく鹿の歯である可能性が高いことが判明した。よって、第4章 考察 第3節塩部遺跡の集落変遷末尾の仮説については、訂正致します。

出土遺物観察表(正)

単位: cm () は反転表測による復元値

図版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量			色調	焼成	備考
				口 径	径	高さ			
51	214	4号平地建物	産	-	-	(14.0)	5YR 橙 6/6	良	
52	215	ビット141	板材	-	-	-			一部炭化
52	216	ビット141	柱丸材	-	-	-			
52	217	1号方形竈溝墓	小坏	5.8	4.6	4.0	5YR 鈍い橙 6/4	良	
52	218	1号方形竈溝墓	瓶	-	-	3.2	2.5YR 明赤褐 5/8	良	
52	219	1号方形竈溝墓	紡錘車	5.6	0.9	-	7.5YR 灰褐 5/2	良	
52	220	1号方形竈溝墓	手づくね土器	8.3	6.6	4.5	10YR 鈍い黄褐 6/3	良	
52	221	1号方形竈溝墓	骨	-	-	-			
52	222	1号方形竈溝墓	台付甕	23.8	-	-	5YR 橙 6/6	良	
52	223	1号方形竈溝墓	甕	(16.0)	-	-	5YR 橙 6/6	良	
52	224	1号方形竈溝墓	甕	(14.0)	-	-	10YR 灰黄褐 5/2	良	折り返し口縁
52	225	1号方形竈溝墓	台付甕か	-	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
52	226	1号方形竈溝墓	甕小窓	(17.8)	-	-	5YR 橙 6/6	良	
52	227	1号方形竈溝墓	甕	(17.0)	-	-	5YR 鈍い赤褐 6/4	良	
52	228	1号方形竈溝墓	台付甕	-	-	(9.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
52	229	1号方形竈溝墓	S字甕	-	-	9.4	2.5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
52	230	1号方形竈溝墓	産	14.8	-	-	5YR 橙 6/6	良	
52	231	1号方形竈溝墓	甕	-	-	4.0	2.5YR 明赤褐 5/6	良	タタキ目 体部に粘土帯
52	232	1号方形竈溝墓	甕	-	-	6.8	10YR 灰黄褐 5/2	良	
52	233	1号方形竈溝墓	甕	-	-	6.5	10YR 鈍い黄褐 6/3	良	底部へう調整
52	234	1号方形竈溝墓	加飾蓋	20.8	-	-	7.5YR 褐灰	良	輪積痕
53	235	1号方形竈溝墓	二枚板	-	-	-			
53	236	1号方形竈溝墓	不明木製品	-	-	-			柄に穿孔あり
53	237	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	238	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	239	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	240	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	241	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	242	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	243	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	244	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	245	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	246	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	247	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕 孔あり
53	248	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕 孔あり
53	249	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	250	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
53	251	1号方形竈溝墓	不明木製品	-	-	-			
54	252	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
54	253	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
54	254	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	255	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	256	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	257	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	258	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	259	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	260	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	261	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
54	262	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
55	263	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
55	264	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
55	265	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
56	266	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
56	267	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			削り痕
56	268	1号方形竈溝墓	紡錘車	-	-	-			一部炭化
55	269	1号方形竈溝墓	板皮	-	-	-			一部炭化
55	270	1号方形竈溝墓	板皮	-	-	-			
55	271	1号方形竈溝墓	板皮	-	-	-			
55	272	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			
55	273	1号方形竈溝墓	板材	-	-	-			

序

本書は、甲府市と甲斐市を結ぶ山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」の道路改良工事に先立ち、平成14・15年度に緊急発掘調査を実施いたしました塩部遺跡の発掘調査報告書であります。

塩部遺跡につきましては、昨年度にも山梨県都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事地点におきまして発掘調査を実施した成果を「塩部遺跡Ⅰ」として報告いたしました。「塩部町開国橋線」地区では、古墳時代の大規模な集落跡が確認されましたが、このたび発掘調査の運びとなりました地点では、弥生時代後期から古墳時代初頭の建物跡や溝跡などを確認しております。弥生時代末期と考えられます大規模な溝跡からは、焼け落ちた建築材料などとともに、甲府盆地内では初めての確認例となる西日本の技術で製作された土器が多数出土いたしました。山梨県内におきましても巨大な古墳が出現する時期でもありますので、当時の人々の動きを知る重要な手掛かりとなりました。

本書は、こうした貴重な調査成果を記録し、後世に引き継いでいくとともに、広く活用いただくことを目的に刊行しておりますが、調査成果が甲府市の歴史のみならず、古代史全体の解明に寄与することを願わずにはられません。

最後になりましたが、このたびの発掘調査にあたり、御協力を賜りました山梨県峡中地域振興局をはじめといたします関係各位に心より御礼を申し上げますとともに、本市文化財保護行政の更なる推進に引き続き御助力をいただけますよう、お願い申し上げます。

平成17年3月

甲府市教育委員会
教育長 角 田 智 重

例 言

1. 本書は山梨県甲府市塩部二丁目地内に所在する塩部遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴うものであり、山梨県峡中地域振興局との協定に基づき、甲府市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査経費は、試掘調査を甲府市教育委員会、本調査を山梨県峡中地域振興局が負担した。
4. 試掘調査及び本調査は、佐々木満（文化芸術課文化財主事）が担当した。
5. 発掘調査の期間及び面積は以下の通りである。

平成14年度調査

試掘・範囲確認調査

平成14年7月25日～平成14年9月7日 調査面積 約100㎡

本調査

平成14年11月7日～平成14年12月27日 調査面積 約250㎡

平成15年度調査

試掘調査

平成15年6月2日～平成15年6月10日 調査面積 約30㎡

本調査

平成15年6月2日～平成15年10月17日 調査面積 約1400㎡

平成16年1月29日～平成16年2月2日 調査面積 約170㎡

6. 本書の執筆は、第4章 考察 第1節を除き佐々木満が行い、図化作業は中村里恵・清水秀樹（文化芸術課嘱託職員）・内藤真千子・西久保民子・栗田かず子・鈴木由香・佐野香織・中込三子・野沢喜美・小林小路が行った。
7. 国土座標測量及び航空写真測量は、(株)シン技術コンサルに委託した。
8. 出土木製品の保存処理及び土器の胎土分析は、(財)山梨文化財研究所に委託した。
9. 本書の編集は、中込 功（文化芸術課長）を責任者とし、佐々木満が行った。
10. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の機関及び諸氏から御指導・御協力を賜った。記して厚く感謝申し上げます。

山梨県峡中地域振興局建設部都市整備課・山梨県教育委員会学術文化財課・(財)山梨文化財研究所・湯村自動車学校・植月 学・河西 学・橋原功一・小林健二・中山誠二・畑 大介・保坂和博・宮澤公雄

12. 発掘調査参加者

新谷 典宏	遠藤 美子	池谷富上子	岡 悦子	小沢 四郎	金井いく代
川口 格一	岸本 美苗	工藤 忠誠	倉田 勝子	窪田 信一	小池 幹子
小泉 仁美	小宮 通子	佐田 金子	佐藤美喜男	清水 秀樹	菅沼 芳治
鈴木 正文	末木 義光	高橋 主税	武井美知子	武井 裕太	手塚 房子
富永 茂樹	長澤 晴雄	中村 孝一	並木 寿子	波木井祥和	花曲 敬子
樋口 進	広瀬 夕輔	古屋袈裟男	福澤 正樹	堀江 泉	望月 宏美
望月貴美子	望月奈津美	矢崎 七瀬	柳瀬 朋子	渡辺百合子	渡辺 圭太

凡 例

1. 発掘調査の測量においては、日本測地系X-36800.00・Y-5340.00を基軸として5mグリッドを設定している。
2. 本書に掲載した地図は、平成14年要部修正50万分の1地方図(4)関東甲信越、平成3年度甲府市都市計画図2500分の1・10000分の1を用いた。
3. 遺構断面土層の色調及び遺物観察表中の色調は、『標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期)に基づいている。
4. 遺構・遺物の実測図縮尺は、基本的には溝跡1/40、竪穴・平地建物跡1/60、掘立柱建物跡1/80、方形周溝墓1/100、土塋1/40、出土遺物1/4であるが、建物跡や遺物の木製品には例外もあり、図中に示した各スケールを参照願いたい。
5. セクション図に表記されている水平線の数値は、海拔高度を表し、単位はmである。また、セクションポイント表記のE・W・S・Nは、東西南北を表し、同じ遺構で複数の断面観察を行っているところは、アルファベットで表記している。
6. 16・17号竪穴建物跡遺物分布図中にある●印は下層出土、▲印は上層出土を示す。
7. 遺物実測図で反転復元したものについては、実測部分と復元部分の間にスペースを設けているが、全体を反転復元したものについては、中央線部でスペースを設けて区別した。
8. 本書作成に際して引用・参考にした文献は、一括して本書第4章末尾に記載した。
9. 本書に使用した記号及びスクリーントーンは、以下のとおりである。

・遺物赤色塗彩
・遺構炭化範囲



・遺物炭化範囲



・遺構焼土、炉



・木



目 次

序

例 言・凡 例

目 次

挿図・挿表目次

第1章	調査の概要	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	試掘確認調査と基本層序	1
第3節	調査の方法	4
第4節	調査の経過	4
第2章	塩部遺跡の概要	7
第1節	遺跡の立地環境	7
第2節	歴史的環境	7
第3節	周辺の遺跡	8
第3章	遺構と遺物	9
C地区		
第1節	溝 跡・川 跡	9
第2節	建物跡及び柱穴列	20
(1)	竪穴建物跡	20
(2)	平地建物跡	49
(3)	掘立柱建物跡	53
(4)	柱 穴 列	56
第3節	方形周溝墓	59
第4節	土 壙	61
第5節	遺構外出土遺物ほか	63
D地区		
第1節	溝 跡	87
第2節	建物跡	88
(1)	竪穴建物跡	89
(2)	掘立柱建物跡	89
第3節	土 壙	89
第4章	考 察	93
第1節	塩部遺跡出土土器の胎土分析	93
第2節	塩部遺跡の土器様相	98
第3節	塩部遺跡の集落変遷	99
第5章	結 語	105

写真図版

付図：平成14年度調査区全体図

平成15年度調査区全体図

挿図・挿表目次

図1 調査区位置図	2	図40 1号方形周溝墓	60
図2 試掘調査区及び本調査区位置図 (縮尺1:1000)	3	図41 1~7号土壌	62
図3 グリッド配置図	6	図42 19・20・23・24号溝跡出土遺物	71
図4 塩部遺跡及び周辺遺跡分布図	8	図43 24号溝跡出土遺物(1)	72
図5 12・13・18・19号溝跡	13	図44 24号溝跡出土遺物(2)	73
図6 20・21号溝跡	14	図45 24号溝跡、川跡出土遺物	74
図7 24号溝跡	16	図46 川跡、1~3号竪穴建物跡出土遺物	75
図8 各溝跡セクション図	17	図47 5~10・12・13号竪穴建物跡出土遺物	76
図9 1号竪穴建物跡	22	図48 13~15号竪穴建物跡、 16号溝跡出土遺物	77
図10 1・2号竪穴建物跡	23	図49 16号竪穴建物跡出土遺物(1)	78
図11 2・3号竪穴建物跡	24	図50 16号竪穴建物跡出土遺物(2)	79
図12 3・4号竪穴建物跡	25	図51 17・19~22号竪穴建物跡、 1・2・4号平地建物跡出土遺物	80
図13 5号竪穴建物跡	26	図52 4号平地建物跡、 1号方形周溝墓出土遺物	81
図14 6号竪穴建物跡	27	図53 1号方形周溝墓出土遺物(1)	82
図15 7・8号竪穴建物跡	30	図54 1号方形周溝墓出土遺物(2)	83
図16 8~10号竪穴建物跡	31	図55 1・2号方形周溝墓、3号土壌、 77号ピット出土遺物	84
図17 10・11号竪穴建物跡	32	図56 Grid出土遺物(1)	85
図18 12・13号竪穴建物跡	33	図57 Grid出土遺物(2)	86
図19 13号竪穴建物跡	34	図58 D区1号竪穴建物跡	90
図20 14号竪穴建物跡(1)	35	図59 D区1号掘立柱建物跡、 1・2号土壌、D区全体図	91
図21 14号竪穴建物跡(2)	36	図60 D区1号竪穴建物跡、2号土壌、 調査区出土遺物	92
図22 14号竪穴建物跡(3)	37	図61 上九一色村西一条遺跡出土土器	101
図23 15号竪穴建物跡	38	図62 C地区遺構変遷図	102
図24 16号竪穴建物跡(1)	39	図63 塩部遺跡B・C地区遺構展開図	103
図25 16号竪穴建物跡(2)	40	図64 平成14年度調査区溝跡全体図	104
図26 16号竪穴建物跡(3)	41	図65 塩部東側確認調査区全体図	104
図27 17号竪穴建物跡	43		
図28 17・18号竪穴建物跡	45		
図29 19号竪穴建物跡	46		
図30 20号竪穴建物跡	47		
図31 21号竪穴建物跡	48		
図32 22号竪穴建物跡	49		
図33 1号平地建物跡	50		
図34 2号平地建物跡	51		
図35 3号平地建物跡	52		
図36 4号平地建物跡(1)	54		
図37 4号平地建物跡(2)・5号平地建物跡	55		
図38 1~4号掘立柱建物跡及び 1~3号柱穴列	57		
図39 掘立柱建物跡及び柱穴列セクション、 2号方形周溝墓	58		
		ピット観察表	64
		出土遺物観察表	66
		弥生末期から古墳時代前半の土器編年対比表	101

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に先立ち、平成14年6月5日付け峡中建設15第6-2号により、山梨県峡中地域振興局建設部長名で周知の埋蔵文化財包蔵地である塩部遺跡の発掘調査が通知された。しかしながら、開発対象区域の大部分は、直接的には塩部遺跡包蔵地外での計画であったため、平成14年7月25日から9月7日までの期間内で開発予定区域の遺跡の有無や時代、状況、範囲などの確認を含む試掘調査を実施することとなったが、試掘調査に関わる費用は、甲府市教育委員会が国庫補助事業費で対応した。

調査の結果、湯村自動車学校旧二輪車教習所敷地周辺の塩部2丁目地区内から弥生時代末期を主体とする遺構・遺物が検出されたため、山梨県峡中地域振興局建設部側と協議を行い、旧二輪車教習所東側一帯を平成14年度に調査し、旧二輪車教習所を含む西側一帯を平成15年度に調査することとした。

全体として2ヵ年にわたる調査となったが、本調査に関する調査や費用、事務処理については、各年度において甲府市教育委員会と山梨県峡中地域振興局建設部との間に協定を締結し、発掘調査及びその後の整理作業を含めた本報告書作成費用は原因者側の負担とすることで合意した。平成14年度については、10月25日に発掘調査に関する協定を締結し、11月7日から発掘調査に着手した。平成15年度については、5月13日に協定を締結し、6月2日から試掘調査を含む発掘調査を開始した。最終的に県道「愛宕町下条線」塩部工区の道路改良工事予定面積延べ4,400㎡のうち、埋蔵文化財に係る総調査面積は約1,920㎡となった。

第2節 試掘確認調査と基本層序

調査対象地点は、用地買収の進捗状況や塩部町開国橋線と接続する橋梁工事、調査から排出される土砂置場などとの関係上、全体を一度に調査することが不可能であったため、試掘調査及び本調査は、用地取得が終了した地点から順次行うこととした。

平成14年度には湯村自動車学校旧二輪車教習所を挟む東西3箇所にてトレンチを設定し、約45㎡の面積を試掘調査とした。まず、比較的まとまった調査地が確保されたトレンチ2・3地区から着手したが、トレンチ2では比較的浅い場所から時期不明の溝状遺構と僅かな遺物が検出された。トレンチ3については、包含層まで攪乱された状況であり、地山上で遺構のような痕跡を確認したものの、いずれも遺構とは断定し難い状況であった。続いて東側の小区画内でトレンチ1を設定して調査を開始したところ、多数の遺物とともに遺構の一部分と思われる土層堆積が確認されたため、正確な状況を把握するために全体を拡張し、確認調査を進めた。調査により溝跡や堅穴建物跡など弥生時代末期と考えられる複数の遺構が検出されたため、調査対象をトレンチ1からトレンチ2の範囲内に絞り込んだ。したがって、遺構が密に検出された湯村自動車学校旧二輪車教習所南側を平成14年度で調査し、その間に位置する湯村自動車学校旧二輪車教習所内については不確定要素が多かったが、建物部分を除く教習コース内に遺構が残存する可能性が高いと判断し、トレンチ2を含む旧二輪車教習所内を平成15年度調査区とした。

平成15年度には湯村自動車学校旧二輪車教習所の移転が完了し、解体後本調査に着手したが、その一方で工区西側の富士見通りとの接続部付近が未確認であったため、新たにトレンチ4を設定して約30㎡の試掘調査を実施した。確認数は少ないものの溝状遺構などを数条確認したことから、湯村自動車学校旧二輪車教習コース側の調査とは時期を別して、遺構が確認された地点周辺の約170㎡を追加調査した。



图1 調査区位置図

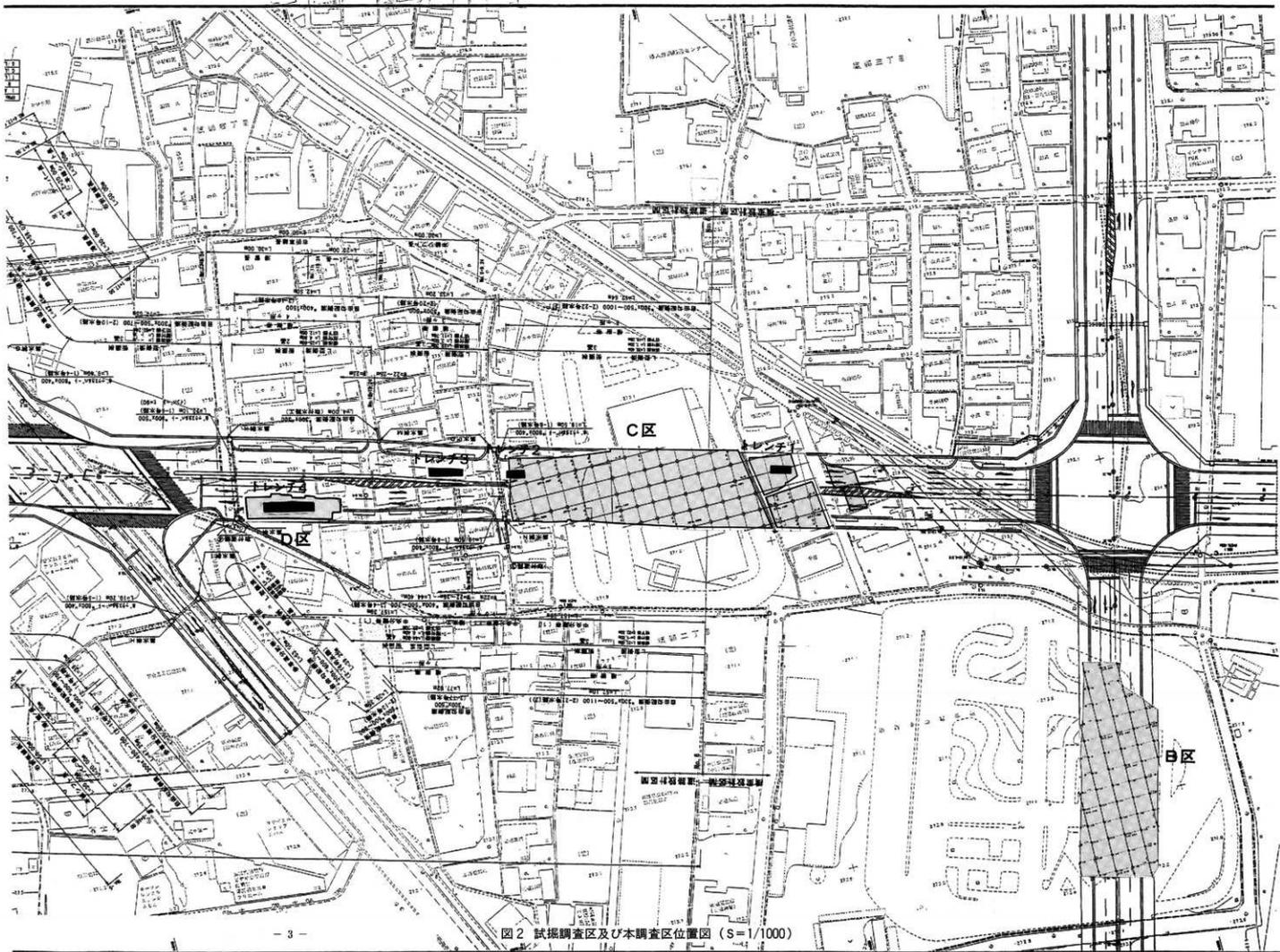


图2 試操調査区及び本調査区位置图 (S=1/1000)

基本層序は、現地表で約20cmの盛土があり、水田耕作土層が約20cm、床土層が約5cm確認された。水田面はその下層にも存在し、耕作土層約5cm、床土層が約5cm確認され、水田面だけでも2面確認されたが、出土遺物等から上層の水田は近代から現代まで使用され、下層は中世の遺物などが出土したものの、江戸期に入ってから地業と考えられる。水田層直下には黒色粘質土が5～10cmほど堆積していたが、時期や性格を示す遺構・遺物は検出されなかった。黒色土を除去すると、10～15cmほど黄褐色の粗粒砂層が検出された。粗粒砂層は今回の調査区全体で確認されており、堆積状況からある時期の洪水層と考えられる。粗粒砂直下は、再び黒色粘質土が30cm前後堆積していたが、中から弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が多数出土し、同時に遺構も黒色土層上で確認できるものが存在した。黒色土直下は黄褐色粘質土の地山であったことから、基本的に本調査段階では黄褐色粗粒砂層を除去した黒色土層上で調査することとした。

第3節 調査の方法

本調査対象地区は、用地買収の進捗状況や工期との調整もあり、前述のとおり大きく平成14年度と平成15年度の2ヶ年に分割して調査することとした。また、各年度の中でも掘削土砂の仮置き場の確保などから一度に調査することが困難であったため、2・3箇所に分割して調査を行った。これまで都市計画道路に関連した一帯の調査が数箇所で行われているため、甲府市教育委員会2004「塚部遺跡Ⅰ」で調査区を区分しているが、平成14・15年度調査区は塚部C区と位置づけた。また、平成15年度調査区のうち、やや離れた場所に位置するトレンチ4を主体とした調査区をD区として取り扱った。

本調査区は、調査対象面積約4,400㎡のうち、隣地境界部分の控えや攪乱などによる遺構未確認地点などを除く約1,920㎡を調査した。重機による掘削は、基本的に現地表から黄褐色粗粒砂層までとし、遺跡全体を覆っていた黒色土（包含層）以下は、攪乱を除去すべて人力により掘削した。

調査及び測量は、国土座標に合わせた5m×5mグリッドを基本単位として設定し、東西列を算用数字、南北列をアルファベットで表記したものを組み合わせてグリッド番号として用いた。各グリッド番号は南東隅にあたる杭を基準とし、遺構実測、遺物取り上げ等に際しては、すべてグリッドに合わせて記録した。

第4節 調査の経過

①平成14年度調査

発掘調査は、範囲確認に伴う試掘調査を平成14年7月25日から9月7日まで、本調査を11月7日から平成14年12月27日まで実施している。調査の主な進捗状況は以下のとおりである。

- 7月25日 試掘調査区設定。重機によりトレンチ2・3掘削。
- 7月29日 人力によりトレンチ1掘削。
- 8月2日 重機によりトレンチ1拡張。
- 8月3日 溝跡と竪穴建物跡らしい平面形確認。
- 8月4日 1号方形周溝墓、1号竪穴建物跡掘削開始。
- 8月8日 調査を中断し、取り扱いについて協議。
- 8月30日 調査を再開し、東側へ範囲確認調査区を拡張。
- 9月2日 2・3号竪穴建物跡掘削開始。
- 9月7日 確認調査終了。本調査に向けた協議を進める。
- 11月7日 本調査開始。南側本調査区を重機により掘削開始。
- 11月13日 調査区内国土座標杭打ち。

- 11月14日 1・2号方形周溝墓掘削開始。
- 11月27日 5・6・9号竪穴建物跡掘削開始。
- 11月28日 10・11号竪穴建物跡掘削開始。
- 12月5日 12号竪穴建物跡掘削開始。
- 12月12日 7・8号竪穴建物跡掘削開始。1号平地建物跡範囲確認。
- 12月15日 2号平地建物跡範囲確認。
- 12月16日 空中写真測量実施。
- 12月17日 重機による調査区埋め戻し。
- 12月18日 東側確認調査区掘削。
- 12月20日 21・22号竪穴建物跡掘削開始。
- 12月27日 重機による調査区埋め戻し。平成14年度調査終了。

②平成15年度調査

- 平成14年度調査を受け、湯村自動車学校旧二輪車教習所跡地及び西側の調査を平成15年6月2日から平成15年10月17日まで実施している。調査の主な進捗状況は以下のとおりである。
- 6月2日 現地確認、調査範囲設定。
 - 6月6日 試掘調査開始。(9日まで)
 - 6月10日 重機により本調査区東側掘削開始。(12日まで)
 - 6月13日 調査区内国土座標杭打ち。(14日まで)
 - 6月20日 「コ」の字型に展開する粗粒砂の帯を確認。平成14年度調査区と合わせて1号方形周溝墓と認識。
 - 6月26日 1号方形周溝墓掘削開始。規模も大きく長期継続調査。
 - 7月24日 ビット群掘削開始。
 - 8月1日 調査区中央に位置する川跡掘削開始。
 - 8月7日 16号竪穴建物跡掘削開始。
 - 8月11日 14・15号溝跡掘削開始。(これより順次溝跡掘削)
 - 8月20日 13号竪穴建物跡掘削開始。
 - 8月21日 14号竪穴建物跡掘削開始。
 - 8月22日 15号竪穴建物跡掘削開始。(途中16号溝跡との新旧関係確認)
 - 8月27日 13号竪穴建物跡掘削中7号土壌確認。
 - 9月2日 17号竪穴建物跡掘削開始。
 - 9月17日 1回目の空中写真測量実施。
 - 9月19日 調査区東側埋め戻し開始。(20日まで)
 - 9月29日 調査区内国土座標杭打ち。
 - 10月2日 24号溝跡掘削開始。(この段階では全容が不明であったため方形周溝墓と認識)
 - 10月3日 18号竪穴建物跡、4号平地建物跡ビット群掘削開始。
 - 10月9日 19・20号竪穴建物跡掘削開始。
 - 10月10日 2回目の空中写真測量実施。
 - 10月11日 重機による調査区埋め戻し。(14日まで)
 - 10月17日 機材撤去も含め完全撤収。
 - 1月29日 D地区調査区設定。重機による調査区掘削。
 - 1月30日 各溝跡掘削開始。
 - 1月31日 1号竪穴建物跡。ビット掘削開始。
 - 2月1日 調査区全体撮影。
 - 2月2日 重機による調査区埋め戻し。平成15年度調査終了。

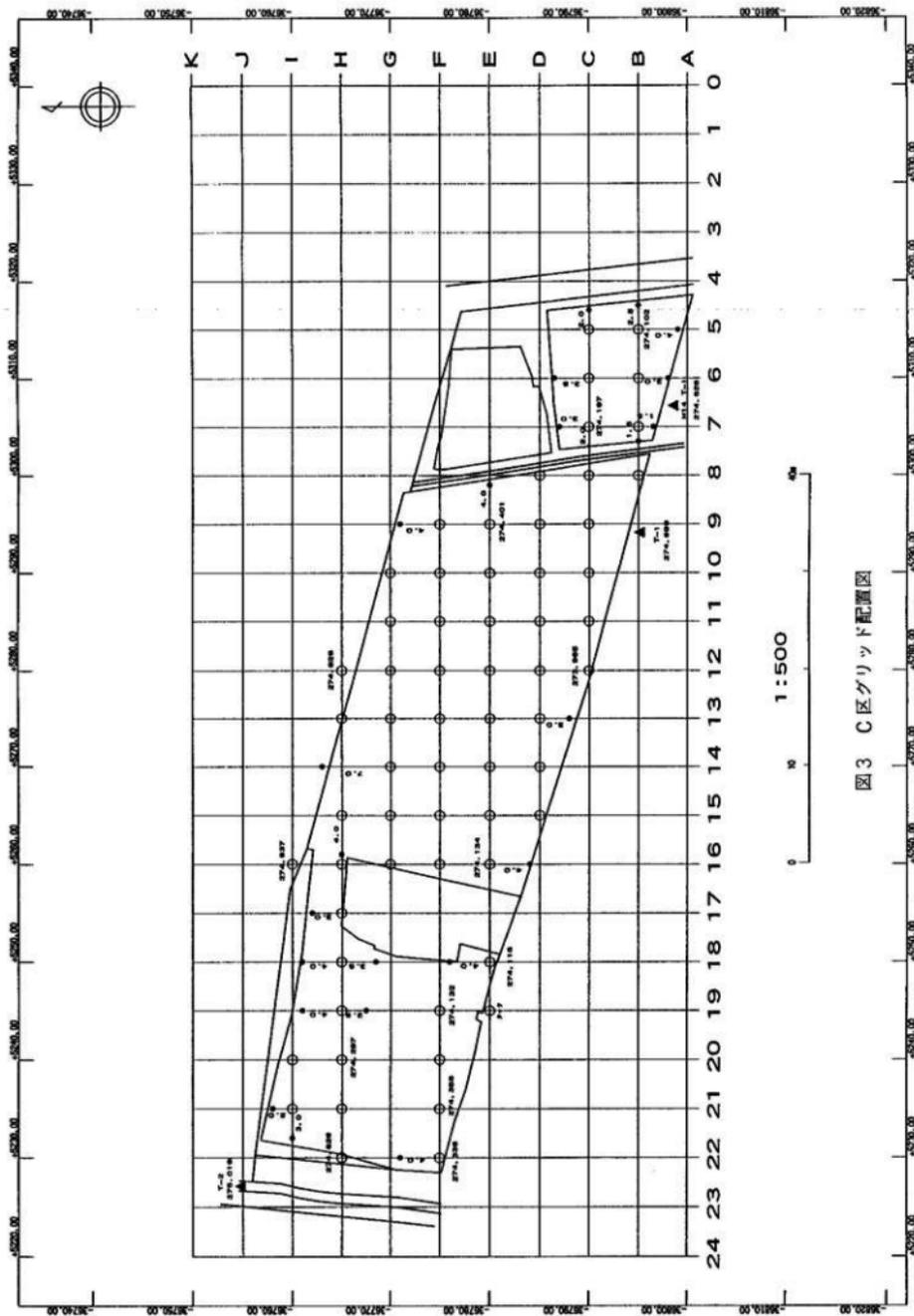


図3 C区グリッド配置図

第2章 塩部遺跡の概要

塩部遺跡の概要については、都市計画道路「塩部町開国橋線」道路改良工事に先立つ塩部遺跡の発掘調査（以下、「塩部B地区」という）成果をまとめた「塩部遺跡Ⅰ」の記載を参照願いたい。塩部B地区や周辺部の遺跡の調査成果を踏まえ、若干の補足をしておく。

第1節 遺跡の立地環境

塩部遺跡は、甲府市中央部を南流する相川によって形成された扇状地の扇端部に立地する。秩父山系に源流を発する荒川と相川に挟まれた当地域は、微高地と低湿地が複雑に発達していたことが最近の調査によっても明らかになりつつある。地形的にも甲府工業高校地区から西へ緩やかに下ってきた微高地傾斜面末端に位置すると考えられるが、本調査区内でもこの地域特有の黒色粘質土が堆積する低地部と黄褐色土粘質土で形成される安定した地盤の微高地が複雑に入り組んで展開する様子が確認されている。その微高地上には集落が営まれ、低地部は土器捨て場化していったことが調査により確認されている。

また、塩部遺跡内では甲府工業高校地区や塩部B地区南側において川跡を確認しているが、今回の調査区内からも新たに旧河川が発見されている。南流する川跡は位置と方向から相川かあるいは相川支流と考えられるが、相川も現在地を南流するまでには大きく流路を変更していることが窺え、河川の移動によっても複雑な地形が形成されていったと考えられる。本調査区一帯からは、古墳時代後期以降に発生した洪水によって堆積した粗粒砂層が全面で検出されているが、ある時期に大水害が発生し、相川は本調査区域から東側へ徐々に流路を変更させたと考えられる。

第2節 歴史的環境

塩部一帯の歴史的環境については、微高地と低湿地あるいは後背湿地が複雑に発達した地形であることは前述のとおりであるが、そうした微高地上に縄文時代中期から生活の痕跡が確認されている。やがて弥生時代後期頃には大きな集落が形成され始め、本地区周辺に集約され始めると考えられる。古墳時代初頭から後期にかけては、多数の掘立柱建物跡を伴う塩部B地区周辺が大きな集落として成立する。同時期の集落は、南側に位置する飯田一丁目地点周辺でも確認されていることから、大きく2箇所の微高地上に集落が展開するものと考えられる。

奈良・平安時代の状況は不明部分が多いが、集落の一部と考えられる竪穴建物跡などが県立甲府工業高校地点で確認され、川跡からは斎申や人形木製品が出土している。塩部B地区からは遺構は検出されなかったが、調査区内から瓦塔片が出土していることを考慮すると、寺院を有する集落が周辺に存在する可能性が高いことが予測される。

中世には塩部郷と呼ばれた当地域は、甲斐源氏武田有義を始祖とする塩部・小松・飯田氏の所領が存在していたと考えられる。庄域は不明であるが、有義開基と伝える法輪寺（現在丸の内三丁目所在）が文禄年間まで横沢（現甲府市朝日内）に存在し、戦国期には付近に三口市場が設置されていたことから、塩部の中心は、西から東へと移動しながら連続と続いたものと考えられる。また相川の流路変更が集落の存続に影響を及ぼしているか否かは現時点では確認できないが、地形の変化と集落の動きが無関係ではないように感じられ、今後交通路も含めた検討が可能であれば、より具体的に塩部地域の集落構造の解明につながるのではないかと考えられる。

第3節 周辺の遺跡

塩部遺跡周辺は、東側に近世の城下町遺跡である甲府城下町遺跡の包蔵地が広範囲に展開している。北側には古墳時代の遺構・遺物が確認されている緑ヶ丘一丁目遺跡があり、そのすぐ北側には古墳時代から平安時代まで続く緑ヶ丘二丁目遺跡が所在している。西側には荒川の脇に富士見遺跡（県埋蔵文化財センター調査では富士見一丁目遺跡）があり、弥生末期から古墳時代の水田跡が検出されている。富士見遺跡より荒川上流部には音羽遺跡があり、奈良・平安時代の大集落が調査されている。また、荒川の対岸には前田遺跡が所在しているが、これまでにまとまった調査事例がないため、遺跡の全体像は不明である。南側については今のところ明確な包蔵地指定はないものの、塩部遺跡内で飯田一丁目付近を調査した際に、遺構が南側に展開する状況が確認されたため、同地域に古墳時代の集落が展開する可能性が考えられる。

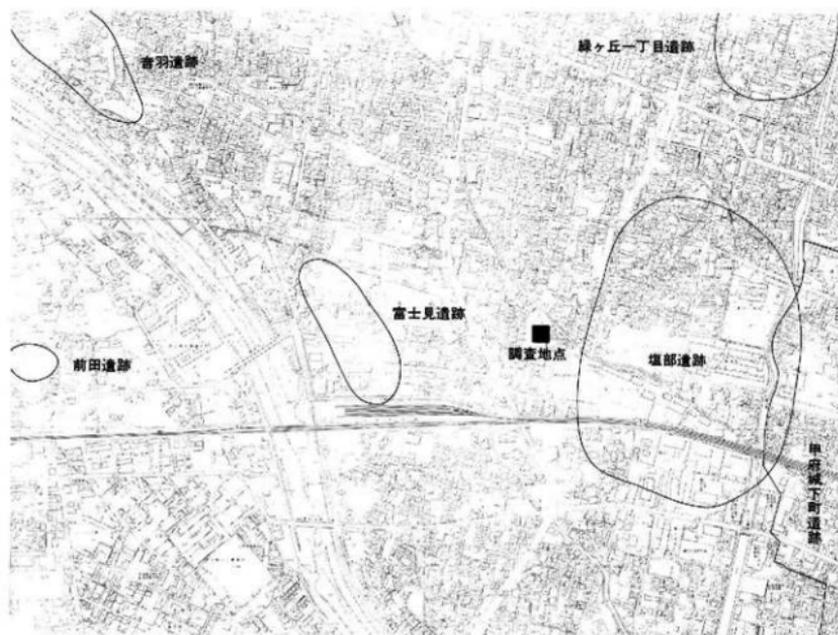


図4 塩部遺跡及び周辺遺跡分布図

第3章 遺構と遺物

C地区

平成14・15年度の2年度にわたり分割調査しており、調査面積は1,750㎡である。本調査区で検出された各遺構数は、東側の調査拡張区も含めて溝跡34、川跡1、竪穴建物跡22、平地建物跡5（炉跡を有する掘立柱建物跡を平地建物跡と呼称し、本報告では以降その名称を用いることとする）、掘立柱建物跡4、柱穴列3、方形周溝墓2、土壇7、ビット170（掘立柱建物跡なども含む）である。主な遺構の時期は、弥生時代末期から古墳時代初頭までの遺構群と考えられる。

第1節 溝跡

調査区全体で大小34条の溝跡が検出されている。本地区における溝跡の多くは、浅く細長い畝状の溝跡であるが、中には16号溝跡のような建物跡などの排水溝あるいは区画溝として機能していたものも存在する。

1号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：D-6及びE-6グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約6.0m、幅約0.4m、確認面から深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：3号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

2号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：D-5グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約2.3m、幅約0.3m、確認面から深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：重複なし。

出土遺物：甕や高坏などの土器片が微量出土している。

3号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：A-4～A-5グリッド

検出状況：やや湾曲した溝跡で、北東から南西方向に調査区外へ延長する。検出範囲内では全長約7.0m、幅約0.4m、確認面から深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：12号溝跡、9号竪穴建物跡、1号平地建物跡、52号ビットより新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が少量出土している。

4号溝跡（遺構：全体図中 遺物：図43）

位置：B-6～B-7グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、東で6号溝跡に接続し、西は調査区外へ延びる。検出範囲内では全長約2.3m、幅約0.2m、確認面から深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：84号ビットより新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

5号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：A-4～A-5グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、大部分は調査区外に展開するものと考えられる。検出範囲内では全長約4.2m、幅約1.7m、確認面から深さ約0.3mである。当初の確認段階では溝跡上層には調査区全体を覆っていた粗粒砂層が入り込んでいたことから、洪水直前まで溝跡の落ち込みは存在していたと考えられる。全体規模や用途は不明である。

重複関係：10号竪穴建物跡、3号土壇、46～50号ピットより新しい。

出土遺物：甕や壺、高環などの土器片がみられ、溝跡の中では比較的まとまった量が出土している。

6号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：A-6及びB-6～B-7グリッド

検出状況：北西から南東方向に延びる溝跡で、北側は調査区外に延びる。検出範囲内では全長約8.8m、幅約0.35m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：6・11号竪穴建物跡、66・68・74・79・84・86号ピットより新しい。また、4・7・8・10・11号溝跡との重複関係は不明であるが、同時期の遺構と考えられる。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

7号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：B-6グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約4.5m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：80号ピットより新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

8号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：B-6及びC-6グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約4.5m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：5・6号竪穴建物跡、19号ピットより新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

9号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：B-4～B-6グリッド

検出状況：東西方向に弱く蛇行するように延びる溝跡で、西側は6号溝跡付近で止まる。検出範囲内では全長約10.7m、幅約0.4m、確認面からの深さ0.2mであり、性格等は不明である。

重複関係：2号平地建物跡より古く、13号溝跡、11号竪穴建物跡、2号平地建物跡、40・69～71号ピットより新しい。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

10号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：B-5グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、東側は6号溝跡に接続し、西は調査区外へ延びる。検出範囲内では全長約1.2m、幅約0.3m、確認面から深さ0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：2号方形周溝墓より古い。

出土遺物：なし。

11号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：B-5～B-6グリッド及びC-5グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、西側は6号溝跡付近で止まり、東側は調査区外に延びる。検出範囲内では全長約12.5m、幅約0.3m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：30号溝跡、7・11号竪穴建物跡、68・77号ピットより新しい。

出土遺物：甕や高環などの土器小片が微量出土している。

12号溝跡（遺構：図5 遺物：掲載なし）

位 置：A-4～A-5グリッド

検出状況：北東から南西方向に調査区外へ延びる溝跡で、検出範囲内では全長約5.4m、幅約1.1m、確認面からの深さ約0.3mである。北側には同規模の13号溝跡が直交する角度で延びていることから、関連遺構である可能性がある。

重複関係：3号溝跡、9号竪穴建物跡、2号孤立柱建物跡より古い。

出土遺物：甕などの土器小片が少量出土している。

13号溝跡（遺構：図5 遺物：掲載なし）

位 置：B-4及びC-5グリッド

検出状況：北西から南東方向に調査区外へ延びる溝跡で、検出範囲内では全長約7.0m、幅約1.3m、確認面からの深さ約0.3mである。12号溝跡が直交する位置関係にある。

重複関係：11号溝跡、7号竪穴建物跡、36号ピットより古く、9号溝跡より新しい。

出土遺物：甕や高環の破片が少量出土している。

14号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：D-11グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、東側は攪乱されていた。検出範囲内では全長約2.4m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。性格等は不明である。

重複関係：なし。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

15号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：F-14グリッド

検出状況：東西方向にやや湾曲しつつ延びる溝跡で、両端は攪乱されていた。検出範囲内では全長約3.4m、幅約1.5m、確認面からの深さ約0.2mである。性格等は不明である。

重複関係：なし。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

16号溝跡（遺構：図20・21 遺物：図48）

14号竪穴建物跡の周溝と考えられるため、第2節 建物跡 14号竪穴建物跡で報告する。

17号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：C-8～C-9グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約3.0m、幅0.45m、確認面からの深さ0.2mである。性格等は不明である。

重複関係：16号溝跡、15号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：なし。

18号溝跡（遺構：図5 遺物：掲載なし）

位置：E-11・12及びF-11グリッド

検出状況：北東から南西方向に延び、北側から南側へ緩く傾斜していた。両端は攪乱されていたが、検出範囲内では全長約10.2m、幅約1.0m、確認面からの深さ約0.4mである。

川跡と並行しているが、性格等は不明である。

重複関係：なし。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

19号溝跡（遺構：図5 遺物：図42）

位置：C-8～C-9及びE-7グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、平成14年度調査区において一部分が検出されている。検出範囲内でE-7グリッドまで含めた全長は約12.0m、幅0.85m、確認面からの深さ0.9mである。14号溝跡下へ若干延びていたが、途中で止まるものと考えられた。性格等は不明であるが、何らかの区画溝の可能性はある。

重複関係：16号溝跡、14号竪穴建物跡より古く、20・21号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は1である。ほかに甕などの土器小片が少量出土している。

20号溝跡（遺構：図6 遺物：図42）

位置：D-8・9及びE-9、F-8グリッド付近

検出状況：平成15年度調査区内東側で円形を描くように検出された溝跡で、両端は調査区外へ延びていた。検出範囲内では半円形の直径で約12.2m、溝幅約1.0m、確認面からの深さ約0.5mである。これまでの調査成果を考慮すると建物跡の周溝である可能性が高いが、溝内側で建物跡に係る明確な遺構は確認できなかった。

重複関係：16号溝跡、16・17号竪穴建物跡、3号平地建物跡、1号方形周溝墓より古い。19号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は2・3である。ほかに甕などの土器小片が少量出土している。

21号溝跡（遺構：図6 遺物：掲載なし）

位置：D-8及びE-7・8グリッド

検出状況：平成14・15年度調査区内で円形を描くように検出された溝跡であり、検出範囲内では円形の直径で約7.2m、溝幅約0.45m、確認面からの深さ0.5mである。20号溝跡の内側に位置するが、20号溝跡同様建物跡の周溝と考えられる。

重複関係：1・16号竪穴建物跡、1号方形周溝墓より古い。19号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

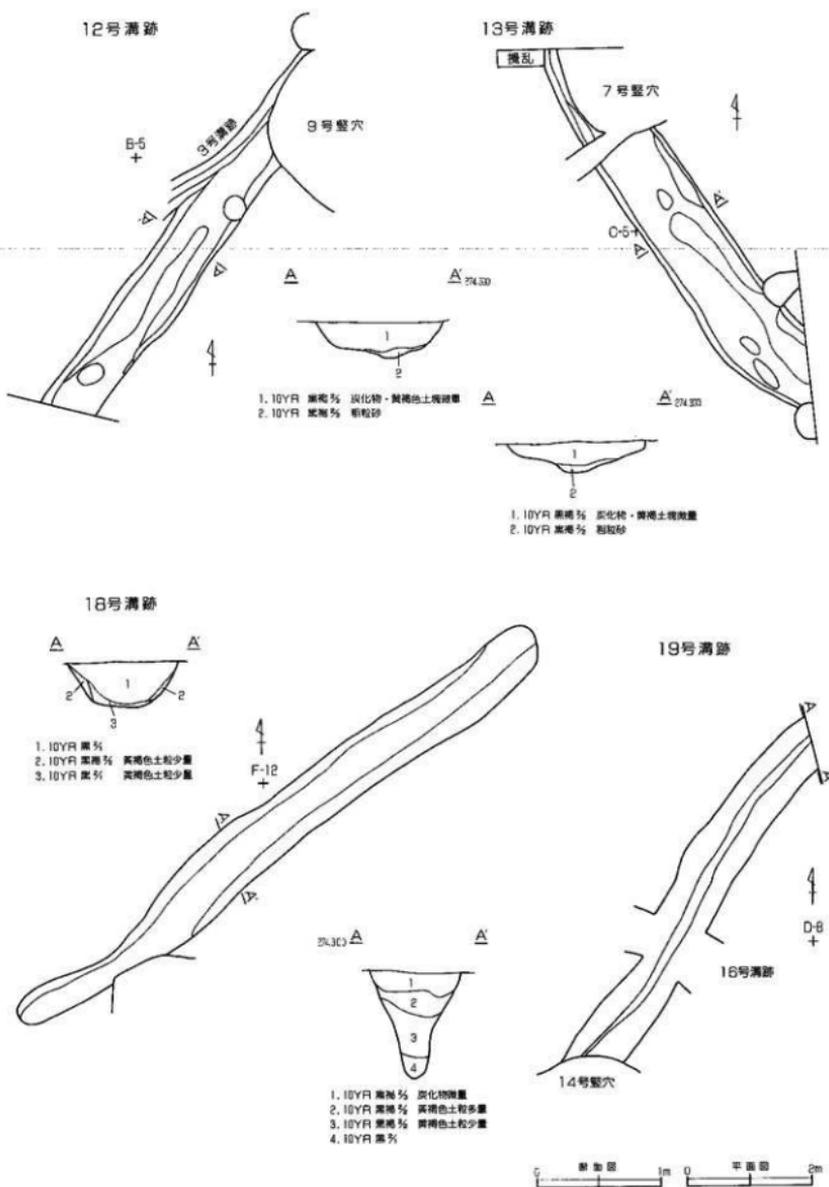


图5 12·13·18·19号沟迹

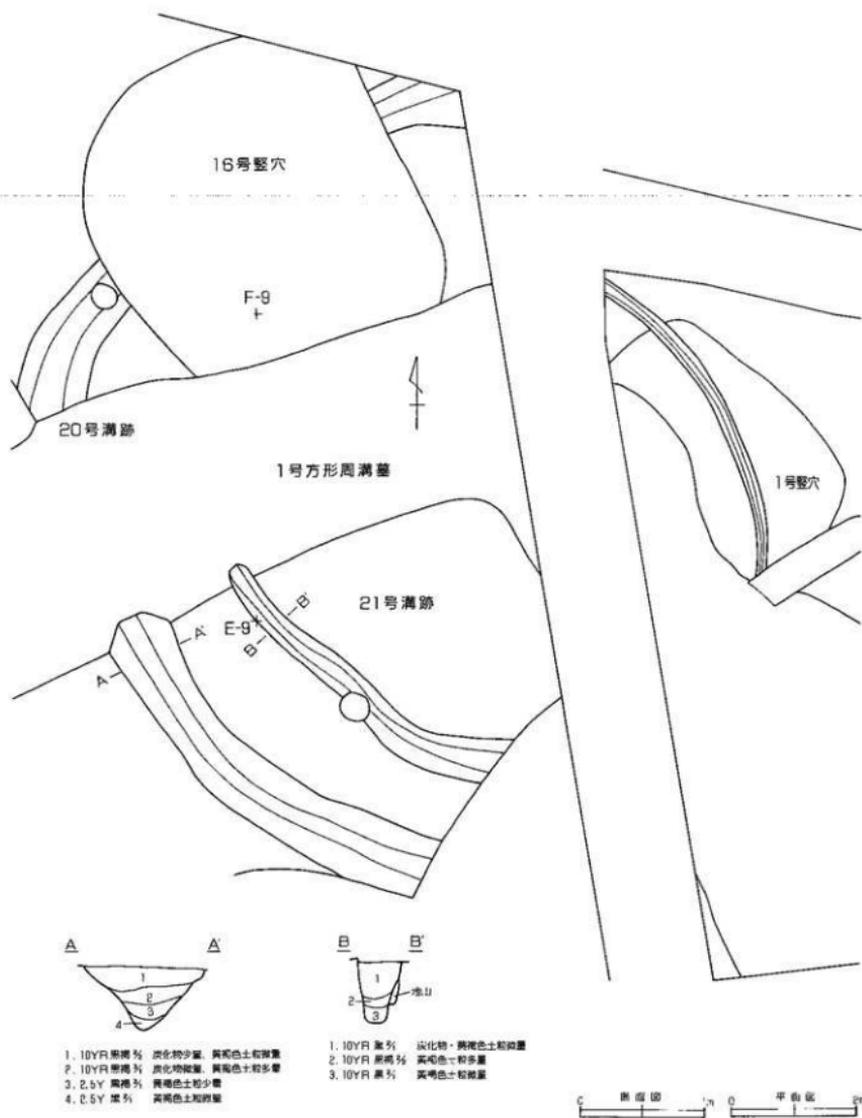


图6 20·21号溝跡

22号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：D-8及びE-8グリッド

検出状況：南北方向に延びる溝跡で、南端は16号溝跡との接点で止まる。検出範囲内では全長約5.3m、幅約0.6m、確認面からの深さ約0.9mである。性格等は不明である。

重複関係：16号溝跡より古い。20・21号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が5点のみ出土している。

23号溝跡（遺構：全体図中 遺物：図42）

位 置：D-17及びE-18・19、F-19・20、G-20グリッド

検出状況：北西から南東方向に蛇行しつつ延びる溝跡で、検出範囲内では全長約19.0m、幅約0.6m、確認面からの深さ約0.2mである。性格等は不明である。

重複関係：16号溝跡、15号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は4である。ほかに土器小片が微量出土している。

24号溝跡（遺構：図7 遺物：図42～45）

位 置：E-19・20及びF-19・20、G-20・21、H-21グリッド付近

検出状況：北西から南西方向に直線的に延びる溝跡であり、検出範囲内では全長約23.5m、溝幅約2.4m、確認面からの深さ約1.1mで本地区内では最大規模の溝跡である。断面形は箱型であり、溝跡中位からは土器や木製品を多量に含む炭化物層（5層）が全面的に確認された。5層は周辺に存在した建物などの火災処理に伴うものと考えられ、短期間に形成された層と考えられる。上層の堆積状況をみる限りでは人為的に埋め戻されたような痕跡は認められなかったことから、5層より上は自然堆積によって埋没し、最終的に粗粒砂層に覆われたものと考えられるが、溝跡自体の機能は、5層形成時に停止し、しばらく放置された状態で開口していたと推測される。したがって、本溝跡は、集落の動向と密接に関連していたと考えられ、溝の規模と状況から、集落の環濠となる溝跡の可能性を指摘しておく。

重複関係：23号溝跡、19・20号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：本溝跡の遺物は5層とそれを境目として上層と下層に分割して層位で取り上げを行っているが、掲載遺物は5～50が土器であり、51～65が木製品などである。中でも5層からは最も多くの遺物が出土しているが、土器や木製品の多くは二次被熱していた。31～37、40～47はタタキ目が施された畿内系の甕であり、本県内で初めてまとまった量の土器が出土した。器種はすべて甕であるが、数点ではあるが台付甕もみられ、大小の規格が存在する。また、伊勢湾系のS字甕39と手焙形土器38が共存していることも興味深い。木製品は炭化して取り上げ困難だったものも多かったが、比較的状態の良いものを保存処理し、図化している。多くが建築部材と考えられるが、下層からは瓢箪と考えられる65の瓜科植物が出土している。中には種子が詰まっていたため、未製品と考えられる。

25号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：E-21グリッド

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡であり、北東側は28号溝に接続する。検出範囲内では全長約3.5m、幅約0.1m、確認面からの深さ0.1mであるが、調査区南壁内で断面を確認したところ、遺構確認を行った確認面より上位において溝跡の落ち込みが確認されたことから、実際の幅は0.25m、深さは0.2mほどであったとみられる。遺構の性格は、畝跡であろうか。

24号溝跡

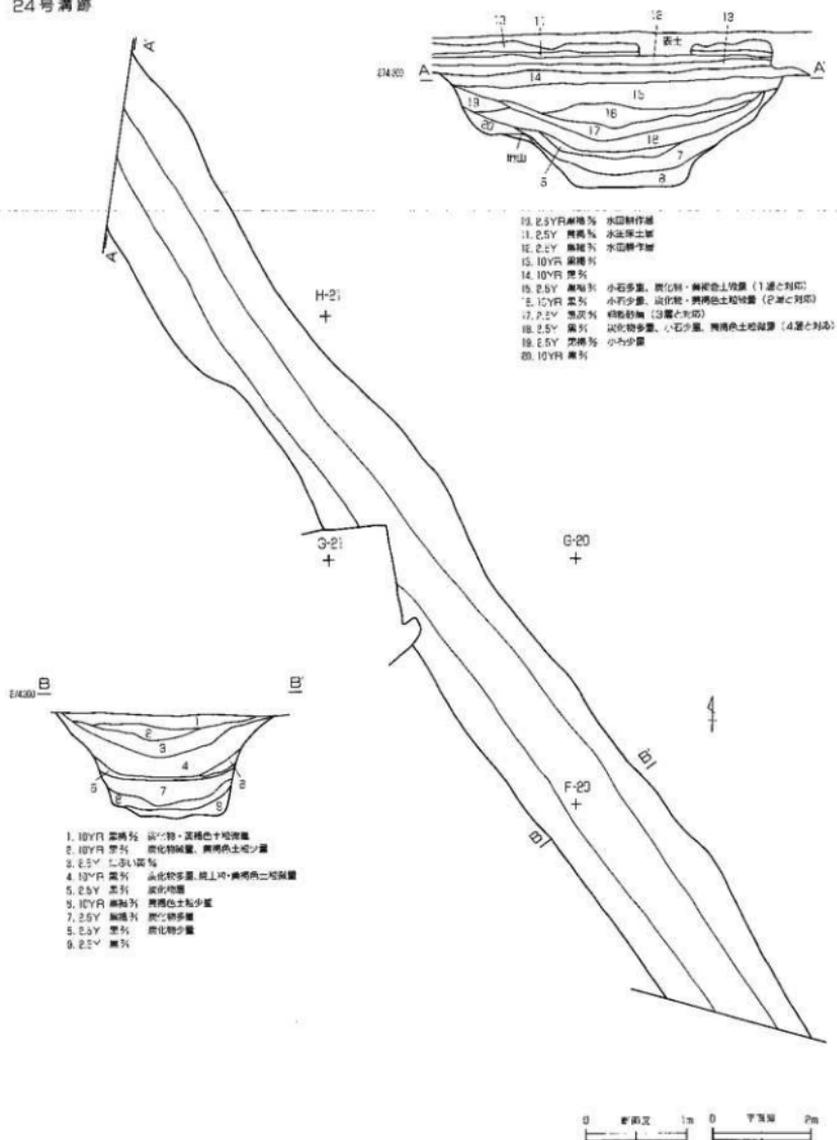


图7 24号溝跡

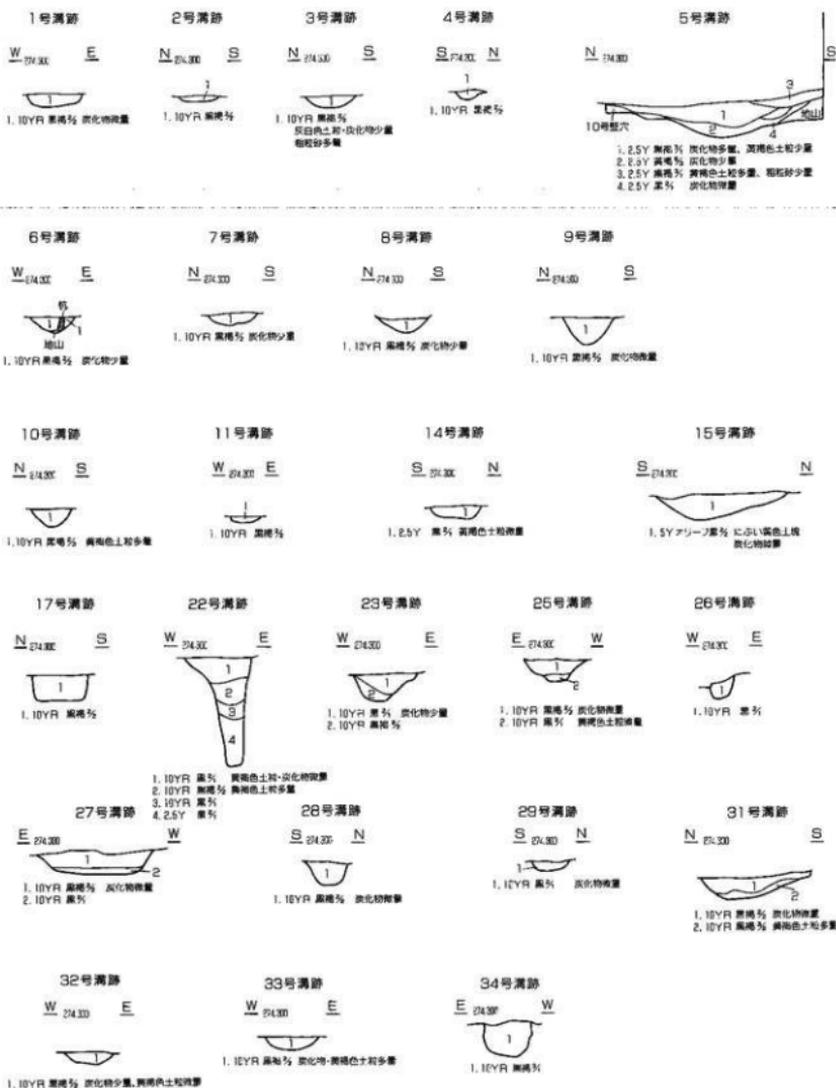


図8 各溝跡セクション図

重複関係：26号溝跡より古いが、27・28号溝跡との新旧関係は不明である。
出土遺物：なし。

26号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位置：E-21及びF-21グリッド

検出状況：北西から南東方向に湾曲する溝跡で、検出範囲内では直線距離で全長約3.5m、幅約0.1m、確認面からの深さ約0.15mである。性格等は不明であるが、建物周溝の可能性もある。

重複関係：18～20号竪穴建物跡より古く、25・27・28号溝跡より新しい。
出土遺物：甕の破片が1点出土している。

27号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：E-21・22グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約5.4m、幅約0.1m、確認面からの深さ0.1mである。25号溝跡同様確認面より上層内で落ち込みが確認されており、幅は約0.5m、深さは約0.2mである。28・29号溝跡と併行していることから、遺構の性格は畝跡であろうか。

重複関係：26号溝跡、18号竪穴建物跡、157号ピットより古いが、25号溝跡との新旧関係は不明である。
出土遺物：なし。

28号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：F-20～22グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約7.7m、幅約0.6m、確認面からの深さ約0.2mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：26号溝跡、19号竪穴建物跡、158号ピットより古い。25号溝跡との新旧関係は不明である。
出土遺物：なし。

29号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：F-22グリッド

検出状況：東西方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約4.0m、幅約0.5m、確認面からの深さ約0.2mである。東側は攪乱が入っていたため、僅かな痕跡のみ確認された。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性が考えられる。

重複関係：なし。
出土遺物：なし。

30号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：C-5

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、大部分は調査区外にある。検出範囲内では全長約1.8m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.3mである。11号溝跡の一部とも考えられたが、深さや方向が若干異なったため、別遺構とした。性格等は不明であるが、やや湾曲していることから周溝の末端である可能性もある。

重複関係：11号溝跡、7号竪穴建物跡より古い。
出土遺物：なし。

31号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：東側確認調査区

検出状況：北東から南西方向に弱く蛇行しつつ延びる溝跡で、検出範囲内では全長約7.0m、幅約0.9m、確認面からの深さ0.2mである。性格等は不明である。

重複関係：なし。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

32号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：東側確認調査区

検出状況：北東から南西方向に延びる溝跡で、北側は33号溝跡と接続する。検出範囲内では全長約3.5m、幅約0.6m、確認面からの深さ約0.1mである。性格等は不明である。

重複関係：21号竪穴建物跡より新しいが、33号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

33号溝跡（遺構：全体図中 遺物：掲載なし）

位 置：東側確認調査区

検出状況：北西から南東方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約5.8m、幅約0.55m、確認面からの深さ0.1mである。性格等は不明である。

重複関係：32号溝跡、6号土壇との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

34号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：東側確認調査区

検出状況：南北方向に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約8.0m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.3mである。性格等は不明であるが、調査区壁断面で確認したところ掘削面は水田層にあることから、水田に伴う水路と考えられる。

重複関係：22号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：なし。

川 跡（全体図中 遺物：図45・46）

位 置：D-14・15及びE-12～15、F-11～14、G-11～13付近

検出状況：北東から南西方向に流れがあった川跡であり、調査区を南北に縦断している。検出範囲内では全長約25.0m、幅約6.5mであり、確認面から深さ約1.3mまで全体を掘削した。また、最終的に一部分を重機により掘削したが、川底は確認できなかった。覆土はほぼ砂礫層で覆われており、一定の水の流れがあったものと考えられる。E-15内では土壇状の張出しがあり、土器捨場ようになっていた。

重複関係：重複なし。

出土遺物：掲載遺物は66～86であるが、土器様相をみる限りでは川は集落の機能時には検出位置を流れていたものと考えられる。

第2節 建物跡及び柱穴列

本地区で検出された建物跡を大別すると、(1)竪穴建物、(2)平地建物、(3)掘立柱建物に分類される。柱穴列については、検出状況や柱規模から掘立柱建物跡になる可能性が高いものも含まれているが、現段階では柱穴列として扱うものとする。

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡（遺構：図9・10 遺物：図46）

位置：G-6・7グリッド

主軸方位：N-45°-W

検出状況：西側半分を1号方形周溝墓によって失っているが、平面形は小判型あるいは隅丸方形を呈し、検出範囲内での建物規模は南北約2.4m、東西約4.5mを測る。柱穴は主柱が2基確認されているが、新旧関係が不明な柱穴が1基存在する。炉には埋壘が使用されており、ほぼ建物中央に位置する。全体に炭化物や焼土塊が検出され、火災により廃絶した建物跡と考えられるが、屋根材と考えられる建築部材の形状が良好な状態で確認された。特に北側で検出された焼土塊は、炭化材より高い位置にあったことから、部分的に土を屋根材に使用していたものと考えられる。また、焼失した床面の炭化物層からは炭化した米が複数採取されたことから、この集落付近に水田が広がっていたと考えられる。

重複関係：1号方形周溝墓より古く、19・21号溝跡、4号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は87～94であり、94は埋壘として使用された土器である。

2号竪穴建物跡（遺構：図10・11 遺物：掲載なし）

位置：D-5・6グリッド

主軸方位：N-42°-E

検出状況：本建物跡南側は調査区外に展開しており、調査の結果、上層と下層の2時期の建物跡が重複していることが確認された。平面形はどちらも小判型を呈し、上層の建物規模は検出範囲内で南北約3.2m、東西約3.7mであり、柱穴は確認されていないため、建物構造は不明である。炉跡はやや北東側に位置する。

下層の建物規模は検出範囲内で南北約3.0m、東西約3.6mであり、柱穴は主柱が2基確認されている。炉跡は建物北側のほぼ中央に位置し、小型の軸石が1石設置されていた。下層の建物跡は床面の広範囲から火災によるとみられる炭化物層が広がっていたことから、火災後にほぼ同規模で建て替えが行われたと推測される。

重複関係：本建物跡周辺は3回にわたる分割調査のちょうど接点に位置していたため、遺構の把握や接合が困難であり、位置的に5号竪穴建物跡と重複しているが、調査段階では明確な新旧関係を把握することができなかった。また、西側に炉跡と考えられる焼土塊が存在するが、本建物跡より新しい別の建物跡が重複していた可能性も高いが、残念ながら黒色土内では明確な痕跡は確認できなかった。

出土遺物：掲載遺物は95～96である。96は石包丁であり、1号竪穴建物跡で検出された炭化米の収穫に使用されたことが窺われる。土器の多くは上層に伴うものである。

3号竪穴建物跡（遺構：図11・12 遺物：図46）

位置：E-5・6グリッド

主軸方位：N-42°-W

検出状況：平面形は小判型を呈し、検出範囲内での建物規模は南北約5.6m、東西約4.2mであ

り、柱穴は主柱4基と南側中央で脇柱のようなビットを1基検出していることから5本柱の建物構造と考えられる。ほかにも掘削段階で新旧不明なビットが4基検出された。炉跡は建物北側に位置し、床面より僅かに高かった。本建物跡からは焼失の痕跡などは確認されなかった。

重複関係：1号溝跡より古く、4号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は97～103である。97は研磨された石鏃であり、中央に孔が開けられていた。98は甕であろうか。

4号竪穴建物跡（遺構：図12 遺物：掲載なし）

位置：E-6・7グリッド

主軸方位：N-65°-W

検出状況：建物跡北側半分は調査区外に展開し、かつ1・3号竪穴建物跡と重複していたため、平面形は正確な平面形は確認できなかった。また、建物規模も定かではないが、検出範囲内で南北2.8m、東西約2.8mである。主柱は確認されず、炉跡と考えられる焼土塊がほぼ同レベルで3箇所確認されたが、建て替えがあったかどうかは不明である。炉跡周辺では炭化物層が検出されたが、面的には広がっていなかったことから、火災による焼失ではないと考えられる。

重複関係：1・3号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：土器小片が少量出土しているのみで、掲載できる遺物はなかった。

5号竪穴建物跡（遺構：図13 遺物：図47）

位置：G-9グリッド

主軸方位：N-25°-W

検出状況：建物跡北側半分は調査区外に展開しているが、重複する6号竪穴建物跡との新旧関係が掴めず、結果的に6号建物跡掘削段階で新旧関係と遺構の広がり確認された。よって、西側の多くは推定による破線で図化しているが、平面形は小判型を呈し、検出範囲内での建物規模は南北約3.2m、東西約4.3mである。柱穴は主柱が2基、建物南側中央で脇柱のような柱を1基検出している。主柱を構成するビット群には少なくとも3回の重複があり、建て替えが行われたものと考えられる。炉跡は確認されなかったが、2号竪穴建物跡西側の炉跡が本建物跡に含まれる可能性もある。また、本建物跡床面には炭化物層が検出されており、火災により焼失したものと考えられる。

重複関係：8号溝跡より古く、6・8号竪穴建物跡より新しい。2号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は104～106である。

6号竪穴建物跡（遺構：図14 遺物：図47）

位置：B-6・7及びC-6・7グリッド

主軸方位：N-5°-W

検出状況：前述のとおり遺構確認段階で5号竪穴建物跡との重複関係が把握困難であったため、本建物跡から掘削を開始したが、土層断面の確認でようやく新旧関係が明らかになったため、調査手順が逆転してしまった。本建物跡北西側は1号方形周溝墓によって失っているが、平面形は小判型と考えられる。検出範囲内での建物規模は南北約5.2m、東西約4.9mであり、柱穴は主柱が4基検出され、建物中央部に新旧関係不明のビットが1基検出されている。位置関係からすると、本建物に伴う可能性が高い。

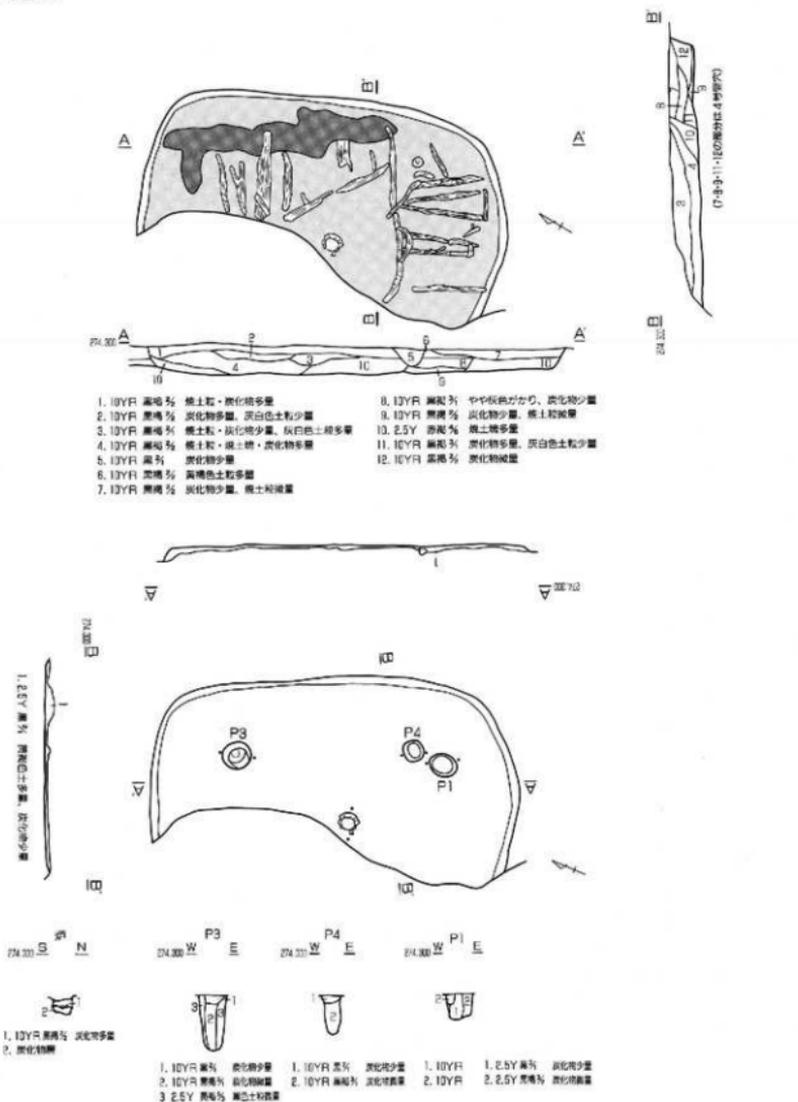
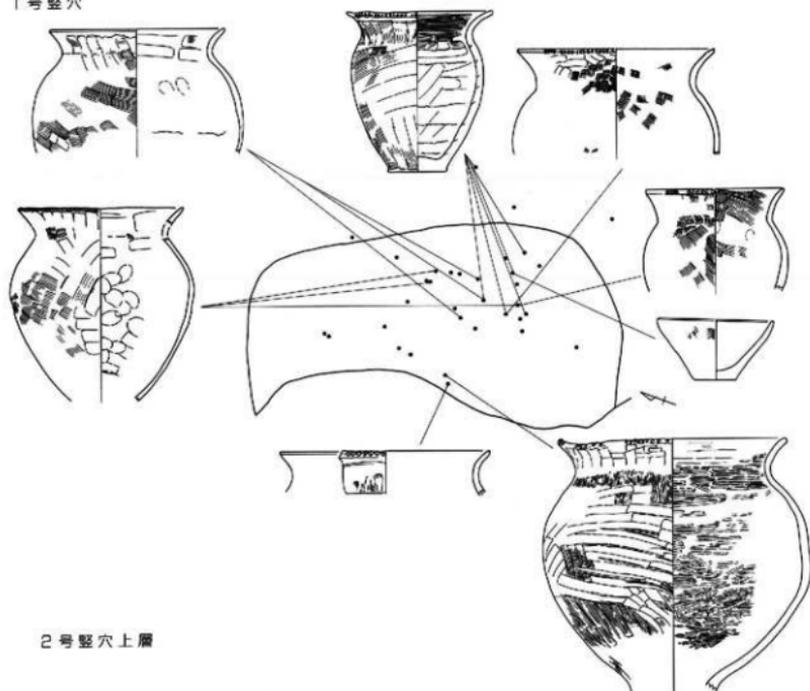
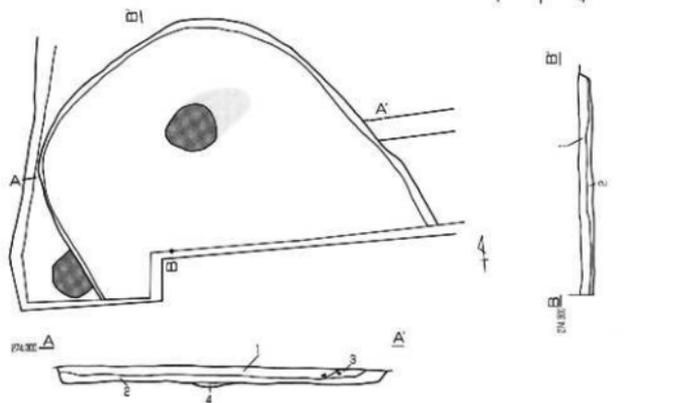


図9 1号整穴建物跡

1号竖穴



2号竖穴上层



1. 13YF1 黑褐片 炭化物少量
2. 13YF1 黑褐片 炭化物少量, 黄褐色土粒散置
3. 13YF1 黑片 炭化物少量
4. 2.5Y 黑褐片 炭化物少量

图10 1·2号竖穴建物跡

2号整穴

244.30 W P15 E



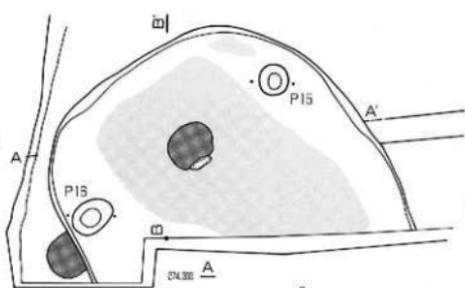
1. 2.5Y 黄灰
炭化物少量、黄褐色土粒散在

2. 2.5Y 黄褐色
黄褐色土粒多量

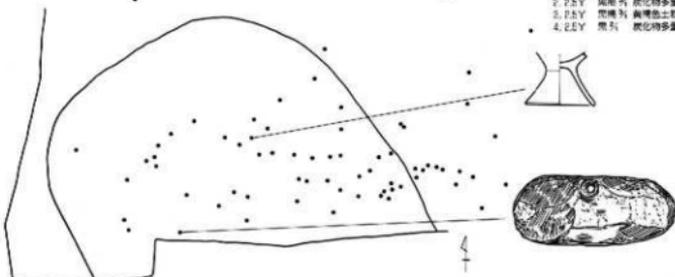
244.30 W P16 E



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物散在、黄褐色土粒多量



1. 2.5YR 红棕色
炭化物、褐色土粒多量 (上層部)
2. 2.5Y 黄褐色
炭化物多量、黄褐色土粒
3. 2.5Y 黄褐色
黄褐色土粒多量
4. 2.5Y 黄灰
炭化物多量



3号整穴

244.30 W P5 E 244.30 W P6 E 244.30 W P7 E



1. 2.5Y 黄灰
炭化物散在

2. 2.5Y 黄灰
炭化物散在、黄褐色土粒少量



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物少量、黄褐色土粒多量

2. 2.5Y 黄褐色
炭化物少量、黄褐色土粒多量



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物少量、黄褐色土粒多量

2. 2.5Y 黄褐色
炭化物少量、黄褐色土粒多量

244.30 W P8 E 244.30 W P9 E 244.30 W P10 E



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物散在、黄褐色土粒少量



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物多量、黄褐色土粒散在



1. 2.5Y 黄灰
炭化物少量、黄褐色土粒多量

244.30 N P11 S 244.30 W P12 E 244.30 W P13 E



1. 2.5Y 黄褐色
炭化物、黄褐色土粒多量

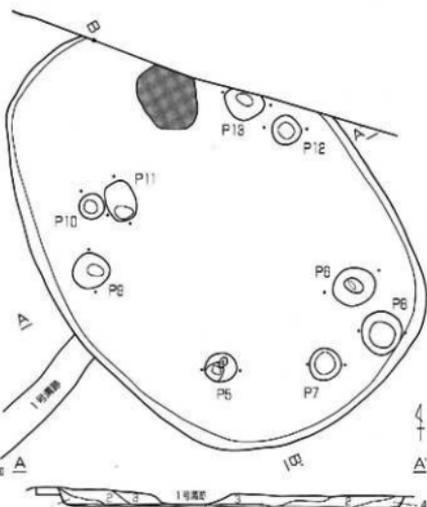
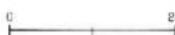


1. 2.5Y 黄褐色
炭化物少量、黄褐色土粒多量



2. 2.5Y 黄褐色
炭化物、黄褐色土粒多量

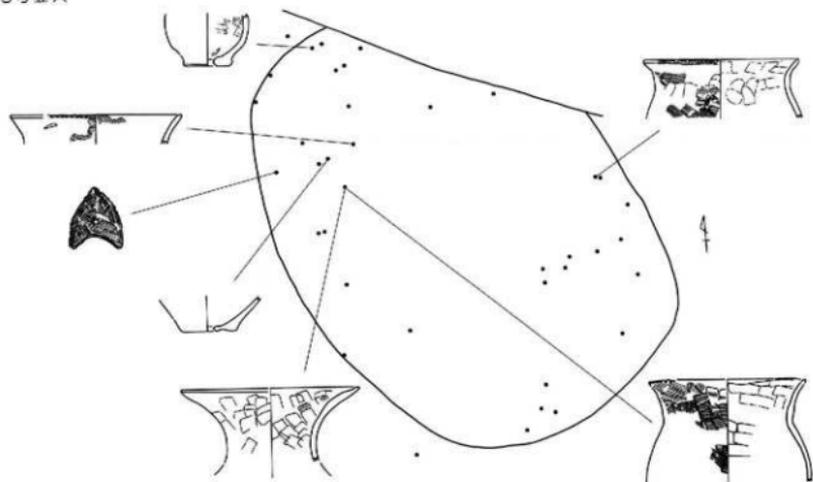
3. 2.5Y 黄褐色
炭化物、黄褐色土粒多量



1. 黄灰 炭化物多量
2. 5Y 黄褐色 炭化物多量、黄褐色土粒多量
3. 黄褐色 炭化物多量、黄褐色土粒多量
4. 黄褐色 炭化物多量、黄褐色土粒多量
5. 黄褐色 炭化物多量、黄褐色土粒多量

图 11 2・3号整穴建物跡

3号竖穴



4号竖穴

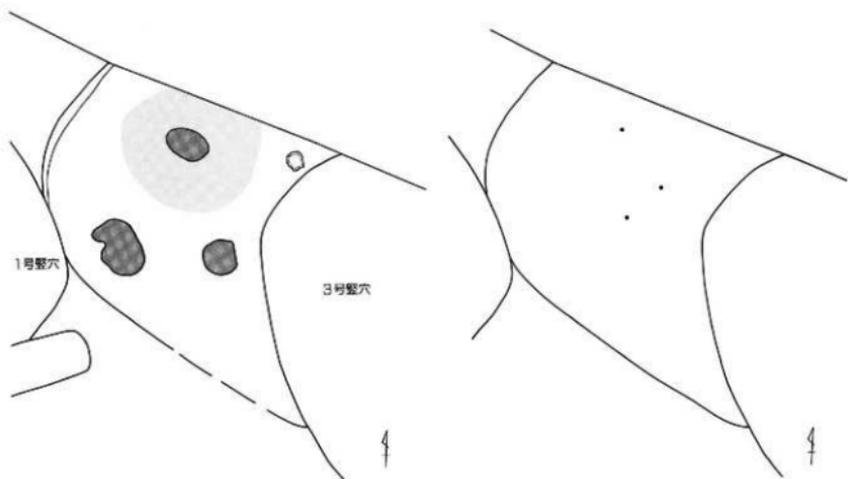
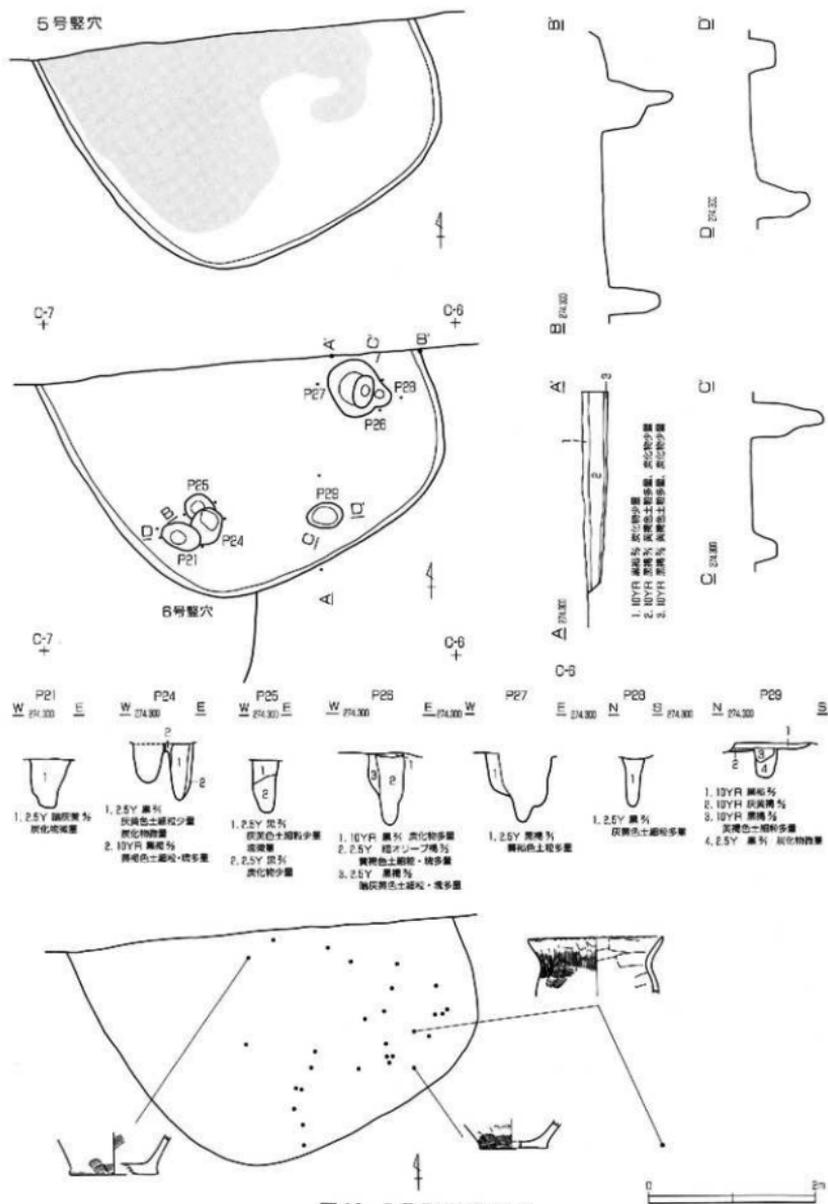


图12 3·4号竖穴建物跡





6号竖穴

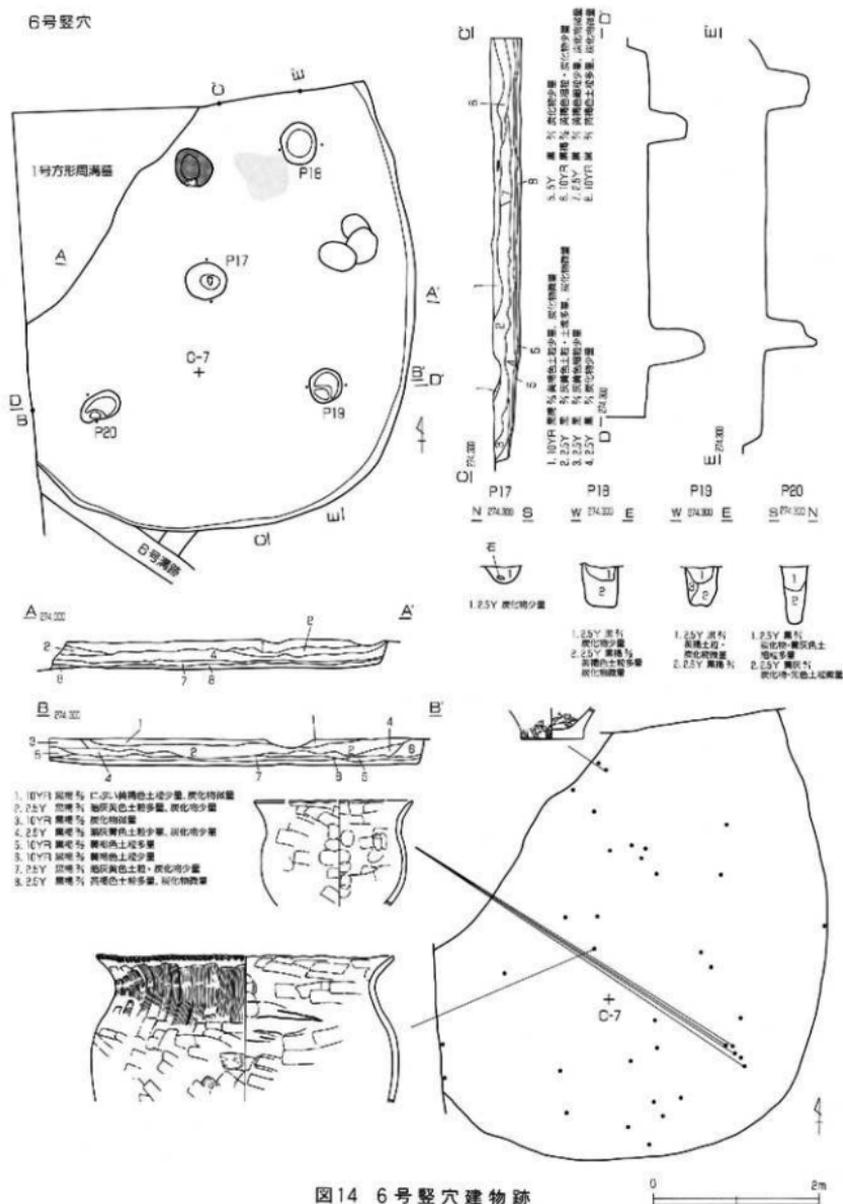


图14 6号竖穴建物迹

炉跡は建物北側中央に位置し、浅い掘り込みの中に小型の袖石を1石設置していた。面的に炭化物層の広がりもなく、規模に比して遺物も少なかったことから、何らかの理由で放棄された建物跡と考えられる。

重複関係：6・8号溝跡、5号竪穴建物跡より古く、3号掘立柱建物跡より新しい。
出土遺物：掲載遺物は107～109である。

7号竪穴建物跡（遺構：図15 遺物：図47）

位置：C-4・5グリッド

主軸方位：N-16°-W（推定）

検出状況：建物の大部分は調査区北側に展開しているが、平面形は小判型を呈すと考えられる。

検出範囲内での建物規模は南北約1.6m、東西約3.2mを測る。主柱は2基検出しているが、炉跡は確認されなかった。

重複関係：11号溝跡より古く、13・30号溝跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物である110は両面赤色塗彩されている。

8号竪穴建物跡（遺構：図15・16 遺物：図47）

位置：C-5・6グリッド

主軸方位：N-34°-W

検出状況：建物跡北側は調査区外に展開し、南側は11号溝跡により失われているが、平面形は隅丸方形か小判型を呈すと考えられる。検出範囲内での建物規模は南北約4.3m、東西約5.5mを測る。主柱は4基検出され、炉跡は西側中央付近に位置する。確認面から床面までの深度は浅く、確実な壁面を把握することは困難であったことから、竪穴建物というよりはむしろ平地建物跡に近い形態と言える。

重複関係：7・11号溝跡、5号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は111～113である。

9号竪穴建物跡（遺構：図16 遺物：図47）

位置：A-4及びB-4グリッド

主軸方位：N-46°-W（推定）

検出状況：建物跡大部分は調査区外に展開しており、平面形は小判型あるいは隅丸方形を呈すと考えられる。確認当初は土壌とも考えられたが、床面や土層堆積状況などから竪穴建物跡と判断した。建物に関わる柱跡や炉跡は検出していない。

重複関係：2号掘立柱建物跡より古く、12号溝跡より新しい。3号溝跡は建物跡付近で消えてしまったため、新旧関係は不明である。

出土遺物：出土遺物は少なく、掲載遺物は114である。

10号竪穴建物跡（遺構：図16・17 遺物：図47）

位置：A-4グリッド

主軸方位：N-34°-W（推定）

検出状況：建物跡南側は5号溝跡により失われているが、平面形は小判型を呈すと考えられる。

検出範囲内で建物規模は南北約1.4m、東西約3.4mで、主柱2基が検出されている。柱穴は少なくとも2回の重複があり、建て替えが行われた可能性が高い。炉跡は確認されなかったが、床面から広範囲に炭化物層が検出されたことから、火災に遭っていると考えられる。

重複関係：5号溝跡より古く、3号土壌より新しい。

出土遺物：掲載遺物は115～121である。115は口縁部に2孔1対の穴がある。

11号竪穴建物跡（遺構：図17 遺物：掲載なし）

位置：A-6及びB-6グリッド

主軸方位：N-44°-W

検出状況：平面形は不整形な隅丸方形を呈し、建物規模は南北約4.1m、東西約3.7mで、主柱は4基検出されている。竪穴建物としては全体に掘り込みが浅く、柱穴も実際に機能していたかは疑わしい。炉跡は建物北側中央に位置する。

重複関係：6・9・11号溝跡より古く、1・4号掘立柱建物跡より新しい。2号平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：土器小片が少量出土しているのみで、掲載できる遺物はなかった。

12号竪穴建物跡（遺構：図18 遺物：図47）

位置：A-6・7及びB-7グリッド

主軸方位：N-66°-E（推定）

検出状況：建物跡は平成14・15年度調査区に跨っており、南側は2号方形周溝墓によって失われているが、平面形は小判型と考えられる。検出範囲内での建物規模は南北約1.6m、東西約4.4mで、主柱は1基のみは検出されているが、炉跡は確認されなかった。建物跡全面炭化物と焼土塊が検出されたことから火災により焼失したと考えられるが、壁面まで炭化物が広がっており、部分的に炭化材の痕跡もみられたことから、壁際には粘土で固定された板材が存在していたと考えられる。また、東壁際にビット状の落ち込みがあり、中まで炭化物や焼土が入り込んでいたことから、簡易な貯蔵穴のような施設が存在した可能性もある。

重複関係：2号方形周溝墓より古く、13号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は122～123である。遺物の多くは床面近くからの出土であった。

13号竪穴建物跡（遺構：図18・19 遺物：図47・48）

位置：A-7及びB-7・8グリッド

主軸方位：N-34°-W

検出状況：建物跡南側は調査区外に展開しているが、平面形は小判型と考えられる。検出範囲内での建物規模は南北約4.5m、東西約5.0mであり、柱穴は主柱が2基検出され、ほかに新旧関係不明な柱穴が7基検出されている。うち北側の1基は脇柱のようなものであったと考えられ、5本柱の建物構造であったと想定される。炉跡は建物中央やや北側に位置し、床面全体に炭化物層が広がっていたため、火災により焼失した建物跡と考えられる。

重複関係：16号溝跡、12号竪穴建物跡、1号方形周溝墓、7号土壌より古い。

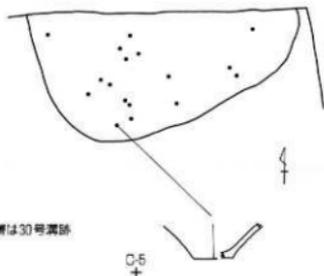
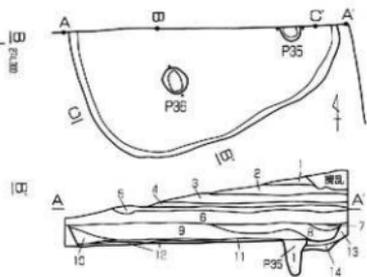
出土遺物：掲載遺物は124～134である。刻目目文甕のほか、単純口縁甕、折り返し口縁甕などがみられる。

14号竪穴建物跡（遺構：図20～21 遺物：図48）

位置：B-7～9及びC-7～9グリッド

主軸方位：N-34°-W

7号整穴



13·14層は30号溝跡

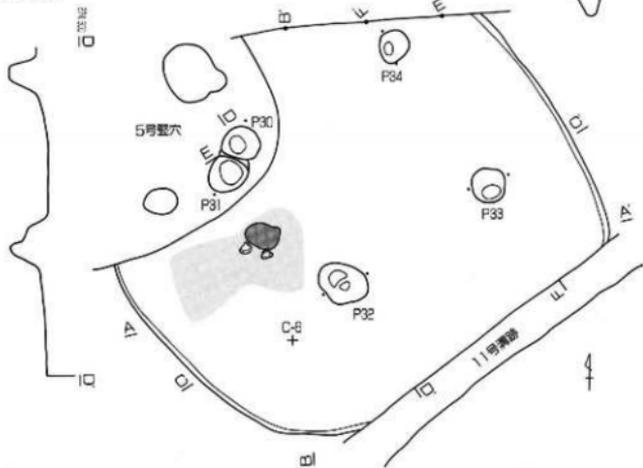
D 24.300



1. 2.5Y 黄褐色 (水田耕作土層)
2. 2.5Y 黄褐色 (水田耕作土層)
3. 2.5Y 黄褐色 (水田耕作土層)
4. 2.5Y 黄褐色
5. 2.5Y 黄褐色
6. 2.5Y 黄褐色
7. 10YR 黄褐色
8. 10YR 黄褐色
9. 10YR 黄褐色
10. 10YR 黄褐色
11. 10YR 黄褐色
12. 10YR 黄褐色
13. 10YR 黄褐色
14. 10YR 黄褐色

pt35 1. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
 pt33 1. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量

8号整穴



A 24.300



1. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
2. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
3. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
4. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
5. 10YR 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量
6. 2.5Y 黄褐色 黄褐色土層跡少量、炭化物少量

C 24.300



N 24.300

P30-31

E 24.300

W 24.300

S 24.300

E 24.300

N 24.300

W 24.300

S 24.300

E 24.300

N 24.300

W 24.300

S 24.300

E 24.300

N 24.300

W 24.300

S 24.300

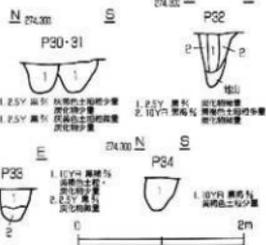
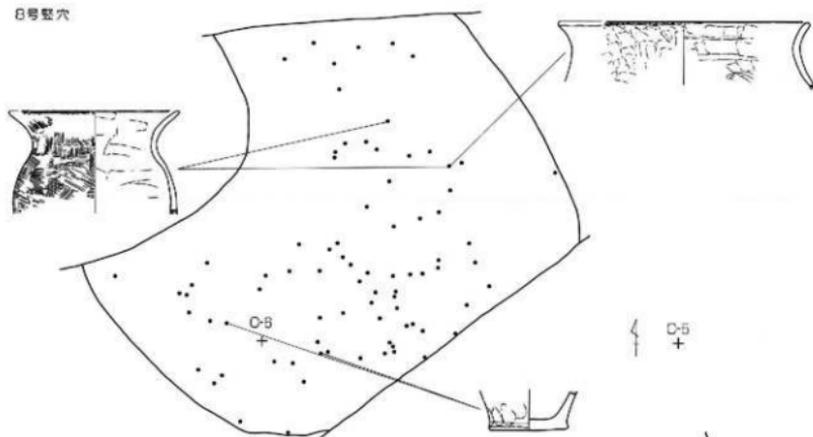
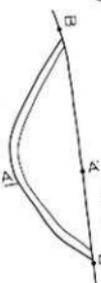


图15 7·8号整穴建物跡

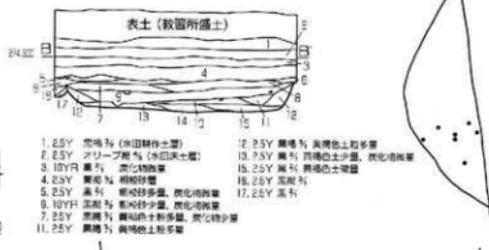
8号整穴



9号整穴

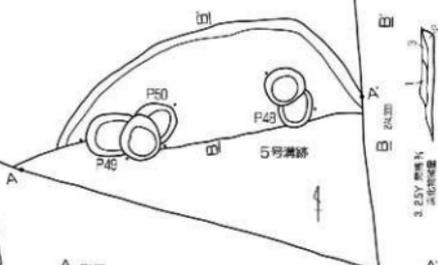
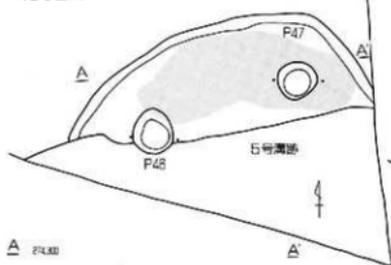


表土(表層所盛土)



1. 2SY 表層土 (米田耕作土層)
2. 2SY アラブ泥 % (米田耕作土層)
3. 1BY 表層土 炭化物少量
4. 2SY 表層土 炭化物少量
5. 2SY 表層土 炭化物少量
6. 10YH 表層土 炭化物少量
7. 2SY 表層土 炭化物少量
11. 2SY 表層土 炭化物少量
12. 2SY 表層土 炭化物少量
13. 2SY 表層土 炭化物少量
15. 2SY 表層土 炭化物少量
16. 2SY 表層土 炭化物少量
17. 2SY 表層土 炭化物少量

10号整穴



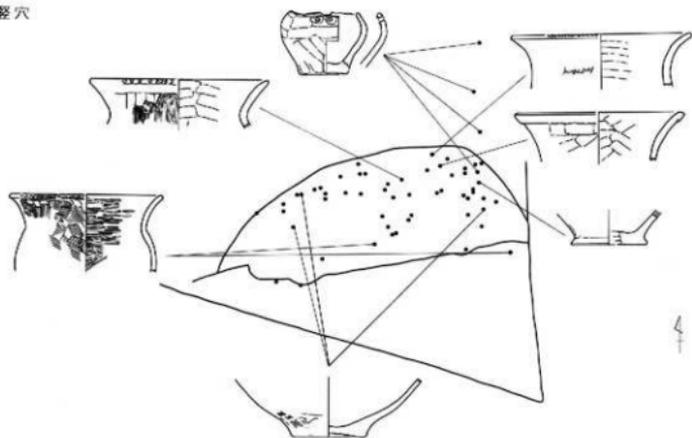
1. 2SY 表層土 炭化物少量
2. 2SY 表層土 炭化物少量



1. 2SY 表層土 炭化物少量
2. 2SY 表層土 炭化物少量
3. 2SY 表層土 炭化物少量
1. 2SY 表層土 炭化物少量
2. 2SY 表層土 炭化物少量
3. 2SY 表層土 炭化物少量
1. 2SY 表層土 炭化物少量
2. 2SY 表層土 炭化物少量
3. 2SY 表層土 炭化物少量

图16 8~10号整穴建物跡

10号整穴



11号整穴

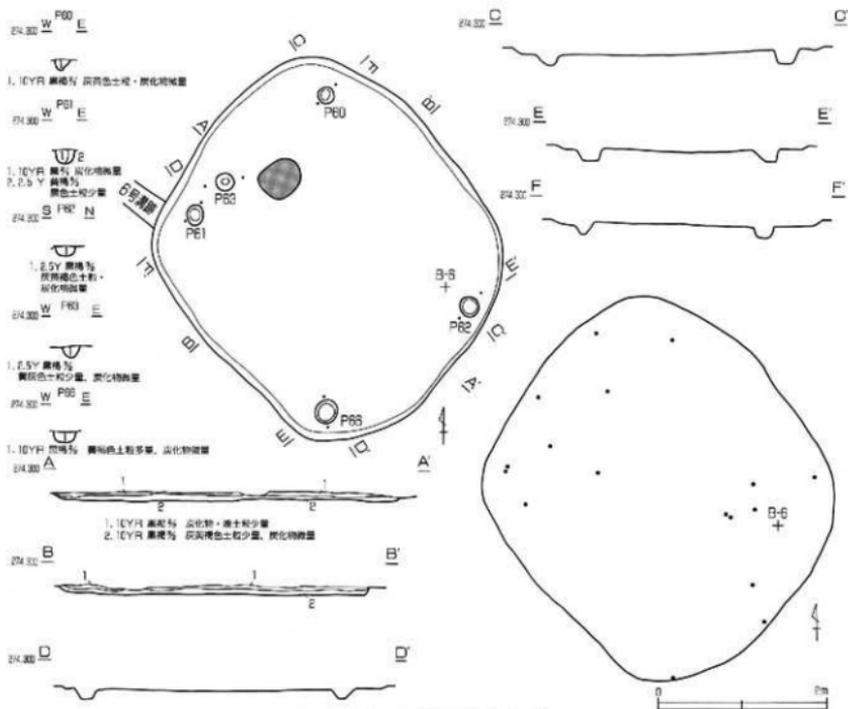


图17 10·11号整穴建物跡

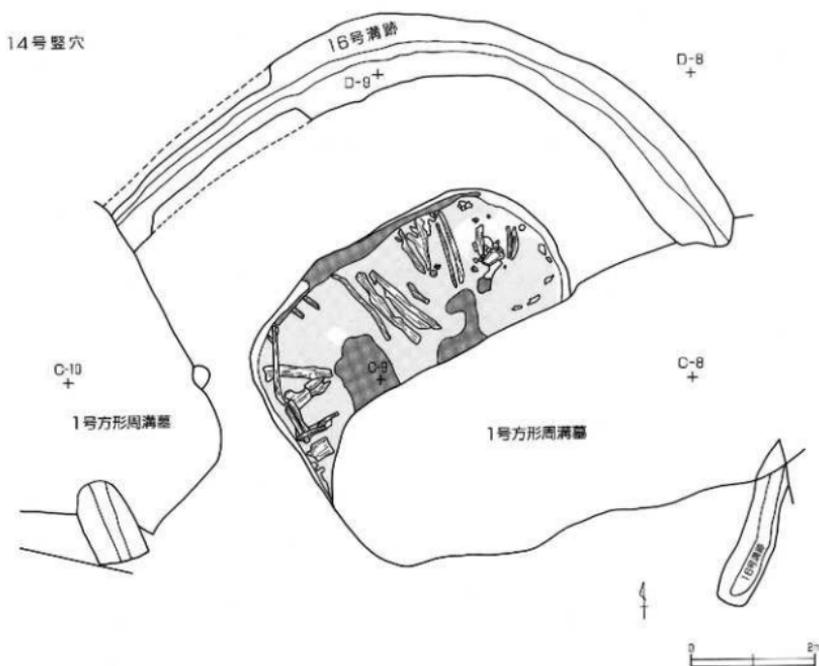


図20 14号竪穴建物跡(1)

検出状況：本建物跡は周溝と考えられる16号溝跡と一体であり、竪穴建物本体の南側半分は1号方形周溝墓によって失われているが、平面形は隅丸方形を呈す。検出範囲内での建物規模は竪穴本体が南北約2.4m、東西約5.4mであり、周溝まで含めた規模は、直径約10.8mである。周溝は幅約1.2m、深さ1.7mであり、南側が開口していることから、本建物跡の出入り口は南側であったと考えられる。支柱は2基検出したが、100・101号ピットともに柱根が残っていた。炉跡は浅く掘り込まれており、101号ピットに近い建物北西側に位置し、東側には叩き台として使用したと考えられる石が設置されていた。床面全体からは炭化物層及び炭化材が検出されたため、火災により焼失した建物と考えられる。特に北側の壁面には板材が貼ってあったと考えられ、炭化材とともに焼土が全面で確認された。石も被熱して剥離片が散乱した状態であり、火災の大きさが窺える。

重複関係：1号方形周溝墓より古く、17・19・20・22号溝跡、13・15号竪穴建物跡より新しい。
 出土遺物：掲載遺物は135～141が16号溝跡出土土器であり、142～151が14号竪穴建物跡からの出土である。高環135や有段口縁の甕145・146は北陸系の土器と考えられ、150は145か146の脚部である可能性がある。また、144は伊勢湾系のS字甕A類であり、本建物跡では北陸と伊勢湾系の技術で製作された土器が共伴している。また、状態が悪く、正確には判断しがたいが、馬の歯とみられる草食動物の歯が出土した。

14号竖穴

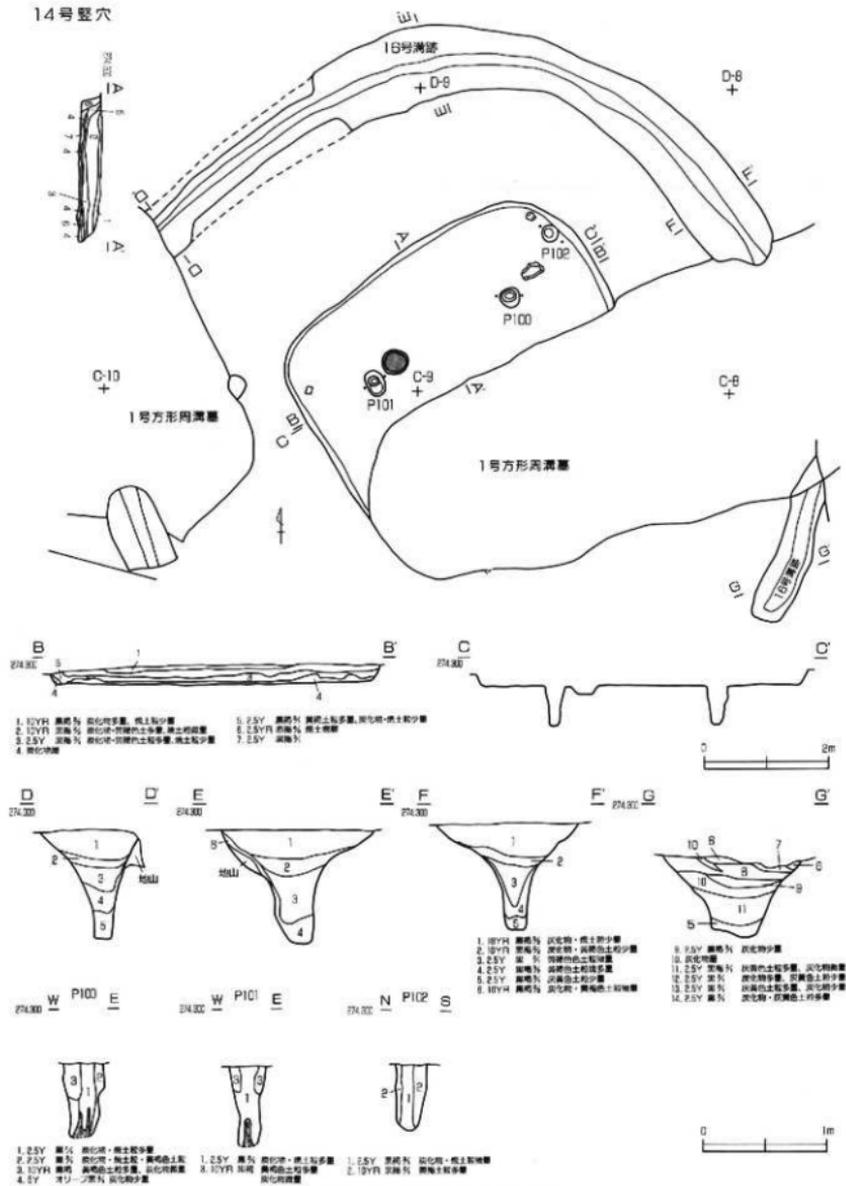


图 21 14号竖穴建物跡(2)

14号竖穴

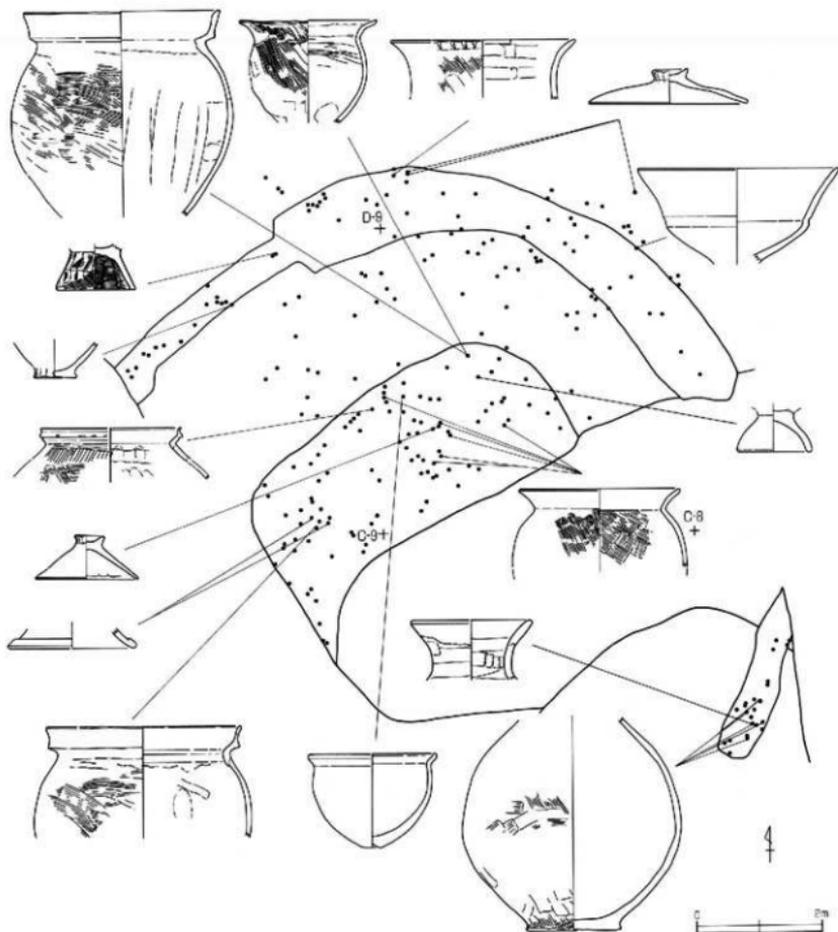
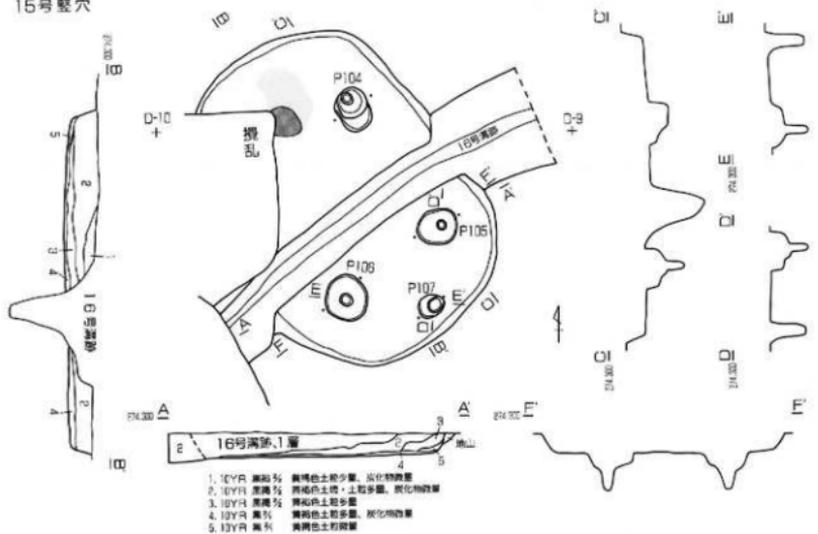


图22 14号竖穴建物跡(3)

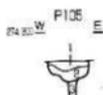
15号竖穴



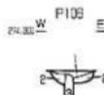
1. 10YR 赭褐色 炭化物少量
2. 10YR 赭褐色 灰褐色少量
3. 10YR 赭褐色 灰褐色少量
4. 10YR 赭褐色 灰褐色少量
5. 10YR 赭褐色 灰褐色少量



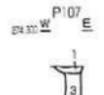
1. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量
2. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒少量 炭化物少量



1. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量
2. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒少量 炭化物少量
3. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒少量



1. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量
2. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒少量 炭化物少量
3. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量 炭化物少量



1. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量
2. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量 炭化物少量
3. 10YR 赭褐色 灰褐色土粒、土粒多量 炭化物少量

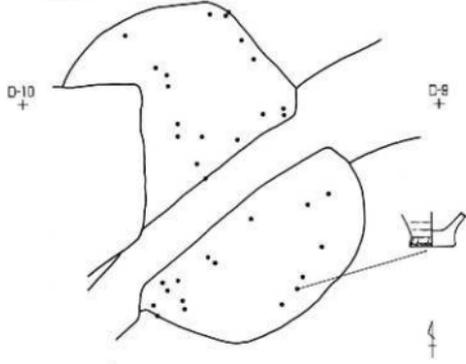
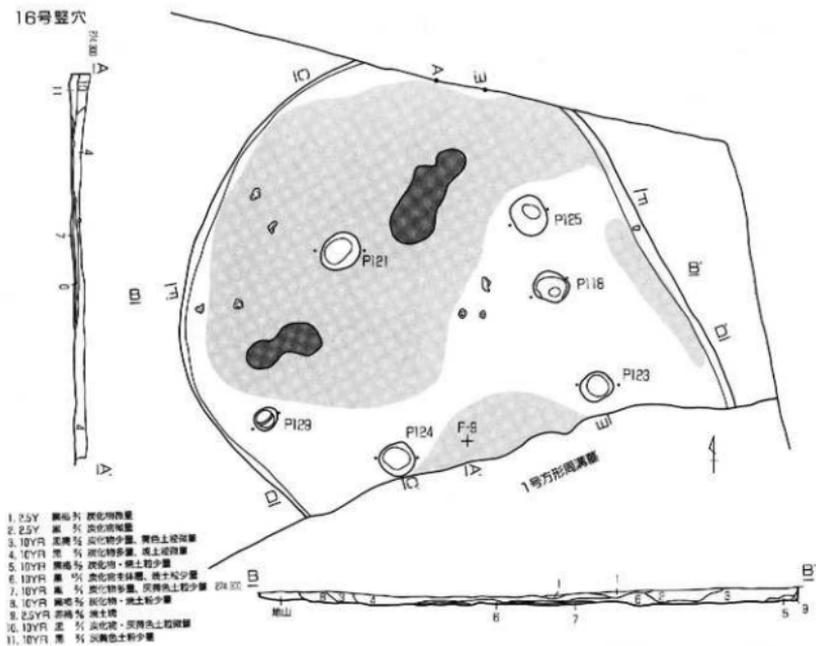


图23 15号竖穴建物跡



16号整穴



- 1. 2.5Y 黄褐色 炭化物稍多
- 2. 2.5Y 黄 灰 炭化物较多
- 3. 10YR 灰褐色 炭化物少量 黄褐色土较多
- 4. 10YR 黄 灰 炭化物少量 黄褐色土较多
- 5. 10YR 黄褐色 炭化物 + 黄土粒少量
- 6. 10YR 黄 灰 炭化物稍多 黄土粒少量
- 7. 10YR 黄 灰 炭化物稍多 灰黄色土粒少量
- 8. 6YR 黄褐色 炭化物 + 黄土粒少量
- 9. 2.5YR 暗褐色 黄土粒
- 10. 10YR 黄 灰 炭化物 + 灰黄色土粒较多
- 11. 10YR 黄 灰 灰黄色土粒少量

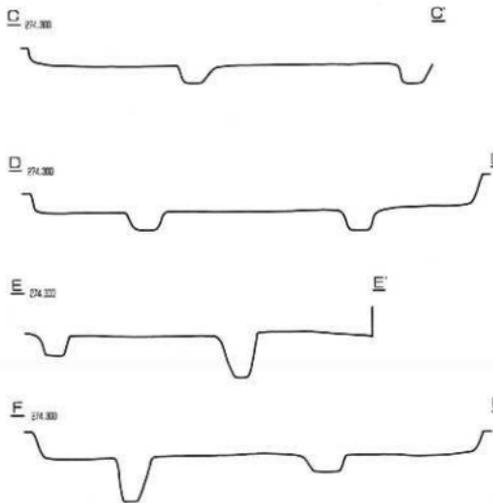


图 24 16号整穴建物跡 (1)

16号竖穴

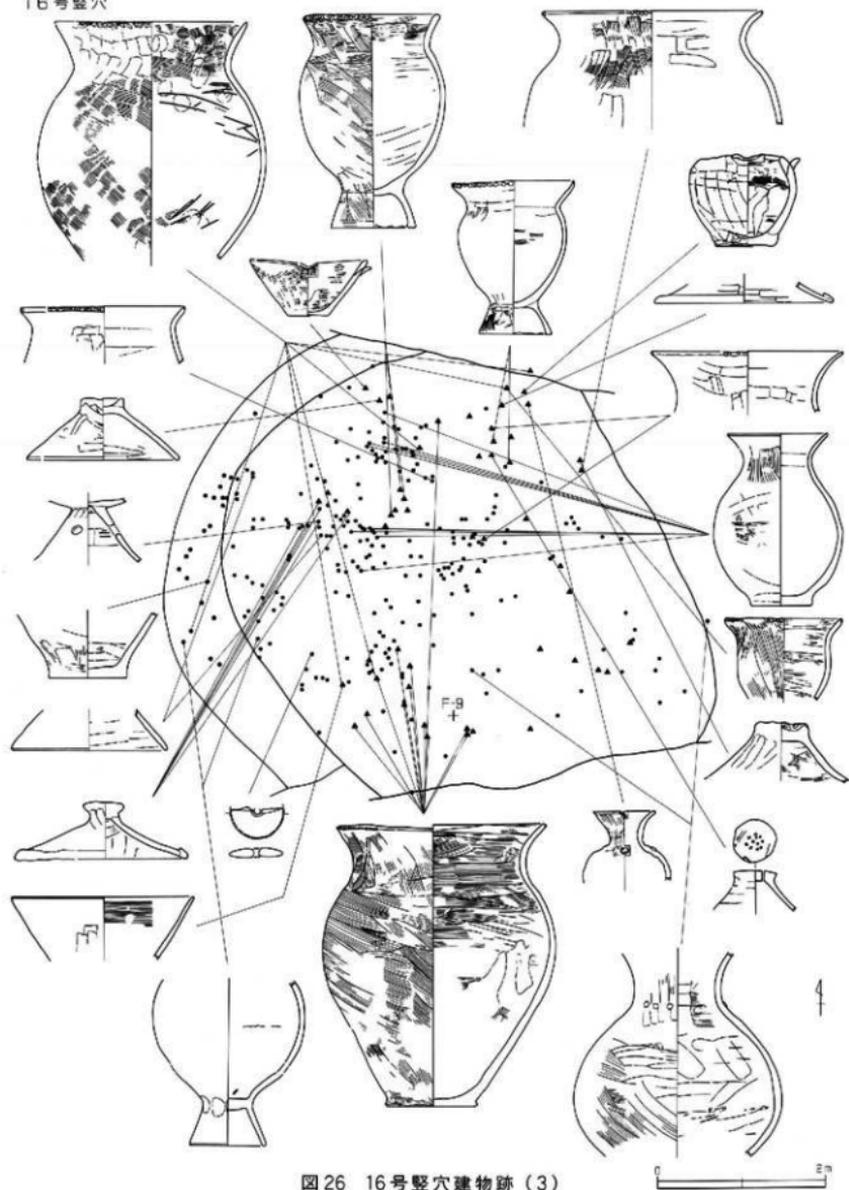


图26 16号竖穴建物跡(3)

15号竪穴建物跡（遺構：図23 遺物：図48）

位置：C-9及びD-9グリッド

主軸方位：N-35°-W

検出状況：本建物跡は遺構確認面では16号溝跡より新しいと判断して掘削を行ったが、断面などで確認したところ、16号溝跡の方が新しいことが確認されたため、調査時には新旧関係が逆転してしまったことを明記しておく。建物北西側は擾乱により失われているが、平面形は小判型である。主柱は3基が検出されたが、ビットに残された柱痕をみる限りでは、本建物跡の柱は細い材が使用されていたようである。また南側中央にビットが1基検出されていることから、5本柱の建物構造と考えられる。炉跡は建物北側中央に位置する。

重複関係：16号溝跡より古く、17号溝跡より新しい。

出土遺物：出土遺物は少量であり、掲載遺物は152のみである。

16号竪穴建物跡（遺構：図24～26 遺物：図49・50）

位置：E-8・9及びF-8・9グリッド

主軸方位：N-30°-W

検出状況：本建物跡南側は1号方形周溝墓によって失われているが、調査の結果、上層と下層の2時期の建物跡が重複していることが確認された。平面形はどちらも小判型を呈すが、上層の形態はやや歪み、隅丸方形に近い形態である。上層の建物規模は検出範囲内で南北約5.2m、東西約5.8mであり、主柱は4基検出されているが、ほかに2基のビットが検出されている。炉跡は建物跡中央よりやや北側に位置する。床面中央から北側を中心に炭化物層が広がっていたことから、火災により焼失したものと考えられる。なお、上層の遺物は、比較的小片が多く散乱しているような状態であった。

下層の建物規模は検出範囲内で南北約5.4m、東西約5.0mであり、柱穴は主柱が4基、ほかに3基のビットが確認され、うち主柱4基と122号ビットには柱根が残されていた。本建物跡の主柱からは、いずれも面取りされた角材が検出された。中でも117号ビットは、すでに上層の段階で平面形が確認されていたことから、同ビットを含むほかの柱も上層の建物段階でも機能していたことも考えられる。炉跡は建物北側のほぼ中央に位置し、小型の袖石が2石設置されていた。下層の建物跡も床面全体に炭化物層が広がっていたことから、火災により焼失したものと考えられ、それが起因となり建て替えが行われたものと考えられる。また、床面の炭化を観察したところ、部分的ではあるが、ムシロのような数物の痕跡を確認した。おそらく床面全体を覆っていた炭化物層はそうした数物であったと考えられる。合わせて建物壁面に炭化物と焼土塊の帯が形成されていたことから、板材のようなものが壁際に回っていたものと考えられる。

重複関係：1号方形周溝墓より古く、20号溝跡より新しい。

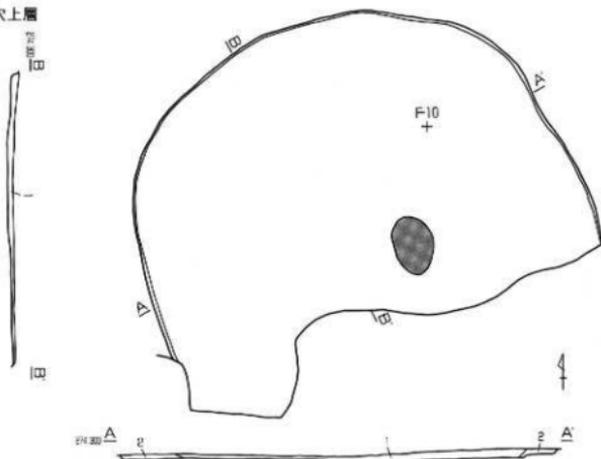
出土遺物：掲載遺物は上層に伴う遺物が153～159で、下層に伴う遺物が160～176であり、177～180は建物の柱材である。物量的には上層の遺物が多いが、下層の遺物は火災により放置されたためか残りが良く、161などは完形品であった。何より器種が多彩であり、一括資料として好資料であった。上層と下層の遺物は、口縁部に刻み目が入る甕を主体とする時期であり、遺物のみでは大きな時期差は感じられない。

17号竪穴建物跡（遺構：図27・28 遺物：図51）

位置：E-9・10及びF-9・10グリッド

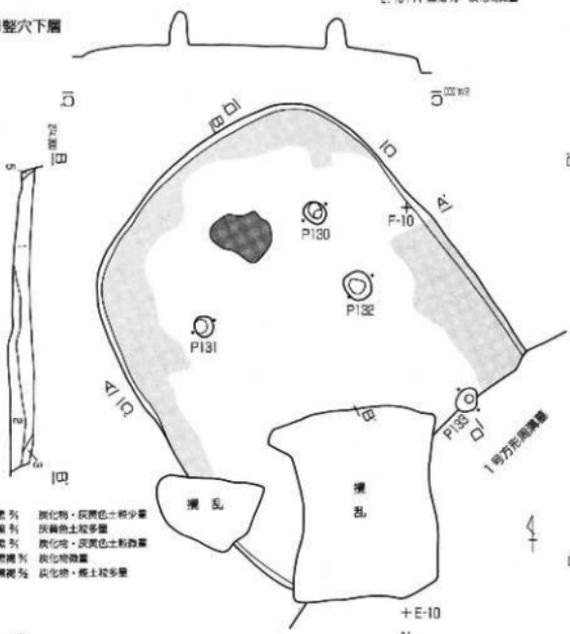
主軸方位：N-35°-W

17号整穴上层



1. 10YF 黑褐色 炭化物多量、黄褐色土粒少量
2. 10YF 黑褐色 炭化物少量

17号整穴下层



1. 10YF 黑褐色 炭化物、灰黄色土粒少量
2. 10YF 黑褐色 灰黄褐色土粒少量
3. 10YF 黑褐色 炭化物、灰黄色土粒少量
4. 10YF 黑褐色 炭化物少量
5. 10YF 黑褐色 炭化物、灰土粒少量

- | | |
|---------------------|--------|
| P130 | E |
| 274.300 W | E |
| 1 | U |
| 1. 2.5Y 黄褐色 灰黄色土粒少量 | |
| 2. 2.5Y 黄褐色 灰黄色土粒少量 | |
| 炭化物少量 | |
| 274.300 W | P131 E |
| 1 | U |
| 1. 2.5Y 黄褐色 灰黄色土粒少量 | |
| 炭化物少量 | |
| 274.300 W | P132 E |
| 1 | U |
| 1. 2.5Y 黄褐色 灰黄色土粒少量 | |
| 炭化物少量 | |
| 274.300 W | P133 E |
| 1 | U |
| 1. 2.5Y 黄褐色 灰黄色土粒少量 | |

图 27 17号整穴建物跡

検出状況：16号竪穴建物跡同様南側を1号方形周溝墓によって失い、西側も擾乱によって一部破壊されていた。本建物跡も上層と下層の2時期の建物跡が確認されている。上層の平面形は小判型であるが、隅丸方形に近い形態を呈し、検出範囲内での建物規模は南北約3.8m、東西約5.4mである。主柱は確認されなかったため、建物構造は不明である。炉跡は建物中央に位置すると考えられる。

下層の建物跡の平面形は小判型を呈し、柱穴は主柱が3基、ほかに1基検出されている。炉跡は建物北側中央に位置するが、本建物跡も火災により焼失したものと考えられ、壁際を中心に炭化物層が広がっていた。

重複関係：1号方形周溝墓より古い。

出土遺物：掲載遺物は181～185であり、上層からの出土が比較的多かった。182はS字甕A類であり、183はヒサゴ形壺であることから、上層段階では伊勢湾系の土器様相となっている。

18号竪穴建物跡（遺構：図28 遺物：掲載なし）

位置：E-20・21グリッド

主軸方向：N-30°-W（推定）

検出状況：大部分は調査区南壁外に展開していると考えられ、検出されたのは北側のみであった。平面形は小判型を呈し、柱穴は主柱が1基のみ検出されている。炉跡は建物北側中央に位置すると考えられるが、本建物跡も火災により焼失している。

重複関係：26・27号溝跡、19号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：土器小片が少量出土しているのみで、掲載できる遺物はなかった。

19号竪穴建物跡（遺構：図29 遺物：図51）

位置：E-20及びF-20グリッド

主軸方向：N-38°-E

検出状況：北側は24号溝跡によって失われているが、平面形は小判型を呈し、柱穴は主柱が2基、ほかに2基検出されているが、うち150号ビットは底部に板材が設置されていた。炉跡は中央北側に位置する。

重複関係：24号溝跡、18号竪穴建物跡より古く、26・28号溝跡より新しい。

出土遺物：掲載遺物は186～194である。

20号竪穴建物跡（遺構：図30 遺物：図51）

位置：F-20・21グリッド及びG-21グリッド

主軸方位：N-30°-W

検出状況：本建物跡東側は、擾乱と24号溝跡によって失われているが、平面形は隅丸長方形を呈し、検出範囲内での建物規模は南北約6.4m、東西約3.5mを測る。柱穴は主柱が2基検出され、炉跡は建物中央よりやや北側に位置する。

重複関係：24号溝跡より古く、26号溝跡より新しい。

出土遺物：規模に比べて遺物の数は少なく、掲載遺物は195・196である。

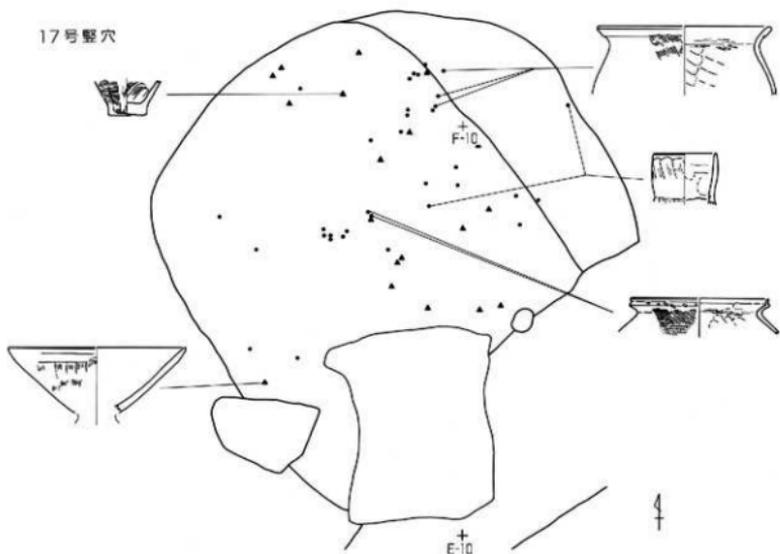
21号竪穴建物跡（遺構：図31 遺物：図51）

位置：東側確認調査区

主軸方向：N-59°-E

検出状況：平面形は不整形な小判型を呈するが、柱穴は検出されなかったため、建物構造は不明である。炉跡は建物中央に位置するが、他の建物跡ほど焼土塊が確認できなかった。

17号竖穴



18号竖穴

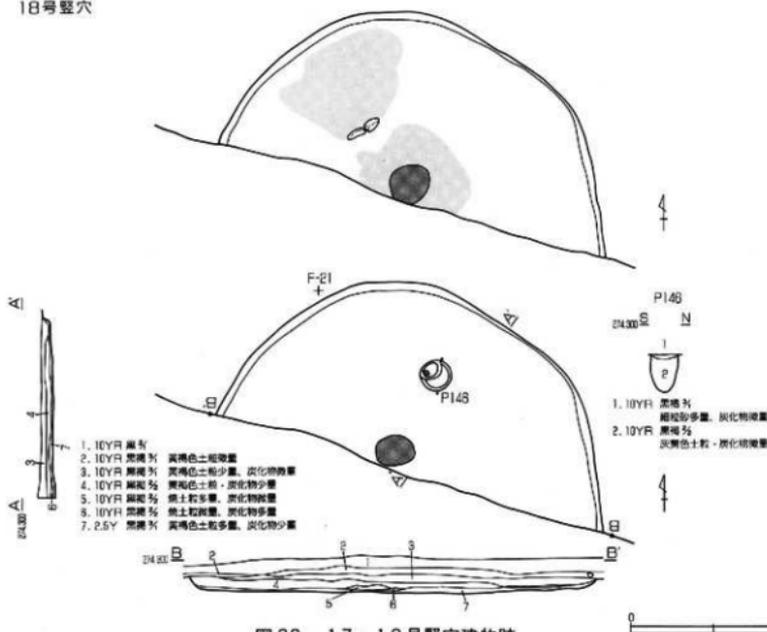


图28 17·18号竖穴建物跡

19号竖穴

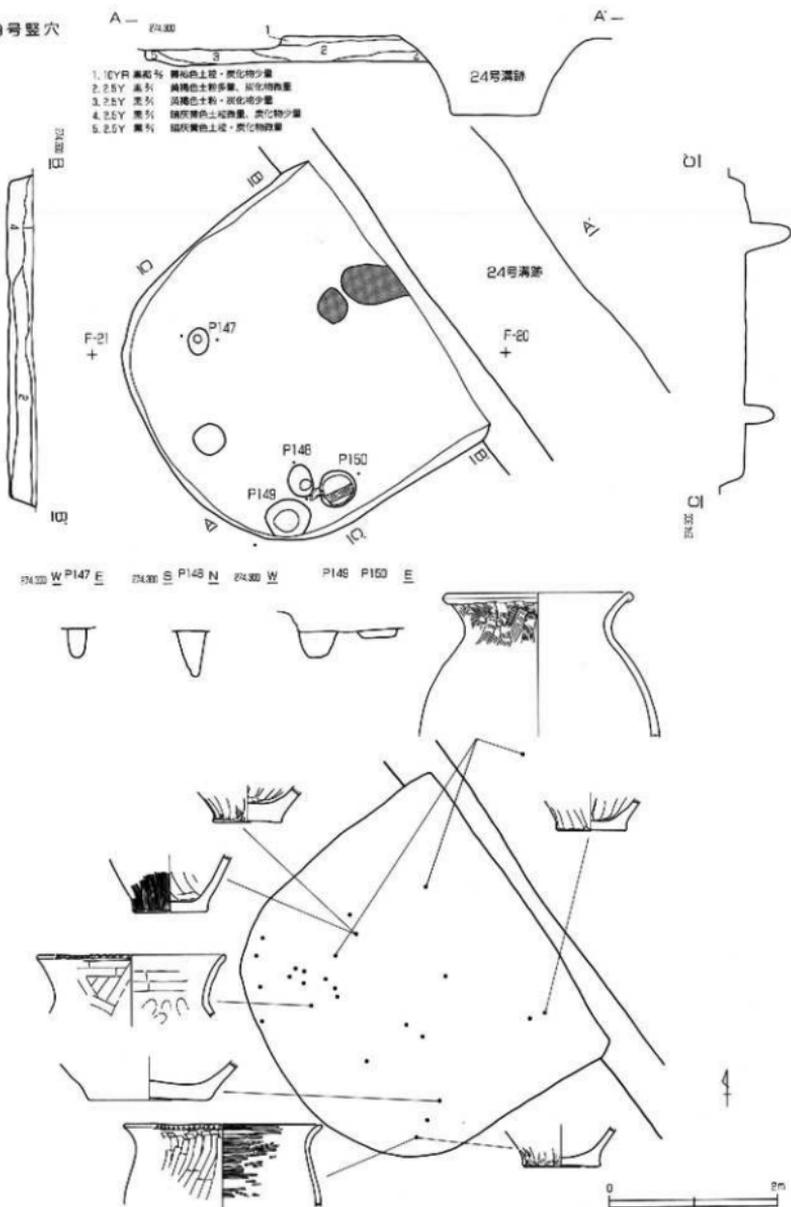


图29 19号竖穴建物跡

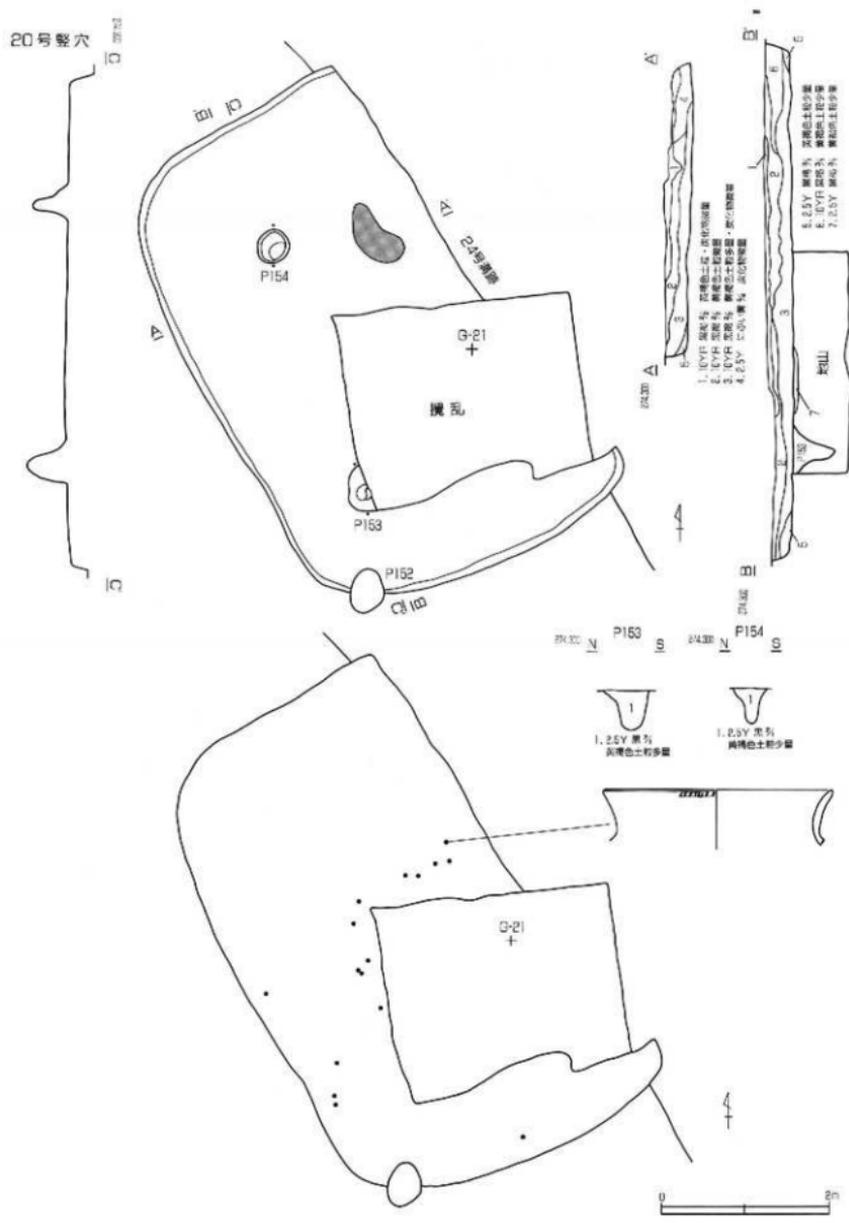


图 30 20号竖穴建物跡

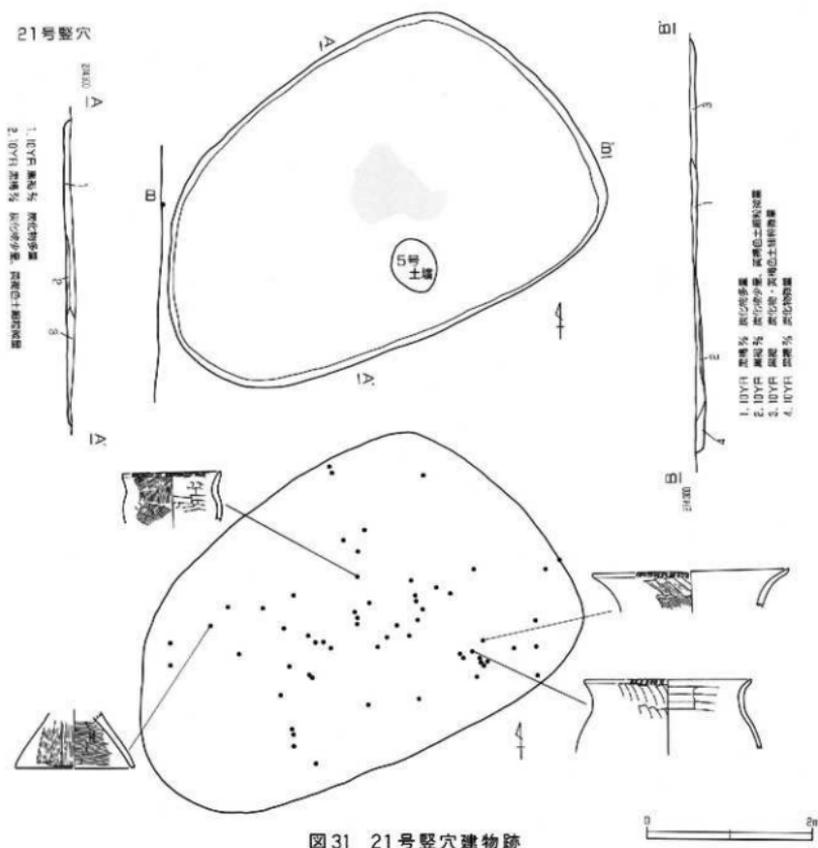


図31 21号竪穴建物跡

重複関係：32・33号溝跡、5号土坑より古い。

出土遺物：掲載遺物は197～199である。

22号竪穴建物跡（遺構：図32 遺物：図51）

位置：東側確認調査区

主轴方位：N-11°-E

検出状況：本建物跡は調査区東側と南側の外に展開しており、平面形は隅丸方形あるいは小判型を呈すると思われる。検出範囲内での建物規模は南北約2.3m、東西約4.5mを測る。柱穴は3基検出しているが、163号ビットが主柱になる可能性がある。炉跡は確認できなかった。

重複関係：34号溝跡より古く、5号平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：出土遺物は少なく、掲載遺物は200の手づくね土器のみである。

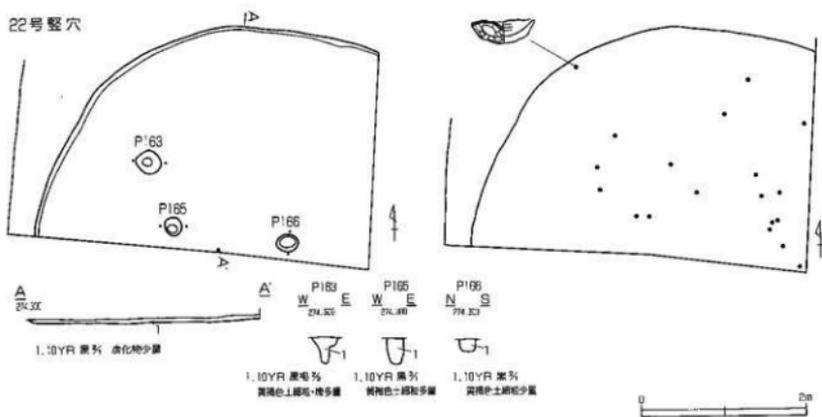


図32 22号竪穴建物跡

(2) 平地建物跡

基本的には掘立柱建物に炉跡が伴うものを平地建物跡として扱うこととするが、既刊の『埴部遺跡Ⅰ』において報告した周溝付平地建物跡も平地建物跡の一形態である。

1号平地建物跡 (遺構：図33 遺物：図51)

位置：A-5グリッド

主軸方位：N-28°-W 柱穴：44・54~58号ビット

検出状況：6基の柱穴を検出しているが、うち55・56号ビット、57・58号ビットは重複していたことから建て替えがあった可能性もある。柱間は北西から南東方向へ約2.2m、北東から南東へ約1.5mを測る。柱穴平面形は円形で、炉跡は建物中央よりやや西側に位置する。面的に炭化物層が確認され、付近にも炭化物が広がっていたため、火災により焼失したと考えられる。破線は推定規模を表すが、東西方向に浅い落ち込みが確認されており、その位置を建物範囲として想定している。

重複関係：3号溝跡より古い。16号竪穴建物跡、2号平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：本建物跡周辺では土器が多数出土しているが、いずれも小片であり、掲載遺物は、201の石鏃のみである。

2号平地建物跡 (遺構：図34 遺物：図51)

位置：A-5及びB-5グリッド

主軸方位：N-20°-W 柱穴：43・45・53号ビット

検出状況：3基の柱穴を検出しているが、南西側では柱穴は確認できなかった。柱間は北西から南東へ約3.5m、北東から南西へ約2.6mを測る。柱穴平面形は円形で、炉跡は建物北側中央部に位置する。破線は推定規模を表すが、北・西側は浅い落ち込みがあり、その位置を建物範囲として想定している。

重複関係：9号溝跡、11号竪穴建物跡、2号土壌より古い。1号平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は202~204である。

1号平地

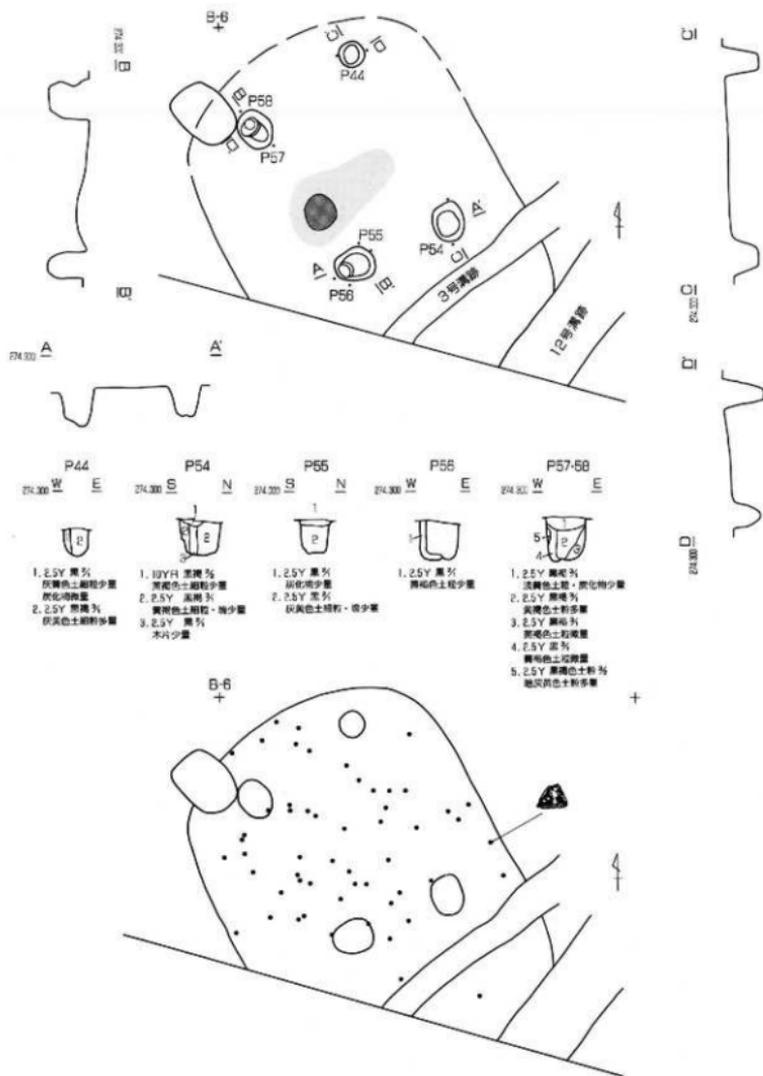


图 33 1号平地建物跡



2号平地

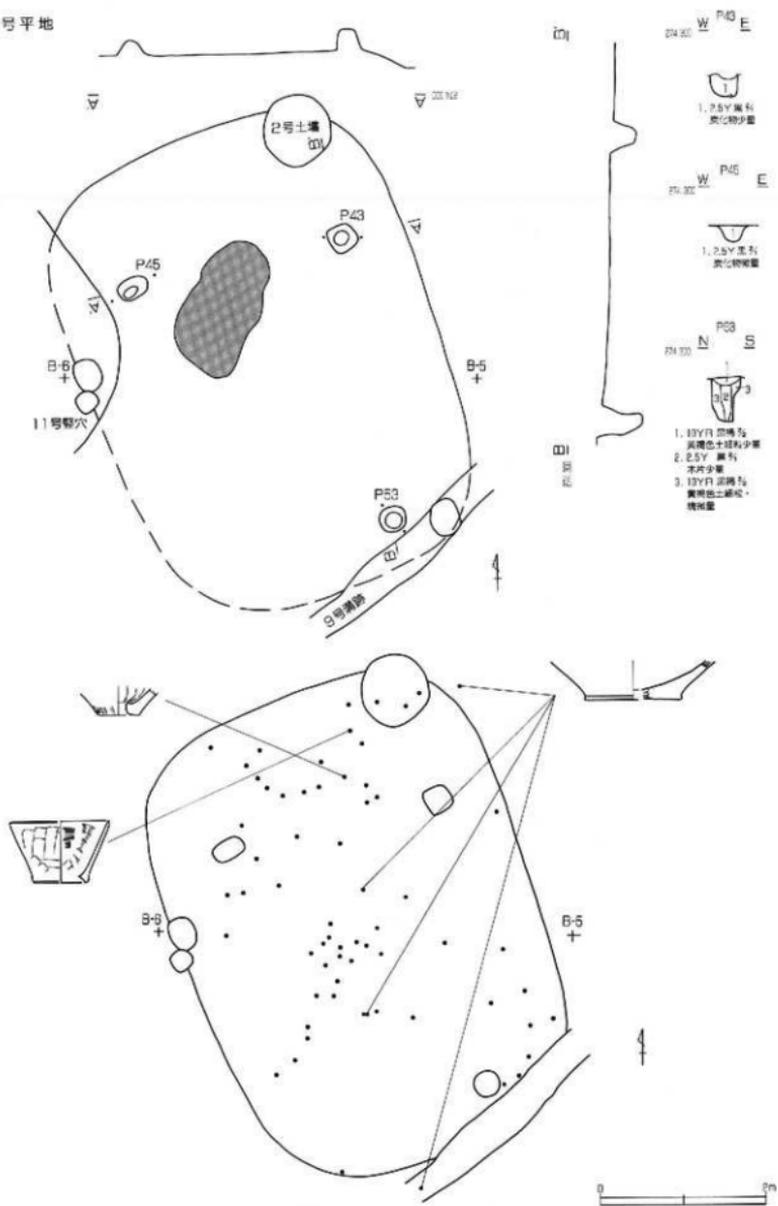


图34 2号平地建物跡

3号平地建物跡 (遺構：図35 遺物：掲載なし)

位置：D-8・9グリッド

主軸方位：N-29°-W 柱穴：109~112・115号ピット

検出状況：検出範囲内で柱穴は5基確認されており、うち111・115号ピットが主柱となると考えられる。北側は1号方形周溝墓によって失われているため、東西方向のみの規模であるが、111・115号の柱間は約3.2mを測る。柱穴平面形は円形で、炉跡は建物中央に位置する。破線は推定規模を表し、概ね5m規模の建物と想定される。

重複関係：1号方形周溝墓より古く、20~22号溝跡より新しい。

出土遺物：炉跡より南側を中心に土器小片が少量出土しているが、掲載遺物はない。

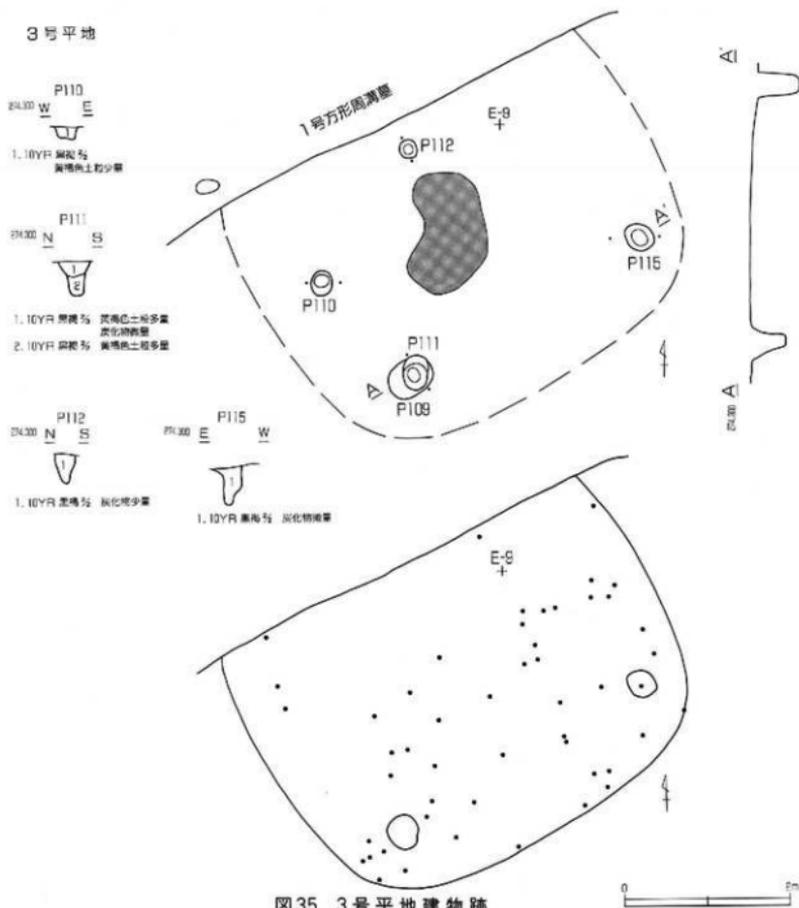


図35 3号平地建物跡

4号平地建物跡（遺構：図36・37 遺物：図51）

位置：G-19及びH-19グリッド

主軸方位：N-36°-W 柱穴：135～142号ビット

検出状況：本建物跡は微高地上からの傾斜地が緩やかに下った低地部に位置し、安定した黄褐色土ではなく黒色粘質土上に建てられていた。柱穴は8基検出されており、平面形は円形及び楕円形で、135・137～139・141号ビットには丸太材の柱根が残存していた。想定される建物平面形は長方形を呈し、柱間は北西から南東へ約3.4m、北から南へ約2.8mを測る。炉跡は建物南側中央に位置していたが、掘り込みなどは確認されなかった。本建物跡床面には火災によるとみられる炭化物が広範囲に確認されたが、破線は炭化物層の範囲などを考慮して推定した建物規模であり、南北方向に6m、東西方向に4.6mの大きさが想定される。また、炉跡周辺の炭化物層からは多量の炭化米や雑穀類が検出されている。

重複関係：重複はなし。

出土遺物：掲載遺物は205～216であるが、本建物が立地する微高地からの緩斜面付近には多数の土器小片が散乱していたが、遺構に伴うとみられる遺物を中心に掲載した。

5号平地建物跡（遺構：図37 遺物：掲載なし）

位置：東側確認調査区

主軸方位：N-40°-W 柱穴：162・164・167・168号ビット

検出状況：本建物跡は調査区外に展開していると考えられ、検出範囲内で柱穴数は4基確認されているが、柱穴平面形はすべて円形であった。炉跡は建物中央からやや東側に位置する。

重複関係：22号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：土器小片が微量出土したのみであり、掲載遺物はなし。

(3) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡については、記載する規模や柱間はすべて中心からの距離で計測している。

1号掘立柱建物跡（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：A-6及びB-6グリッド

主軸方位：N-48°-W 柱穴：65・71・87号ビット

検出状況：南側は2号方形周溝墓によって大きく削平されていたが、87号ビットは北面から底部までが残存していた。建物本体は調査区外に展開すると考えられるが、建物平面形は長方形を呈すと考えられる。柱穴は3基検出しているが、柱穴平面形は方形または長方形とみられ、71号から87号ビットの柱間は約2.4m、65号から71号ビットの柱間は約1.8mを測る。

重複関係：9号溝跡、11号竪穴建物跡、2号方形周溝墓より古い、4号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：65号ビットから土器が3点出土しているのみである。

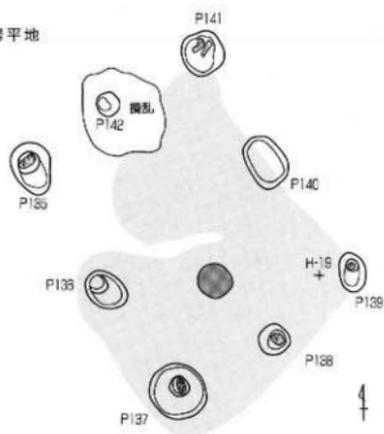
2号掘立柱建物跡（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：A-4・5グリッド

主軸方位：N-45°-W 柱穴：37～40・51号ビット

検出状況：東側は調査区外に展開すると考えられ、建物平面形は正方形を呈す可能性がある。柱穴は5基検出されており、柱穴平面形は円形で、柱間は北東から南西へ約2.9m、北

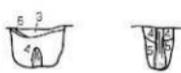
4号平地



274.00 N P135 S 274.00 N P136 S



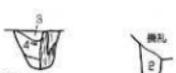
274.00 N P137 S 274.00 W P138 E



274.00 S P139 N 274.00 S P140 N



274.00 S P141 N 274.00 W P142 E



- 1. SY 層別 炭化層・木片少量
- 2. 2.5Y 層別 炭化層少量
- 3. 炭化層
- 4. 5Y 層別 炭化層・灰オリーブ色土灰少量
- 5. 5Y 層別 炭化層
- 6. 5Y オリーブ層別 灰黄色土灰少量

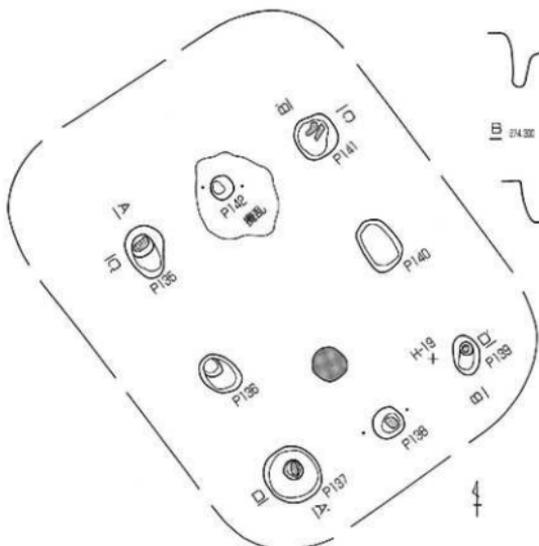
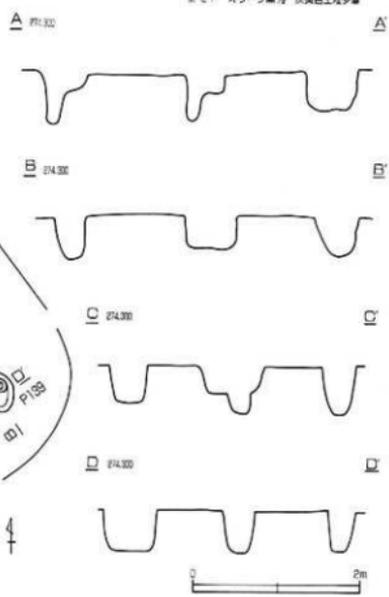


図36 4号平地建物跡(1)

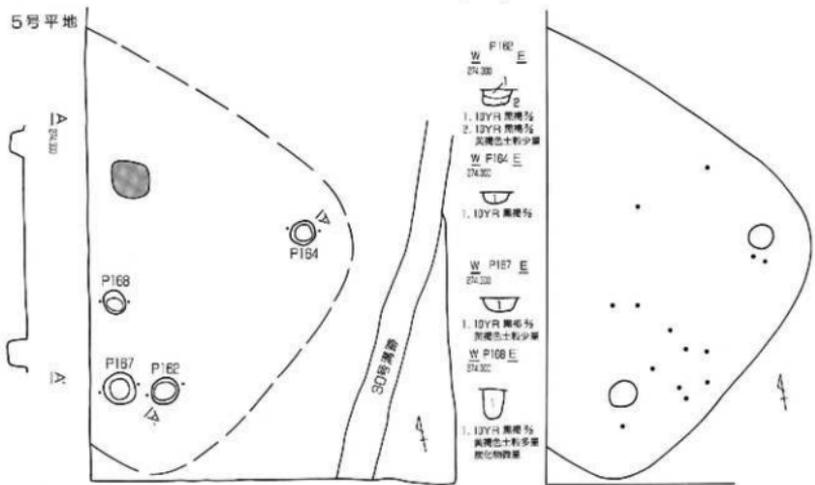
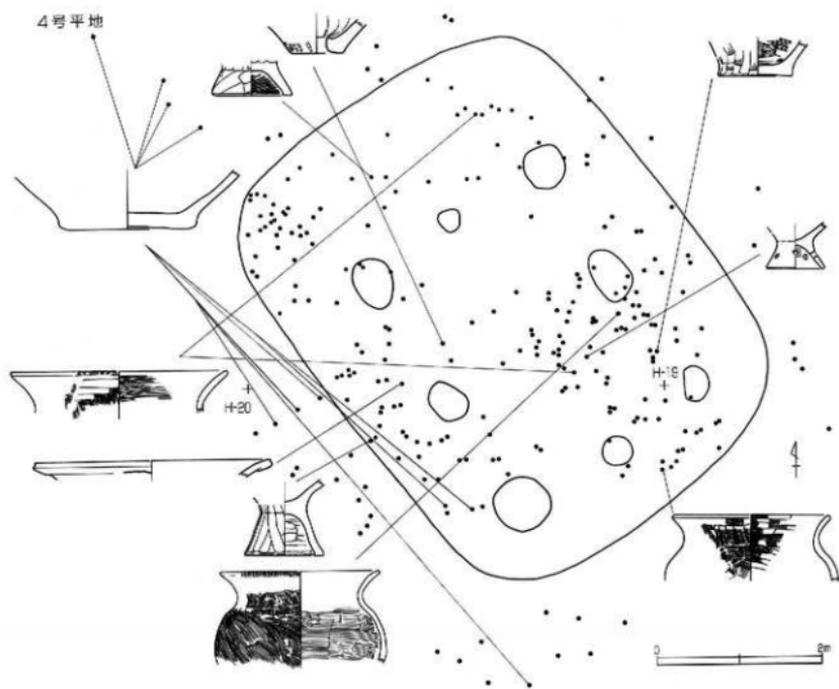


图 37 4·5号平地建物跡

西から南東へ約2.7mを測る。40・51号ビットについては、遺構確認時には明確な形が確認できず、他の遺構掘削段階で検出している。しかし、39号ビットにおいて12号溝跡より新しいことを確認している。

重複関係：12号溝跡、9号竪穴建物跡より新しい。3号溝跡、3号土塼との新旧関係は不明である。

出土遺物：37・38・39・40号溝跡からそれぞれ土器数点が出土している。

3号掘立柱建物跡（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：B-6・7グリッド及びC-6・7グリッド

主軸方位：N-70°-E 柱穴：22・23・78・79・81号ビット

検出状況：北側の柱穴列は調査区外に延びると考えられるが、建物平面形は長方形を呈す。柱穴は5基検出されており、柱穴平面形は円形で、柱間は南北約2.5m、東西約3.0mを測る。

重複関係：6・8号溝跡、6号竪穴建物跡より古い。

出土遺物：22・23号ビットから土器数点が出土している。

4号掘立柱建物跡（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：A-6グリッド及びB-6グリッド

主軸方位：N-22°-W 柱穴：64・70・74・82・88号ビット

検出状況：南西側は2号方形周溝墓によって失われているが、建物平面形は長方形を呈す。柱穴は5基検出されており、柱穴平面形は円形で、柱間は北西から南東へ約3.0m、北東から南西へ約2.3mを測る。

重複関係：6・9・11号溝跡、11号竪穴建物跡、2号方形周溝墓より古い、1号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：74号ビットから土器が3点出土しているのみである。

(4) 柱穴列

調査区壁際付近に位置する柱穴列には、柱穴規模や規則性から判断し、掘立柱建物跡の可能性が高いものも存在するが、対になる柱穴列を確認した訳ではないために客観的にみて柱穴列とした。

1号柱穴列（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：E-21・22グリッド

主軸方位：N-70°-W 柱穴：157・158号ビット

検出状況：調査区西端で確認されたため全体は不明であるが、ビットの規模からも建物跡になる可能性が高い。検出範囲内では2基の柱穴のみ確認されたが、長さは約2.4mを測る。柱穴平面形は隅丸方形または楕円形である。

重複関係：27・28号溝跡より新しいが、2号柱穴列との新旧関係は不明である。

出土遺物：各ビットから1点土器が出土しているのみである。

2号柱穴列（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：E-21及びF-21グリッド

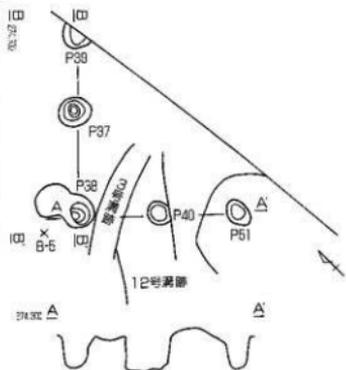
主軸方位：N-60°-E 柱穴：152・155・156号ビット

検出状況：3基の柱穴で構成され、長さは約4.2mを測る。柱穴平面形は円形または楕円形である。東西側に対応する柱穴列がないことから、単独の柱穴列である可能性がある。

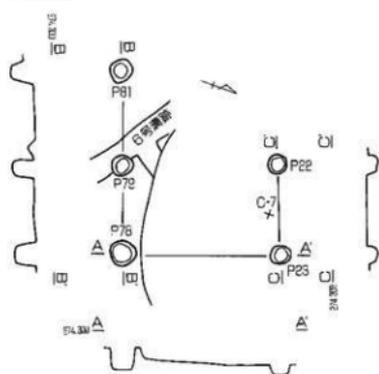
1号掘立



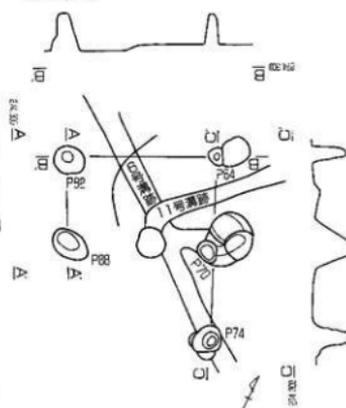
2号掘立



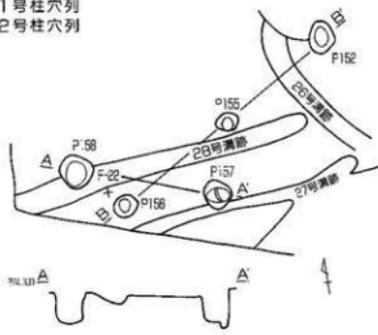
3号掘立



4号掘立



1号柱穴列
2号柱穴列



3号柱穴列

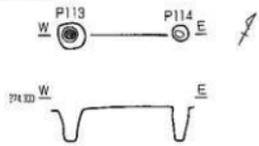
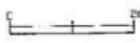


图 38 1~4号掘立柱建物跡及び1~3号柱穴列



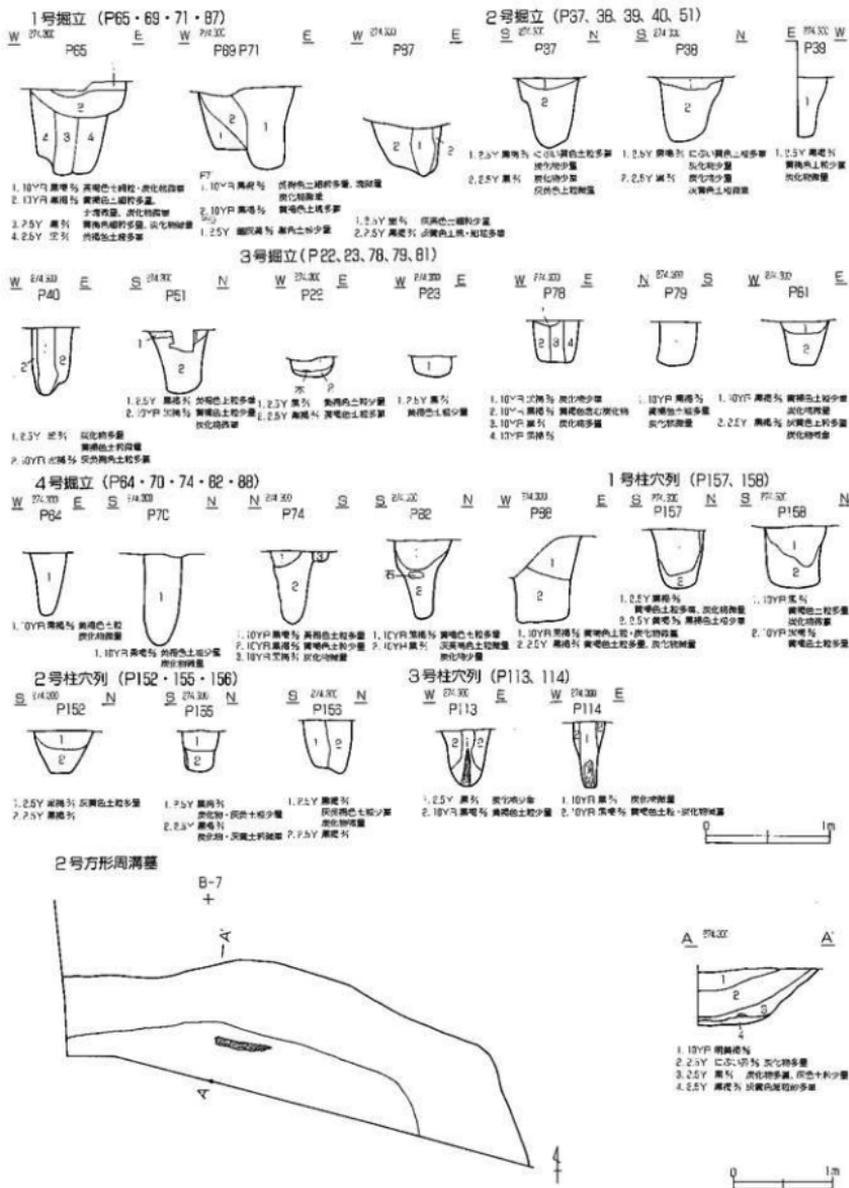


図 39 掘立柱建物跡及び柱穴列セクション、2号方形周溝壁

重複関係：20号竪穴建物跡より新しい。1号柱穴列との新旧関係は不明である。
出土遺物：各ピットから2・3点土器が出土しているのみである。

3号柱穴列（遺構：図38・39 遺物：掲載なし）

位置：D-8グリッド

主軸方位：N-61°-E 柱穴：113・114号ピット

検出状況：2基の柱穴で構成され、長さは約1.7m、柱穴平面形は円形である。規模は小さいが、113号ピットには柱根が残存しており、何らかの構造物が存在していたことは確実である。残念ながら調査ではほかに対応する柱穴を発見できなかったが、建物跡になる可能性が高い。

新旧関係：22号溝跡より新しいが、20号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：114号ピットから3点土器が出土している。

第3節 方形周溝墓

今回2基の方形周溝墓が検出された。これまで塚部B地区で検出された方形周溝墓を西限と考えていたが、甲府工業高校地区一帯に展開する方形周溝墓群が予想以上に東西方向に広く展開していることが明らかとなった。

1号方形周溝墓（遺構：図40 遺物：図52～55）

位置：B-8～10及びC-7～10、D-7～10、E-7～10グリッド付近

主軸方位：N-28°-W

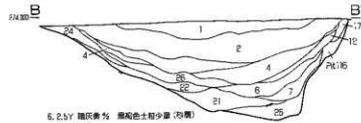
検出状況：平成14・15年度調査区に跨って分割調査された方形周溝墓であり、平成14年度当初は一部分の調査であったことから、溝跡と捉えていた遺構である。方形周溝墓主体部はもう少し土盛りがあったらしく、この部分のみ洪水の粗粒砂は掘削段階から検出されなかった。したがって、主体部についてはすでに削平されて失われているものと考えられ、周溝のみの検出である。方形周溝墓の全体規模は、南北方向が全長約17m、東西方向が約19mの大きさになるものと考えられ、主体部となる墳丘部は南北方向が約10m、東西方向が約11.5mである。南西隅が主体部へと渡る橋となっていたが、周溝はB-10グリッド付近で外側に張り出すような形態となっている。周溝部の土層堆積状況は上層部に粗粒砂が幾重にも層をなしており、洪水により一気に砂が堆積したものと考えられる。下層には黒色土系の堆積土があり、開口していた段階での自然堆積土と考えられる。特に14・16号竪穴建物跡付近では、炭化物などが多量にみられたが、風化による土砂堆積により建物内の炭化物が零れ落ちて堆積していた。したがって、B-8グリッド内で出土した268の紡錘車などは、13・14号竪穴建物跡のいずれかで使用していたものが周溝内に流れ込んだものと考えられる。

重複関係：重複するすべての遺構より新しい。

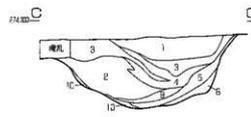
出土遺物：掲載遺物は217～274である。特徴的な土器としては、229のS字甕高台部、231の畿内系土器、234の加飾壺などが出土している。特にC-10、D-9・10、E-9グリッドにかけては、丁寧に金属製品で削られたと考えられる棒状あるいは板状の木製品が多量に出土しており、焼けた痕跡などがなくことから方形周溝墓の造営に関わる遺物と考えられる。土木用あるいは建築用としても棒状の材などは細すぎるが、247などに開けられた孔をみると、組み合わせで使用できそうにもみえる。また、木製品と合わせてE-8グリッド内からは、米が詰まっていたと考えられる220の小甕と221の骨が周溝底部から発見されたが、木製品と合わせて考えると、埋葬に関わる何らかの祭祀に使用された遺物である可能性が高い。ほかにもC-8グリッド杭の直下からは235の曲柄二



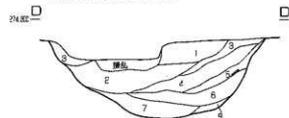
- 1. 2.5Y オリーブ色 腐植性土砂少量
- 2. 2.5Y 黄褐色 (砂層)
- 3. 2.5Y 黄褐色 腐植性土砂少量 (砂層)
- 4. 5.5Y 黄褐色 (砂層)
- 5. 5 Y オリーブ黒色 灰オリーブ土砂多量



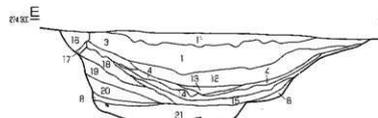
- 6. 2.5Y 黄褐色 腐植性土砂少量 (砂層)
- 7. 2.5Y 黄褐色
- 8. 2.5Y 黄褐色 (砂層)
- 9. 2.5Y 黄褐色 赤土多量、灰土少量 (砂層)
- 10. 2.5Y 黄褐色 腐植性土砂少量 (砂層)
- 11. 2.5Y 黄褐色 オリーブ暗砂少量



- 12. 2.5Y 黄褐色 (砂層)
- 13. 2.5Y 黄褐色 (砂層)
- 14. 2.5Y 黄褐色
- 15. 5 Y 灰黄色 腐植性土砂少量 (砂層)
- 16. 2.5Y 黄褐色
- 17. 10YR 黄褐色 腐植性暗砂少量



- 18. 2.5Y 黄褐色 腐植性土砂少量 (砂層)
- 19. 2.5Y 黄褐色 灰オリーブ色土砂多量
- 20. 2.5Y 黄褐色
- 21. 5 Y 灰黄色 腐植性土砂少量
- 22. 5 Y オリーブ黒色



- 23. 10YR 黄褐色 (砂層)
- 24. 2.5Y 黄褐色 (砂層)
- 25. 10 Y 灰黄色 オリーブ褐色土砂少量
- 26. 2.5Y オリーブ黒色
- 27. 5 Y オリーブ黒色 灰オリーブ暗砂少量
- 28. 2.5Y 黄褐色 腐植性土砂少量

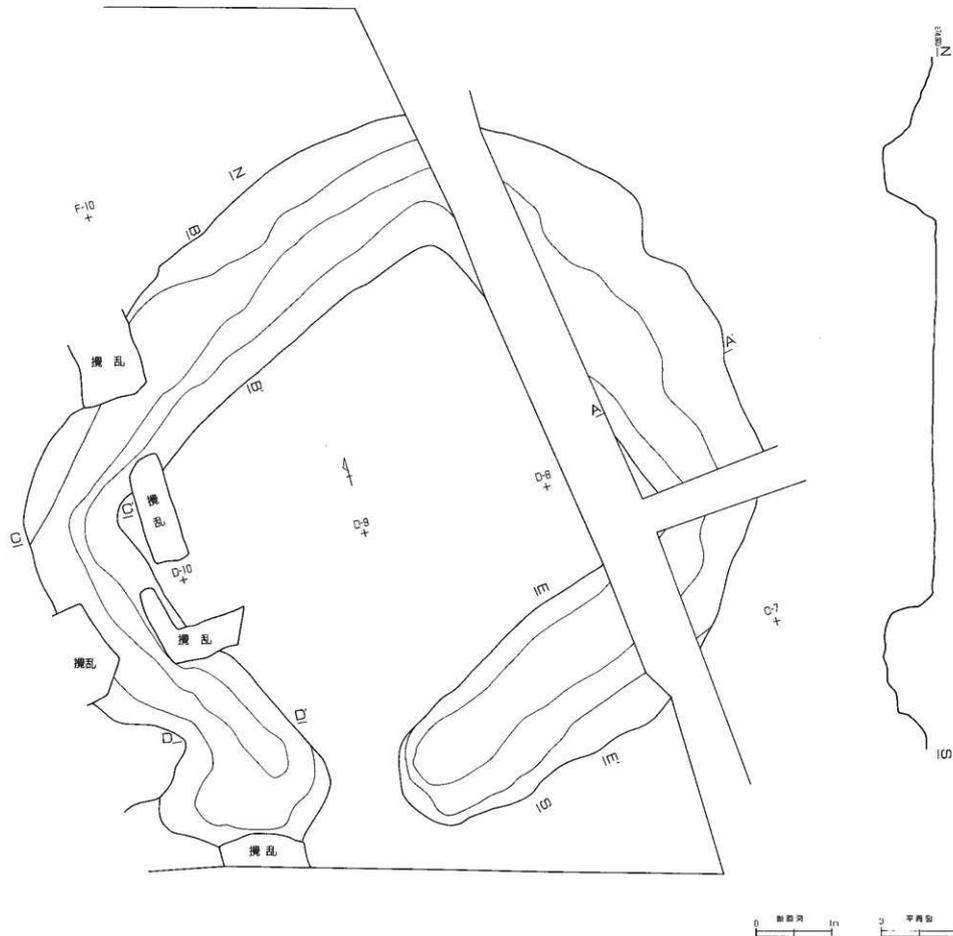


図40 1号方形周溝墓

股線が出上している。この線は東海地区を中心にみられる独特の形態であり、方形周溝墓の埋葬者、あるいは造営者を考える上で極めて重要な資料となるであろう。

2号方形周溝墓（遺構：図39 遺物：図55）

位 置：B-6・7グリッド

主軸方位：N-15°-E（推定）

検出状況：主体部も合わせた大部分は調査区南側に展開しているものと考えられ、検出されたのは周溝北側の一部分のみであった。全体規模は不明であるが、1号方形周溝墓同様上層には調査区を覆っている粗粒砂層が厚く堆積していた。位置的にみると5号溝跡もその一部分である可能性もある。

重複関係：12号竪穴建物跡、1・4号掘立柱建物跡より新しい。

出土遺物：出土数は少なく、掲載遺物は275～278である。

第4節 土壌

1号土壌（遺構：図41・遺物：なし）

位 置：B-6グリッド

検出状況：遺構平面形は不整楕円形で、規模は長軸約0.9m、短軸約0.75mである。6号竪穴建物跡に関連した土壌である可能性もある。

重複関係：6号竪穴建物跡と同時期かそれより古い。

出土遺物：なし

2号土壌（遺構：図41・遺物：掲載なし）

位 置：B-5グリッド

検出状況：遺構平面形は円形で、規模は長軸約0.9m、短軸約0.8mである。

重複関係：2号平地建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

3号土壌（遺構：図41・遺物：図55）

位 置：D-9グリッド

検出状況：遺構平面形は不整楕円形で、規模は長軸約2.3m、短軸約1.9mである。壁面は凹凸が激しく、不整形に掘り込まれていたが、底面付近に炭化物が散り、石製品が置かれていた。

重複関係：5号溝跡、10号竪穴建物跡より古い。2号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：掲載遺物は279～281である。279はくぼみ石であり、280は砥石と考えられる。

4号土壌（遺構：図41・遺物：掲載なし）

位 置：F-19グリッド

検出状況：24号溝跡により南側半分を失っているが、遺構平面形は不整長方形で、規模は長軸約2.5m、短軸約1.0mである。底面に植物の根によるとみられる凹凸があり、風倒木痕か樹木の抜痕である可能性もある。

重複関係：24号溝跡より古い。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

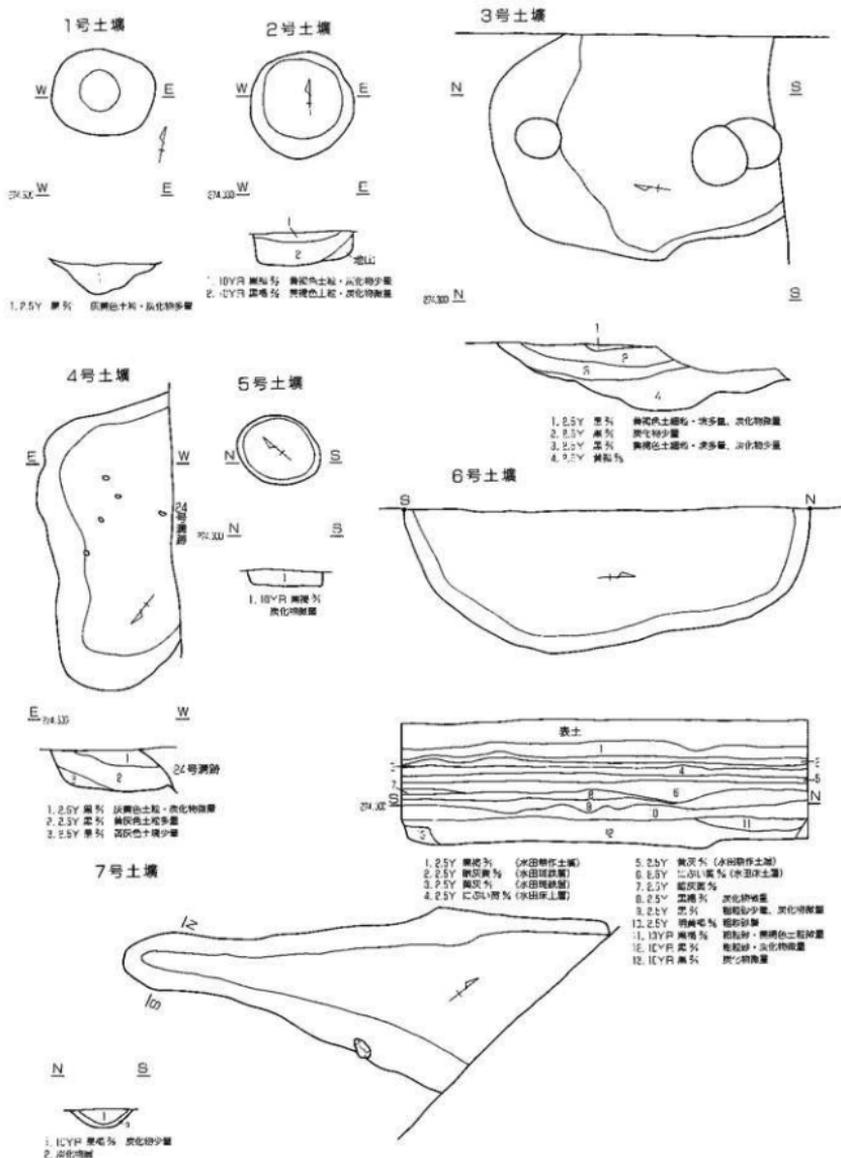


图 41 1~7号土壤



5号土壙（遺構：図41・遺物：なし）

位置：東側確認調査区

検出状況：遺構平面形は楕円形で、規模は長軸約0.65m、短軸約0.6mである。

重複関係：21号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：なし。

6号土壙（遺構：図41・遺物：掲載なし）

位置：東側確認調査区

検出状況：西側は調査区外に展開すると考えられるが、遺構平面形は隅丸長方形と予測される。

検出範囲内での規模は長軸約3.3m、短軸約1.1mである。

重複関係：33号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：甕などの土器小片が微量出土している。

7号土壙（遺構：図41・遺物：掲載なし）

位置：B-7グリッド

検出状況：13号竪穴建物跡床面からは高い位置で確認された土壙で、底面全体から炭化物層が検出された。遺構平面形は三角形と予測され、検出範囲内での規模は長軸約3.0m、短軸約1.9mである。

重複関係：13号竪穴建物跡より新しい。

出土遺物：甕などの土器片が少量出土している。

第5節 遺構外出土遺物ほか（図56・57）

遺構外出土遺物として扱う中でもC-11-13、D-12・13グリッド、あるいはE-18、F-18・19、G-18・19、H-19・20、I-20グリッドにかけて形成されている微高地から低地への落ち込みに多数の土器片が带状に捨てられていた。C、Dライン上では口縁に刻み目が入る甕が最も多く出土し、最新の遺物として286のようなS字甕A類が入っている。また、調査区西側の4号平地建物跡周辺の落ち込みに廃棄された土器をみると、316・318・326のような庄内甕の破片なども散見される。庄内甕については、調査区内でも311が最も東側で確認されている庄内甕になり、集落内でも西側では多いがD-9グリッドから東側ではみられない土器である。庄内甕の作り手の生活圏と何か関わりがあるのだろうか。

また、時代は全く違うが、水田造成に関わる床土層から332・333の大窯段階の遺物が得られている。水田は2面確認されているが、資料が出土したのは下層の水田層である。遺物の年代は16世紀前半から16世紀中葉であるが、それらが廃棄されているところをみると、16世紀後半から17世紀初頭までの間に塩部における大規模な水田造成が行われたと考えられ、水田開発を知る手掛りを示す資料として掲載した。また、最新の資料として282の焼夷弾頭を掲載した。山梨県教育委員会委員会発刊の報告書（山梨県教委1996）で村石氏が詳細な考察を行っているが、本地区内においても弾頭の数から2発の着弾が確認されている。また、回収できないほど腐食が著しいものがほとんどであったが、焼夷弾の着弾が15個所確認されていることから、米軍による空襲が甲府市街地手前の塩部付近にも及んでいたことを裏づけることとなった。

ビット観察表

単位: cm () は現存値

番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備考	番号	平面形態	位置	長径	短径	深度	備考
1	円形	E-7	33	27	32	土器あり	62	円形	A-5	27	23	12	
2	円形	E-7	28	24	11		63	円形	B-6	23	22	15	
3	円形	E-7	36	33	67	土器あり	64	円形	B-6	31	27	52	
4	円形	E-7	25	24	47		65	方形	A-6	81	60	75	土器あり
5	円形	E-6	38	36	71		66	円形	A-6	32	(24)	14	
6	円形	E-6	52	47	83	土器あり	67	円形	A-6	34	32	18	土器あり
7	円形	E-6	41	39	76		68	円形	A-6	50	46	49	土器あり
8	円形	E-6	54	48	32	土器あり	69	楕円形	B-6	56	38	47	
9	円形	E-6	46	43	24		70	楕円形	A-6	67	(42)	57	
10	円形	E-6	32	31	32		71	楕円形	B-6	68	(23)	68	
11	楕円形	E-6	50	38	25		72	楕円形	B-6	53	43	11	
12	円形	E-6	36	36	40		73	円形	B-6	44	38	8	土器あり
13	円形	E-6	32	29	74		74	不整形円形	A-6	49	42	39	土器あり
14	円形	D-5	54	50	37		75	円形	B-5	42	32	30	土器あり
15	円形	D-6	36	35	48		76	円形	B-6	30	28	14	
16	楕円形	D-6	53	39	56	土器あり	77	円形	B-5	43	39	45	遺物281
17	円形	C-6	50	44	21		78	円形	B-6	41	40	34	
18	円形	C-6	52	45	51		79	円形	B-6	44	32	35	
19	円形	B-6	43	39	47		80	円形	B-6	30	29	14	
20	不整形円形	B-7	52	31	71	土器あり	81	円形	B-7	42	34	37	
21	楕円形	C-6	49	32	60		82	円形	B-6	49	47	49	土器あり
22	円形	B-7	32	30	17	土器あり	83	円形	B-6	39	37	13	
23	円形	C-6	33	32	18	土器あり	84	円形	B-6	40	31	14	
24	円形	C-6	46	37	70		85	円形	B-6	49	47	63	
25	円形	C-6	38	32	64	土器あり	86	円形	B-6	44	34	16	
26	楕円形	C-6	40	24	88	土器あり	87	円形	A-6	60	50	40	
27	方形	C-6	70	61	52		88	楕円形	A-6	63	40	70	
28	円形	C-6	32	29	59		89	円形	A-7	36	30	63	
29	円形	C-6	43	30	43		90	円形	B-8	(40)	32	8	
30	円形	C-6	44	40	36	土器あり	91	円形	B-8	26	25	23	土器あり
31	円形	C-6	44	43	38	土器あり	92	円形	B-8	40	33	18	
32	不整形円形	C-5	62	46	47	土器あり	93	円形	B-7	25	23	67	
33	円形	C-5	43	42	39	土器あり	94	円形	B-8	60	52	46	
34	円形	C-5	42	36	40	土器あり	95	円形	B-8	30	25	65	
35	円形	C-4	(28)	22	44		96	円形	B-8	29	26	39	
36	円形	C-4	32	28	35		97	円形	B-7	40	38	29	
37	円形	B-4	55	48	57	土器あり	98	円形	B-8	70	66	52	土器あり
38	円形	A-4	58	51	50	土器あり	99	円形	C-8	50	43	34	
39	円形	B-4	(50)	43	47	土器あり	100	円形	C-8	32	32	60	
40	円形	A-4	40	38	53	土器あり	101	楕円形	C-9	43	30	66	柱根あり
41	円形	B-4	60	50	29		102	円形	C-8	28	27	54	柱根あり
42	円形	B-4	31	28	19		103	円形	C-9	(42)	34	20	柱根あり
43	方形	B-5	39	37	27	土器あり	104	不整形円形	D-9	54	38	28	土器あり
44	円形	A-5	32	30	39		105	円形	C-9	51	47	45	
45	楕円形	B-5	38	27	20		106	円形	C-9	58	51	43	
46	不整形円形	A-4	55	49	43	土器・柱根あり	107	円形	C-9	32	28	44	
47	円形	A-4	49	46	65	土器あり	108	円形	D-9	42	41	33	
48	楕円形	A-4	(52)	41	45	土器あり	109	円形	D-9	42	38	26	土器あり
49	方形	A-4	(68)	50	22		110	円形	D-9	30	25	15	
50	円形	A-4	(60)	48	30		111	円形	D-9	42	38	42	
51	楕円形	A-4	47	33	52	土器あり	112	円形	D-9	24	22	36	
52	円形	A-5	45	37	57		113	円形	D-8	49	43	46	柱根あり
53	円形	A-5	33	32	54		114	円形	D-8	31	27	50	土器・柱根あり
54	円形	A-5	50	38	43		115	円形	D-8	38	32	47	土器あり
55	円形	A-5	42	(30)	42		116	円形	D-9	28	17	50	
56	円形	A-5	32	(20)	49	土器あり	117	円形	F-9	30	28	101	土器・柱根あり
57	楕円形	A-5	38	(24)	58		118	円形	F-8	42	40	62	
58	楕円形	A-5	36	(29)	55	土器あり	119	円形	F-8	27	24	72	土器・柱根あり
59	不整形円形	B-6	54	43	63		120	円形	F-9	37	36	32	
60	円形	B-6	22	20	14	土器あり	121	円形	F-9	52	42	27	
61	円形	B-6	26	20	17		122	円形	E-8	37	37	29	柱根あり

ビット観察表

単位: cm () は現存値

番号	平面形態	位置	長さ	短径	深度	備考	番号	平面形態	位置	長さ	短径	深度	備考
123	円形	F-8	38	35	26		147	円形	F-20	32	23	36	
124	円形	E-9	43	41	21		148	楕円形	E-20	38	28	55	
125	円形	F-8	50	42	82		149	円形	E-20	52	51	35	土器あり
126	円形	F-8	25	23	78	柱根あり	150	円形	E-20	44	43	10	土器・礎石あり
127	円形	F-8	32	(22)	48	土器あり	151	円形	F-20	26	25	32	土器あり
128	円形	E-9	26	22	74	土器・柱根あり	152	不整楕円形	F-21	52	43	35	
129	円形	F-9	30	25	35		153	円形	F-21	60	(50)	48	土器あり
130	円形	E-10	30	24	38		154	円形	G-21	42	39	43	
131	円形	E-10	25	22	44		155	円形	F-21	36	30	34	土器あり
132	円形	E-10	35	31	37		156	円形	E-21	40	35	44	土器あり
133	円形	E-9	30	25	47		157	円形	E-21	48	42	55	土器あり
134	円形	F-15	27	18	30		158	円形	F-22	54	52	50	土器あり
135	楕円形	H-19	63	49	64	柱根あり	159	楕円形	E-22	(53)	(40)	74	土器あり
136	楕円形	G-19	52	40	56	土器あり	160	円形	F-22	34	33	15	
137	円形	G-19	72	67	47	土器・柱根あり	161	円形	A-8	(66)	57	60	
138	円形	G-19	38	36	53	柱根あり	162	円形	5号平	36	31	21	
139	不整楕円形	H-18	43	29	51	土器・柱根あり	163	円形	22号堅	32	27	33	
140	楕円形	H-19	64	43	39	土器・柱根あり	164	円形	5号平	31	30	14	
141	円形	H-19	52	50	46	土器あり	165	円形	22号堅	22	20	32	
142	円形	H-19	27	26	35	土器あり	166	円形	22号堅	28	20	16	
143	円形	G-18	22	19	49		167	円形	5号平	38	37	17	
144	円形	E-19	29	24	43		168	円形	5号平	30	25	37	
145	円形	E-19	33	27	50		169	円形	22号堅	29	23	37	
146	円形	E-20	35	34	45	土器あり	170	円形	B-5	49	43	55	

出土遺物観察表

単位: cm () は反転実験による測定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量			色調	焼成	備考
				口径	器高	底径			
42	1	19号焼跡	甕か壺	-	-	8.3	2.5YR 橙 6/6	良	
42	2	20号焼跡	甕	18.0	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
42	3	20号焼跡	甕	(18.85)	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
42	4	23号焼跡	壺	13.2	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	摩耗している
42	5	24号焼跡・上層	胎白	-	-	(9.9)	5YR 橙 7/6	良	
42	6	24号焼跡・上層	高坏	-	-	11.0	2.5YR 橙 6/8	良	
42	7	24号焼跡・上層	高坏	(11.2)	-	-	5YR 淡橙 8/4	良	
42	8	24号焼跡・上層	高坏	-	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
42	9	24号焼跡・上層	甕	(9.5)	18.0	(5.2)	10YR 浅黄橙 8/3	良	内面赤色塗彩
42	10	24号焼跡・上層	甕	(13.8)	(22.9)	(6.0)	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	表面摩耗
42	11	24号焼跡・上層	甕	(16.6)	-	-	7.5YR 橙 6/6	良	
42	12	24号焼跡・上層	甕	(14.0)	-	-	2.5YR 橙 6/6	良	タタキ目
42	13	24号焼跡・上層	台付甕	-	-	(10.0)	5YR 橙 6/6	良	
42	14	24号焼跡・上層	甕	(15.0)	-	-	2.5YR 橙 6/6	良	表面摩耗
42	15	24号焼跡・上層	甕	-	-	6.0	5YR 橙 6/6	良	
42	16	25号焼跡・上層	甕	-	-	7.9	7.5YR 橙 6/6	良	
42	17	24号焼跡・上層	壺	-	-	-	5YR 鈍い橙 6/4	良	表面摩耗
42	18	24号焼跡・5層	甕か壺	(14.0)	-	-	5YR 鈍い橙 6/4	良	表面摩耗
42	19	24号焼跡・5層	甕か壺	(14.0)	-	-	5YR 鈍い橙 6/4	良	
42	20	24号焼跡・5層	甕	(12.0)	(17.0)	(8.0)	10YR 浅黄橙 7/4	良	表面摩耗
42	21	24号焼跡・5層	壺	-	-	8.8	5YR 鈍い橙 6/4	良	
42	22	24号焼跡・5層	甕	15.6	-	-	7.5YR 橙 6/6	良	
42	23	24号焼跡・5層	台付甕	-	-	8.6	5YR 橙 6/6	良	
42	24	24号焼跡・5層	甕	(16.8)	-	-	7.5YR 鈍い橙 6/4	不良	表面摩耗
42	25	24号焼跡・5層	高坏	-	-	(9.4)	5YR 鈍い橙 7/4	良	
42	26	24号焼跡・5層	甕か壺	-	-	4.1	10YR 褐灰 4/1	良	
42	27	24号焼跡・5層	台付甕	-	-	8.8	5YR 橙 6/6	良	
43	28	24号焼跡・5層	甕	(17.7)	10.2	4.9	2.5YR 橙 6/8	良	
43	29	24号焼跡・5層	甕	(19.0)	10.5	4.8	5YR 橙 6/8	良	
43	30	24号焼跡・5層	高坏	19.8	15.3	11.5	5YR 明赤褐 5/6	良	
43	31	24号焼跡・5層	甕	15.0	(18.0)	(4.0)	5YR 橙 7/6	良	タタキ目 体部に粘土帯
43	32	24号焼跡・5層	甕	(16.0)	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	タタキ目 体部に粘土帯
43	33	24号焼跡・5層	甕	16.0	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	タタキ目 体部に粘土帯

出土遺物観察表

単位: cm ()は既報実測による測定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
43	34	24号橋跡・5層	甕	(18.0)	—	—	2.5YR 橙 6/8	良	タタキ目
43	35	24号橋跡・5層	甕	—	—	4.2	5YR 橙 7/6	良	タタキ目
43	36	24号橋跡・5層	甕	—	—	4.9	7.5YR 灰褐 6/2	良	タタキ目
43	37	24号橋跡・5層	甕	(12.4)	—	—	5YR 橙 7/6	良	タタキ目
43	38	24号橋跡・5層	手形土器	—	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
43	39	24号橋跡・5層	S字甕	(17.0)	—	—	5YR 鈍い橙 6/4	良	
43	40	24号橋跡・5層	甕	—	—	(6.0)	5YR 灰褐 5/2	良	タタキ目
43	41	24号橋跡・5層	台付甕	—	—	(9.9)	5YR 橙 6/6	良	タタキ目
43	42	24号橋跡・5層	甕	—	—	4.0	7.5YR 橙	良	タタキ目
43	43	24号橋跡・5層	甕	(9.8)	(14.9)	4.7	5YR 橙 7/6	良	タタキ目 体部に粘土帯
43	44	24号橋跡・5層	甕	—	—	4.2	7.5YR 黄橙 7/8	良	体部に粘土帯
43	45	24号橋跡・5層	甕	(18.5)	—	—	10YR 鈍い橙 7/2	良	表面煤片着
43	46	24号橋跡・5層	甕	(12.0)	—	—	7.5YR 橙 6/6	良	
43	47	24号橋跡・5層	甕	—	—	4.6	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
43	48	24号橋跡・下層	高坏	12.5	9.6	14.6	5YR 橙 6/6	良	
43	49	24号橋跡・下層	台付甕	—	—	7.4	5YR 橙 6/6	良	
43	50	24号橋跡・下層	甕か壺	—	—	(7.6)	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
44	51	24号橋跡・5層	織機部材か	—	—	—			一部炭化
44	52	24号橋跡・5層	織機部材か	—	—	—			一部炭化
44	53	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			一部炭化
44	54	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			一部炭化
44	55	24号橋跡・5層	織機部材か	—	—	—			
44	56	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			
44	57	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			一部炭化 削り痕
44	58	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			一部炭化 削り痕
44	59	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			削り痕
44	60	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			一部炭化
44	61	24号橋跡・5層	板皮	—	—	—			
44	62	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			削り痕
45	63	24号橋跡・5層	板材	—	—	—			
45	64	24号橋跡・5層	角材	—	—	—			一部炭化 削り痕
45	65	24号橋跡・下層	甕	—	—	—			
45	66	川跡 E-15	甕	(16.0)	—	—	5YR 鈍い橙 6/4	良	
45	67	川跡 E-15	甕	(20.0)	—	—	5YR 鈍い橙 6/4	良	
45	68	川跡 E-14	甕	(17.0)	—	—	5YR 灰褐 5/2	良	
45	69	川跡 E-14	甕	(21.8)	(26.8)	(8.3)	7.5YR 橙 7/6	良	
45	70	川跡 E-15	甕か壺	—	—	5.0	5YR 橙 6/6	良	
45	71	川跡 E-15	甕	(18.2)	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
45	72	川跡 E-15	甕	16.0	20.3	7.9	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	
45	73	川跡 E-15	高坏	—	—	(9.2)	5YR 橙 7/6	良	
45	74	川跡 E-14	甕	—	—	4.9	10YR 灰白 8/2	良	
45	75	川跡 E-14	甕	—	—	7.5	7.5YR 鈍い褐 5/4	良	
45	76	川跡 E-13	台付甕	—	—	5.2	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	
45	77	川跡 E-15	角材	—	—	—			一部炭化 削り痕
45	78	川跡 E-13	板材	—	—	—			一部炭化
45	79	川跡 E-13	板材	—	—	—			
45	80	川跡 E-15	板材	—	—	—			
46	81	川跡 E-15	甕	—	—	(9.6)	10YR 鈍い黄橙 7/2	良	
46	82	川跡 E-15	高坏か	—	—	(16.0)	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	内面赤色塗彩
46	83	川跡 E-15	壺	—	—	9.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
46	84	川跡 E-15	高坏	(25.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	両面赤色塗彩
46	85	川跡 E-14	甕	—	—	(8.0)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
46	86	川跡 E-15	壺	—	—	(5.6)	10YR 鈍い黄橙 7/2	良	タタキ目
46	87	1号竪穴建物	鉢	21.0	6.4	4.0	5YR 橙 6/8	良	表面摩耗
46	88	1号竪穴建物	甕	(21.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
46	89	1号竪穴建物	甕	19.9	—	—	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
46	90	1号竪穴建物	台付甕	16.4	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	
46	91	1号竪穴建物	甕	14.1	16.5	5.8	5YR 橙 6/6	良	輪縁痕
46	92	1号竪穴建物	甕	(14.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
46	93	1号竪穴建物	甕	(17.5)	—	—	7.5YR 橙 7/6	良	

出土遺物観察表

単位: cm ()は反転表測による復元値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
46	94	1号竪穴建物	台付甕	23.1	--	--	5YR 橙 6/8	良	1号竪穴炉
46	95	2号竪穴建物	高坏	--	--	(7.2)	5YR 橙 6/6	良	
46	96	2号竪穴建物	石包丁	3.6	8.2	0.7			磨製
46	97	3号竪穴建物	石鏝	3.2	2.4	0.35			磨製
46	98	3号竪穴建物	甕	--	--	4.4	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
46	99	3号竪穴建物	坏	--	--	5.5	5YR 橙 6/8	良	
46	100	3号竪穴建物	壺	18.0	--	--	5YR 橙 6/6	良	表面摩耗
46	101	3号竪穴建物	甕	15.6	--	--	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
46	102	3号竪穴建物	甕	16.8	--	--	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
46	103	3号竪穴建物	甕	15.1	--	--	5YR 明赤褐 5/6	良	
47	104	5号竪穴建物	甕	13.5	--	--	5YR 橙 6/6	良	
47	105	5号竪穴建物	甕	--	--	9.9	10YR 赤褐 4/6	良	
47	106	5号竪穴建物	甕か壺	--	--	6.8	10YR 鈍い黄褐 4/3	良	
47	107	6号竪穴建物	甕	30.0	--	--	5YR 橙 6/8	良	
47	108	6号竪穴建物	甕か壺	--	--	6.3	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
47	109	6号竪穴建物	甕	15.0	--	--	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
47	110	7号竪穴建物	坏	--	--	4.0	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	両面赤色塗彩
47	111	8号竪穴建物	壺	16.8	--	--	7.5YR 鈍い褐色 5/3	良	
47	112	8号竪穴建物	甕	25.0	--	--	10YR 鈍い黄褐 5/4	良	
47	113	8号竪穴建物	甕	--	--	8.0	5YR 橙 6/8	良	
47	114	9号竪穴建物	甕	--	--	(9.5)	5YR 橙 6/6	良	
47	115	10号竪穴建物	吊り手土器	6.7	6.3	4.8	5YR 橙 6/8	良	2孔1対 表面摩耗
47	116	10号竪穴建物	甕	(17.0)	--	--	5YR 橙 6/6	良	折り返し口縁
47	117	10号竪穴建物	壺か	--	--	(7.4)	2.5YR 橙 6/8	良	
47	118	10号竪穴建物	壺か	--	--	7.6	7.5YR 浅黄橙 8/4	良	
47	119	10号竪穴建物	甕	(18.0)	--	--	5YR 鈍い橙 6/4	良	
47	120	10号竪穴建物	甕	(18.0)	--	--	5YR 橙 7/8	良	
47	121	10号竪穴建物	甕	(15.2)	--	--	7.5YR 橙 6/6	良	
47	122	12号竪穴建物	甕	(20.4)	--	--	5YR 橙 6/6	良	
47	123	12号竪穴建物	甕	17.8	10.7	5.8	7.5YR 橙 6/6	良	
47	124	13号竪穴建物	台付甕	--	--	10.4	10YR 鈍い黄褐 7/4	良	
47	125	13号竪穴建物	甕	--	--	(6.4)	5YR 橙 6/6	良	
47	126	13号竪穴建物	台付甕	13.5	19.75	6.6	5YR 橙 6/8	良	
47	127	13号竪穴建物	甕	19.4	7.5	6.0	5YR 橙 7/6	良	
47	128	13号竪穴建物	台付甕	(13.6)	--	--	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
47	129	13号竪穴建物	甕	(15.0)	14.1	7.0	5YR 淡橙 8/4	良	
47	130	13号竪穴建物	甕	17.0	--	--	5YR 橙 7/8	良	
47	131	13号竪穴建物	高坏	--	--	(7.5)	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	
48	132	13号竪穴建物	壺	25.0	--	--	7.5YR 灰褐 4/2	良	折り返し口縁
48	133	13号竪穴建物	甕か壺	--	--	(6.6)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
48	134	13号竪穴建物	甕	(13.4)	25.55	7.0	10YR 鈍い黄褐 6/3	良	
48	135	16号構跡	高坏	(20.0)	--	--	2.5YR 橙 6/8	良	
48	136	16号構跡	壺	(12.0)	--	--	10YR 鈍い橙 6/4	良	折り返し口縁
48	137	16号構跡	台付甕	--	--	8.0	2.5YR 橙 6/6	良	
48	138	16号構跡	壺	--	--	(9.6)	5YR 橙 7/6	良	
48	139	16号構跡	甕	(18.4)	--	--	5YR 橙 6/6	良	
48	140	16号構跡	壺	--	--	4.3	10YR 鈍い黄橙 7/2	良	
48	141	16号構跡	甕	16.2	3.5	3.5	5YR 橙 6/6	良	
48	142	14号竪穴建物	蓋	(10.4)	4.4	3.1	2.5YR 鈍い橙 6/6	良	両面摩耗
48	143	14号竪穴建物	蓋	(13.0)	--	--	2.5YR 橙 6/8	良	
48	144	14号竪穴建物	S字甕	(14.0)	--	--	7.5YR 明褐灰 7/2	良	
48	145	14号竪穴建物	有段口縁甕	(19.4)	--	--	10YR 黒褐 3/1	良	
48	146	14号竪穴建物	有段口縁甕	19.6	--	--	2.5YR 橙 6/6	良	
48	147	14号竪穴建物	甕	(13.8)	--	--	2.5YR 橙 6/8	良	
48	148	14号竪穴建物	甕	16.2	--	--	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
48	149	14号竪穴建物	鉢	(13.0)	--	--	5YR 橙 6/6	良	
48	150	ビット101	柱材	--	--	--			
48	151	14号竪穴建物	台付甕	--	--	7.4	5YR 橙 7/6	良	
48	152	15号竪穴建物	壺か	--	--	4.6	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
49	153	16号竪穴建物	甕	10.0	17.6	6.0	5YR 灰白 8/2	良	

出土遺物観察表

単位: cm ()は尺取測定による値

図版 番号	番号	出土位置・遺構	器 種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
49	154	16号竪穴建物	甕	(16.4)	—	—	5YR 橙 7/6	良	
49	155	16号竪穴建物	甕	—	—	(7.8)	5YR 橙 7/6	良	
49	156	16号竪穴建物	台付甕	7.6	—	—	5YR 橙 6/6	良	
49	157	16号竪穴建物	高坏	—	—	—	5YR 橙 7/6	良	
49	158	16号竪穴建物	紡錘車	5.4	—	(6.0)	7.5YR 褐灰 4/1	良	
49	159	16号竪穴建物	蓋	(15.2)	—	—	5YR 淡橙 8/4	良	
49	160	16号竪穴建物	壺	—	—	6.2	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
49	161	16号竪穴建物下層	片口鉢	8.0	9.3	5.8	2.5YR 橙 6/8	良	
49	162	16号竪穴建物下層	片口坏	11.6	5.9	4.0	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	両面赤色塗彩
49	163	16号竪穴建物下層	鉢	(18.0)	—	—	5YR 橙 7/8	良	
49	164	16号竪穴建物下層	蓋	—	—	(18.0)	5YR 黒褐 2/1	良	
49	165	16号竪穴建物下層	蓋	(4.2)	—	—	7.5YR 灰白 8/2	良	11箇所に小孔
49	166	16号竪穴建物下層	甕	5.0	—	—	5YR 橙 7/8	良	
49	167	16号竪穴建物下層	蓋	17.3	5.4	4.0	2.5YR 橙 7/8	良	
49	168	16号竪穴建物下層	蓋	14.0	6.3	4.2	7.5YR 灰白 8/1	良	
49	169	16号竪穴建物下層	壺	—	—	—	10R 赤 5/8	良	両面赤色塗彩
49	170	16号竪穴建物下層	壺	(22.2)	—	—	5YR 橙 7/6	良	
49	171	16号竪穴建物下層	台付甕	11.0	15.7	7.3	2.5YR 橙 6/8	良	
49	172	16号竪穴建物下層	甕	(19.0)	—	—	5YR 橙 7/6	良	
49	173	16号竪穴建物下層	甕	(11.8)	—	—	7.5YR 浅黄橙 8/3	良	
49	174	16号竪穴建物下層	甕	19.3	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
49	175	16号竪穴建物下層	甕	21.0	28.9	9.2	5YR 橙 7/8	良	
49	176	16号竪穴建物下層	台付甕	(14.0)	(21.0)	(11.0)	5YR 橙 7/8	良	
50	177	ピット117	柱角材	—	—	—			
50	178	ピット126	柱角材	—	—	—			
50	179	ピット125	柱角材	—	—	—			
50	180	ピット128	柱角材	—	—	—			
51	181	17号竪穴建物	甕	(17.8)	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	折り返し口縁
51	182	17号竪穴建物	S字甕	(14.0)	—	—	10YR 灰黄褐 6/2	良	
51	183	17号竪穴建物	ヒザゴ移壺	6.3	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
51	184	17号竪穴建物	甕	4.0	—	—	2.5YR 橙 6/6	良	
51	185	17号竪穴建物	高坏	(18.0)	—	—	10YR 赤橙 4/8	良	両面赤色塗彩
51	186	19号竪穴建物	甕	(19.2)	—	—	10YR 鈍い黄橙 6/3	良	折り返し口縁
51	187	19号竪穴建物	甕	(20.0)	—	—	5YR 黒褐 2/1	良	
51	188	19号竪穴建物	甕	(19.0)	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
51	189	19号竪穴建物	甕	—	—	7.0	2.5YR 橙 6/8	良	
51	190	19号竪穴建物	甕	—	—	7.6	10YR 明黄褐 6/6	良	
51	191	19号竪穴建物	甕	(11.0)	(11.7)	(7.0)	5YR 橙 6/6	良	
51	192	19号竪穴建物	甕	—	—	7.0	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	底部へラ調整
51	193	19号竪穴建物	甕	—	—	7.8	5YR 鈍い褐 5/4	不良	
51	194	19号竪穴建物	甕か壺	—	—	12.5	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
51	195	20号竪穴建物	台付甕	(23.0)	—	—	5YR 橙 6/6	不良	
51	196	21号竪穴建物	甕	(20.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	197	21号竪穴建物	甕	(17.0)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	198	21号竪穴建物	甕	(10.0)	—	—	2.5YR 赤褐 4/6	良	
51	199	21号竪穴建物	高坏か	—	—	12.0	5YR 橙 6/6	良	
51	200	22号竪穴建物	手づくね土器	6.4	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	指頭彫彩
51	201	1号平地建物	石鉢	1.1	1.1	0.2			
51	202	2号平地建物	壺	—	—	(9.8)	10YR 浅黄橙 8/4	良	
51	203	2号平地建物	器片	—	—	7.2	7.5YR 橙 6/6	良	
51	204	2号平地建物	坏	(10.0)	(6.2)	(5.6)	7.5YR 橙 7/6	良	
51	205	4号平地建物	台付甕	—	—	7.9	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
51	206	4号平地建物	甕	(22.0)	—	—	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
51	207	4号平地建物	甕	16.0	—	—	5YR 橙 6/6	良	
51	208	4号平地建物	甕	(16.0)	—	—	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
51	209	4号平地建物	甕	—	—	7.5	5YR 橙 6/6	良	底部へラ調整
51	210	4号平地建物	台付甕	—	—	8.0	10YR 鈍い橙 7/4	良	
51	211	4号平地建物	高坏	—	—	5.8	10YR 鈍い橙 7/4	良	
51	212	4号平地建物	甕	—	—	4.4	5YR 橙 7/6	良	
51	213	4号平地建物	蓋	(16.0)	—	—	5YR 橙 7/6	良	折り返し口縁

出土遺物観察表

単位: cm ()は反転表による仮定値

図版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
51	214	4号平地建物	壺	—	—	(14.0)	5YR 橙 6/6	良	
52	215	ピット141	板材	—	—	—	—	—	一部炭化
52	216	ピット141	柱丸板	—	—	—	—	—	
52	217	1号方形周溝墓	小环	—	(4.6)	(4.0)	5YR 鈍い橙 6/4	良	
52	218	1号方形周溝墓	壺	(16.0)	—	3.2	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
52	219	1号方形周溝墓	紡錘車	—	0.9	—	7.5YR 灰褐 5/2	良	
52	220	1号方形周溝墓	手づくね土器	—	6.6	4.5	10YR 鈍い黄褐 6/3	良	
52	221	1号方形周溝墓	骨	—	—	—	—	—	
52	222	1号方形周溝墓	台付甕	(5.8)	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	223	1号方形周溝墓	甕	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	224	1号方形周溝墓	甕	5.6	—	—	10YR 灰黄褐 5/2	良	折り返し口縁
52	225	1号方形周溝墓	台付甕か	8.3	—	—	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
52	226	1号方形周溝墓	甕か壺	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	227	1号方形周溝墓	甕	2.38	—	—	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
52	228	1号方形周溝墓	台付甕	(16.0)	—	(9.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
52	229	1号方形周溝墓	S字甕	(14.0)	—	9.4	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
52	230	1号方形周溝墓	壺	—	—	—	5YR 橙 6/6	良	
52	231	1号方形周溝墓	甕	(17.8)	(8.2)	4.0	2.5YR 明赤褐 5/6	良	タタキ目 体部に粘土帯
52	232	1号方形周溝墓	甕	(17.0)	—	6.8	10YR 灰黄褐 5/2	良	
52	233	1号方形周溝墓	甕	—	—	6.5	10YR 鈍い黄褐 4/3	良	底部へラ調整
52	234	1号方形周溝墓	加飾壺	—	—	—	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	輪積痕
53	235	1号方形周溝墓	二又鍬	14.8	—	—	—	—	
53	236	1号方形周溝墓	不明木製品	(11.4)	—	—	—	—	柄に穿孔あり
53	237	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	238	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	239	1号方形周溝墓	板材	(20.8)	—	—	—	—	削り痕
53	240	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	241	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	242	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	243	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	244	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	245	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	246	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕 孔あり
53	247	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕 孔あり
53	248	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	249	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	250	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
53	251	1号方形周溝墓	不明木製品	—	—	—	—	—	
54	252	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
54	253	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
54	254	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	255	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	256	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	257	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	258	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	259	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	260	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	261	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
54	262	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
55	263	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
55	264	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
55	265	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
55	266	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	
55	267	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	削り痕
55	268	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	一部炭化
55	269	1号方形周溝墓	紡錘車	—	—	—	—	—	一部炭化
55	270	1号方形周溝墓	椀皮	—	—	—	—	—	
55	271	1号方形周溝墓	椀皮	—	—	—	—	—	
55	272	1号方形周溝墓	椀皮	—	—	—	—	—	
55	273	1号方形周溝墓	板材	—	—	—	—	—	

出土遺物観察表

単位: cm ()は反映実験による値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
55	274	1号方形周溝墓	板材	-	-	-			
55	275	2号方形周溝墓	高坏	(15.0)	-	-	7.5YR 橙 6/6	良	
55	276	2号方形周溝墓	甕か壺	-	-	6.0	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
55	277	2号方形周溝墓	甕か壺	-	-	8.0	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
55	278	2号方形周溝墓	壺	(16.4)	32.1	11.6	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
55	279	3号土塚	凹石	19.6	13.1	27.5			
55	280	3号土塚	磨石	12.5	3.3	10.8			
55	281	ビット45	甕	(16.0)	-	-	5YR 橙 6/6	良	
56	282	B-5	焼火彈蓋	-	9.15	37.3			
56	283	C-11	蓋	(18.8)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
56	284	C-11	蓋	(21.5)	-	-	7.5YR 鈍い橙 5/4	良	
56	285	C-11	壺	(16.8)	14.3	7.2	5YR 橙 7/6	良	
56	286	C-12	S字甕	(16.9)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
56	287	D-12	蓋	(14.6)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
56	288	C-12・D-13	蓋	-	-	(9.0)	5YR 橙 6/6	不良	
56	289	D-12	甕	-	-	(8.4)	5YR 鈍い橙 6/4	良	
56	290	D-12	壺	(12.4)	-	-	5YR 橙 6/6	良	
56	291	D-12	台付甕	-	-	8.7	5YR 橙 6/8	良	
56	292	D-13	甕か壺	-	-	9.5	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
56	293	D-13	甕	-	-	8.6	5YR 橙 6/8	良	
56	294	D-13	台付甕	-	-	(8.6)	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
56	295	D-13	壺	(21.8)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
56	296	D-13	甕	(24.0)	-	-	2.5YR 橙 6/6	良	
56	297	D-13	甕	(15.0)	-	-	5YR 鈍い赤褐 4/3	良	
56	298	D-13	壺	17.2	-	-	5YR 橙 6/8	良	
56	299	D-13	壺	(28.8)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
56	300	A-4	S字甕	(19.0)	-	-	5YR 明赤褐 5/6	良	
56	301	A-4	壺	3.6	-	-	7.5YR 黄橙 8/8	良	
56	302	A-5	坏	-	-	3.4	7.5YR 橙 7/6	不良	
57	303	A-6	手づくね土器	5.1	4.6	4.6	5YR 鈍い橙 6/4	良	
57	304	B-5	甕	(11.0)	-	-	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
57	305	B-8	甕	(19.0)	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
57	306	B-9	甕か壺	-	-	6.2	5YR 橙 6/6	良	
57	307	C-5	紡錘車	2.7	4.5	3.1	10YR 鈍い黄橙 6/6	良	
57	308	C-5	高坏	-	-	(18.0)	5YR 橙 7/8	良	
57	309	C-5	甕	(23.0)	-	-	7.5YR 鈍い褐 5/4	良	
57	310	D-9	甕	(15.0)	-	-	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
57	311	D-9	甕	-	-	4.5	5YR 橙 6/6	良	
57	312	D-9	壺	-	-	4.3	5YR 橙 6/6	良	
57	313	E-14	甕	-	-	6.3	10YR 灰黄褐 6/2	良	
57	314	F-14	瓶	-	-	5.7	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
57	315	F-19	甕	-	-	(7.2)	10YR 鈍い黄橙 7/3	良	
57	316	G-18	壺	-	-	4.0	5YR 鈍い橙 6/4	良	
57	317	G-18	台付甕	-	-	(10.0)	5YR 鈍い橙 6/4	良	
57	318	G-19	甕	4.2	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
57	319	H-19	甕	(16.8)	-	-	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	
57	320	H-16	高坏	-	-	(7.2)	7.5YR 鈍い橙 7/3	良	
57	321	H-18	甕か壺	-	-	6.6	5YR 橙 7/6	良	
57	322	H-18	高坏	(15.6)	-	-	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
57	323	H-17	甕か壺	(16.6)	-	-	5YR 橙 7/6	良	
57	324	H-20	甕	(17.2)	-	-	7.5YR 鈍い褐 6/3	良	
57	325	H-20	甕	-	-	6.6	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	
57	326	H-20	壺	-	-	4.6	2.5YR 鈍い橙 6/4	良	
57	327	H-21	甕	-	-	3.8	7.5YR 橙 6/6	良	
57	328	H-21	甕か壺	7.4	-	-	10YR 黄褐 5/8	良	
57	329	I-20	壺	-	-	(8.0)	2.5YR 明赤褐 5/6	不良	
57	330	I-19	凹石	18.3	9.6	22.2			
57	331	I-20	石包丁か	3.4	-	0.55			
57	332	H-19・水田下層	灰釉甕反皿	(11.0)	-	-	2.5YR 灰黄 7/2	良	
57	333	H-19・水田下層	鉄釉皿	-	-	(6.4)	7.5YR 褐 4/4	良	

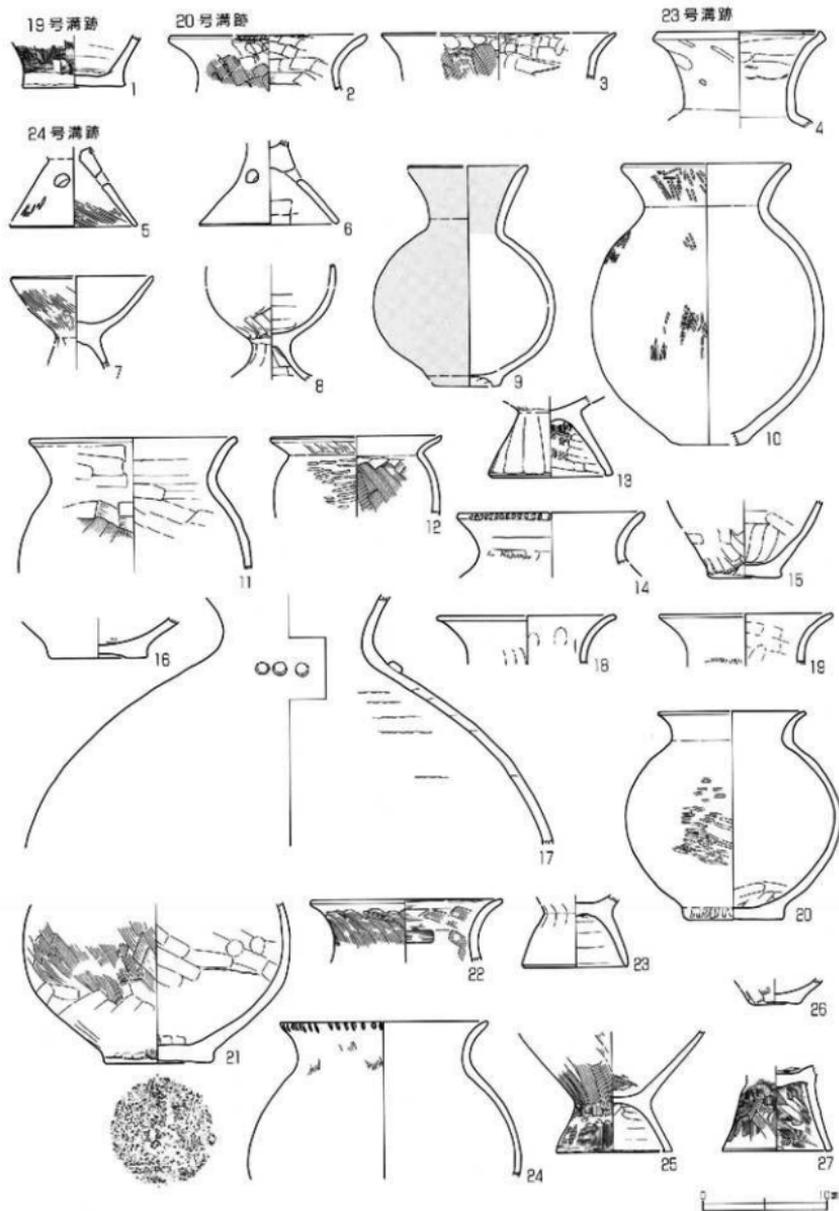


图42 19~20·23~24号沟跡出土遺物

24号溝跡

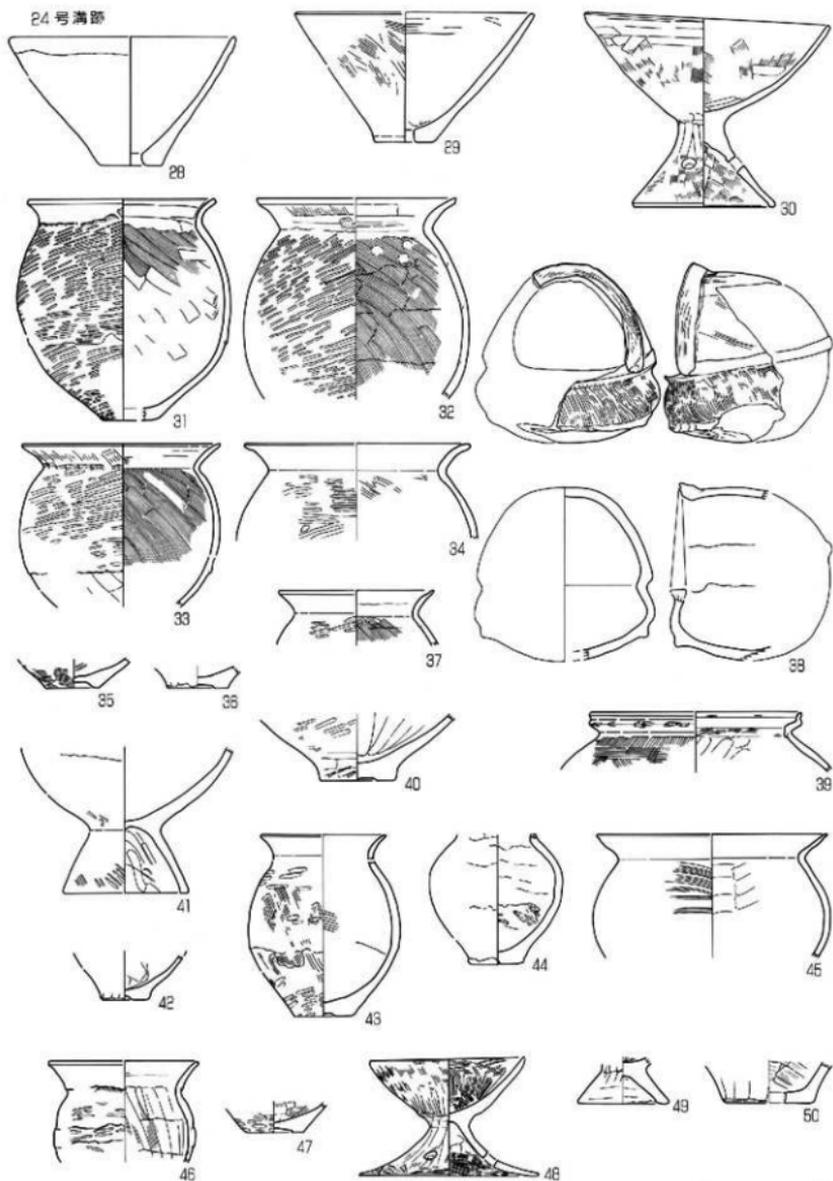


图43 24号溝跡出土遺物(2)



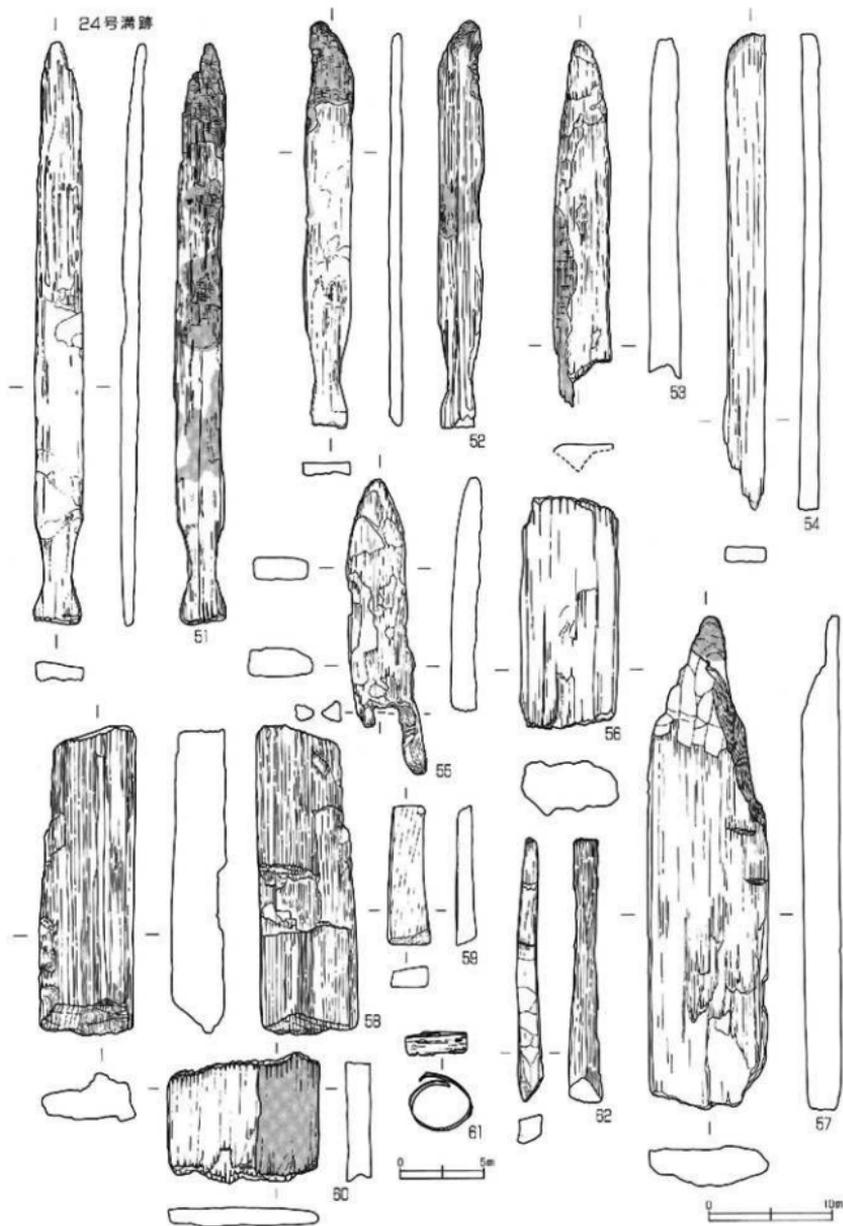


图44 24号溝跡出土遺物(3)

24号溝跡

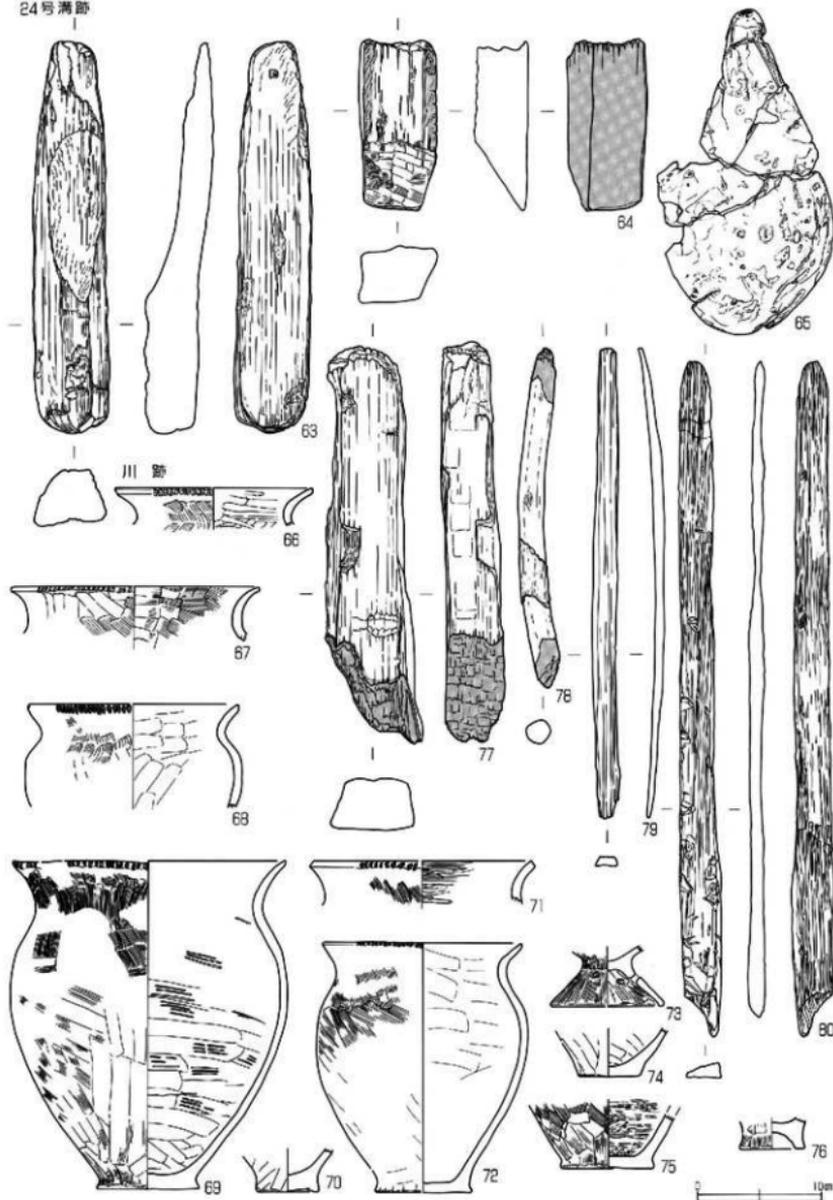


图45 24号溝跡(4)、川跡出土遺物

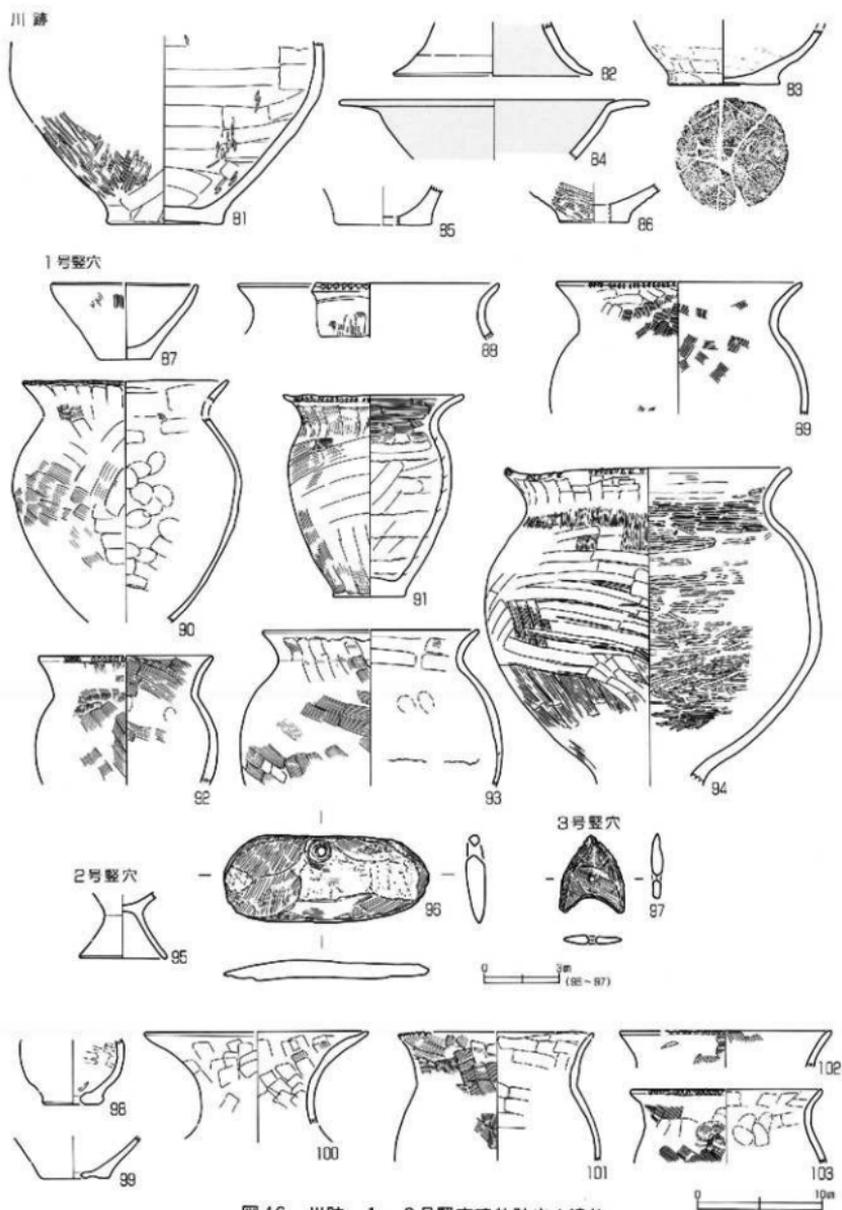


图46 川跡、1~3号竖穴建物跡出土遺物

6号整穴



104

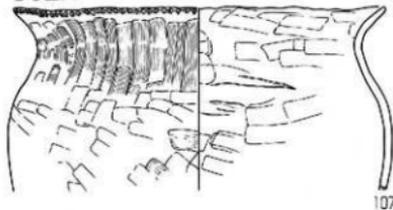


105



106

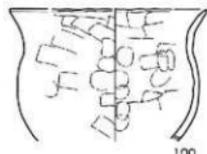
6号整穴



107



108



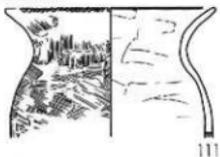
109

7号整穴



110

8号整穴



111



112



113

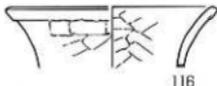


114

10号整穴



115



116



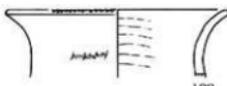
117



118



119



120



121

12号整穴



122



123



127

13号整穴



124



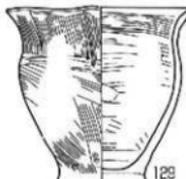
125



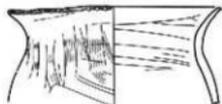
126



128



129



130

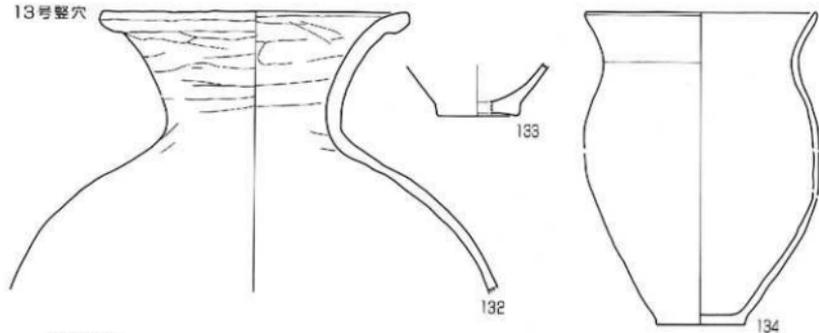


131

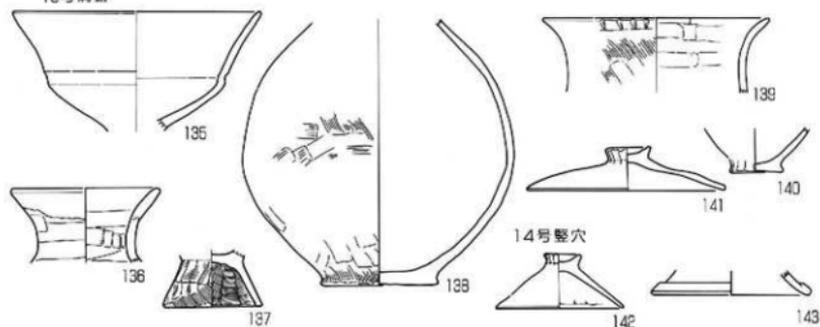


图 47 5~10·12·13号整穴建物跡出土遺物

13号整穴



16号溝跡



14号整穴

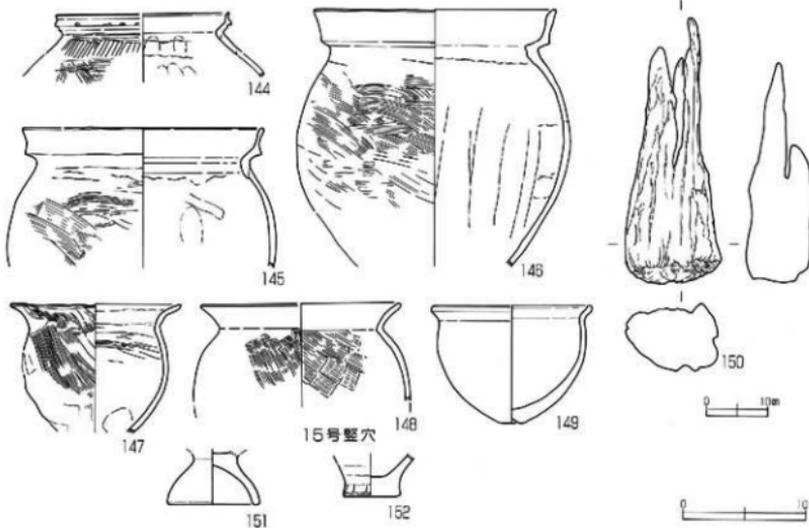


图 48 13~15号整穴建物跡、16号溝跡出土遺物

16号竖穴

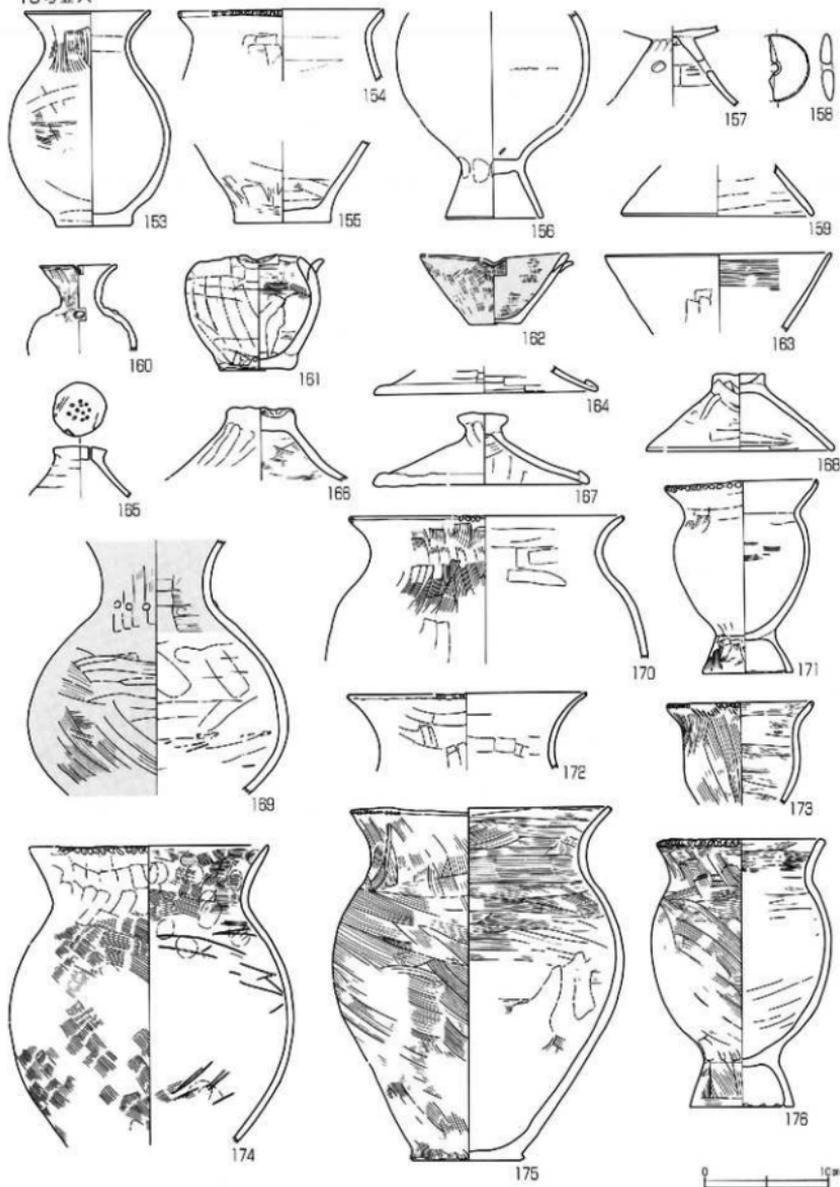
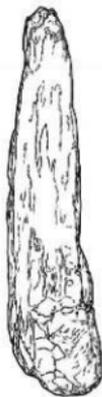


图49 16号竖穴建物跡出土遺物(1)

16号竖穴



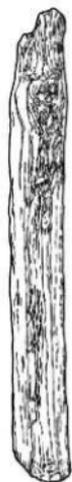
177



178



179



180



图50 16号竖穴建物跡出土遺物(2)



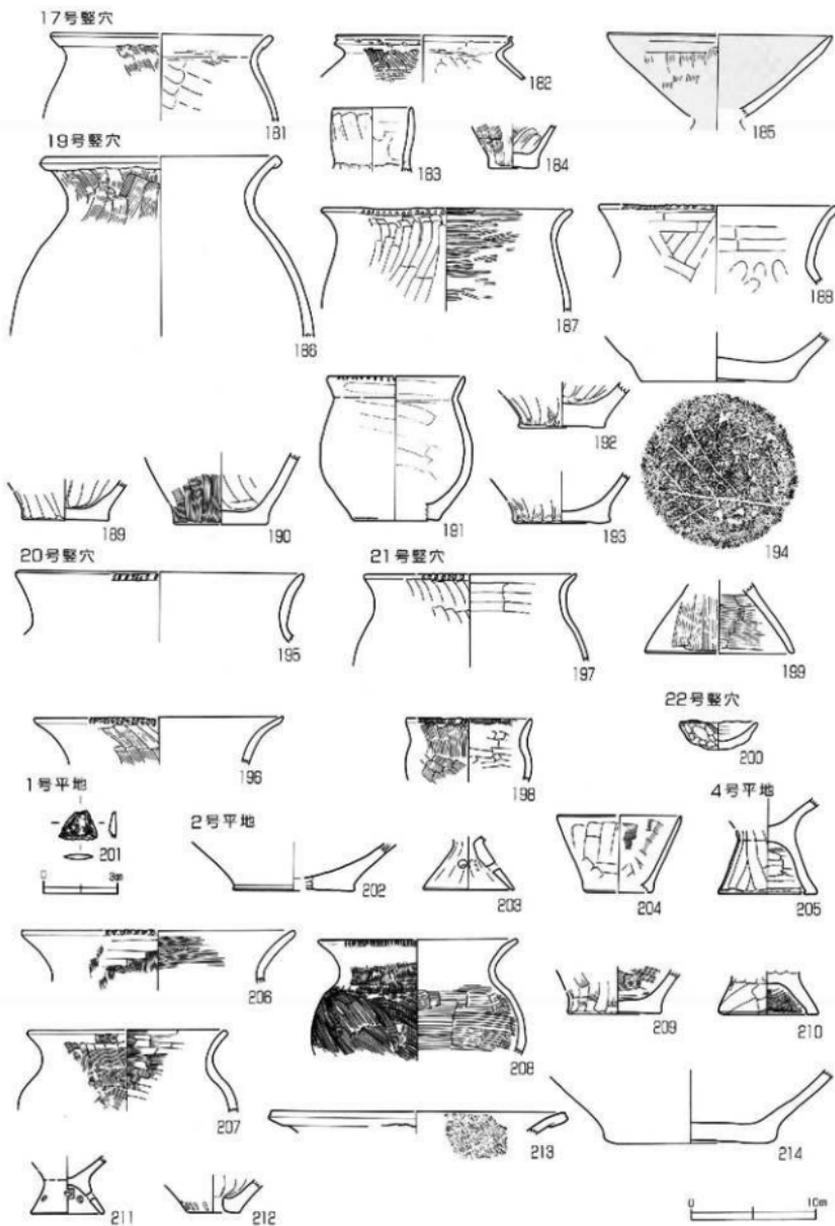


图 51 17·19~22号整穴建物跡、1·2·4号平地建物跡出土遺物

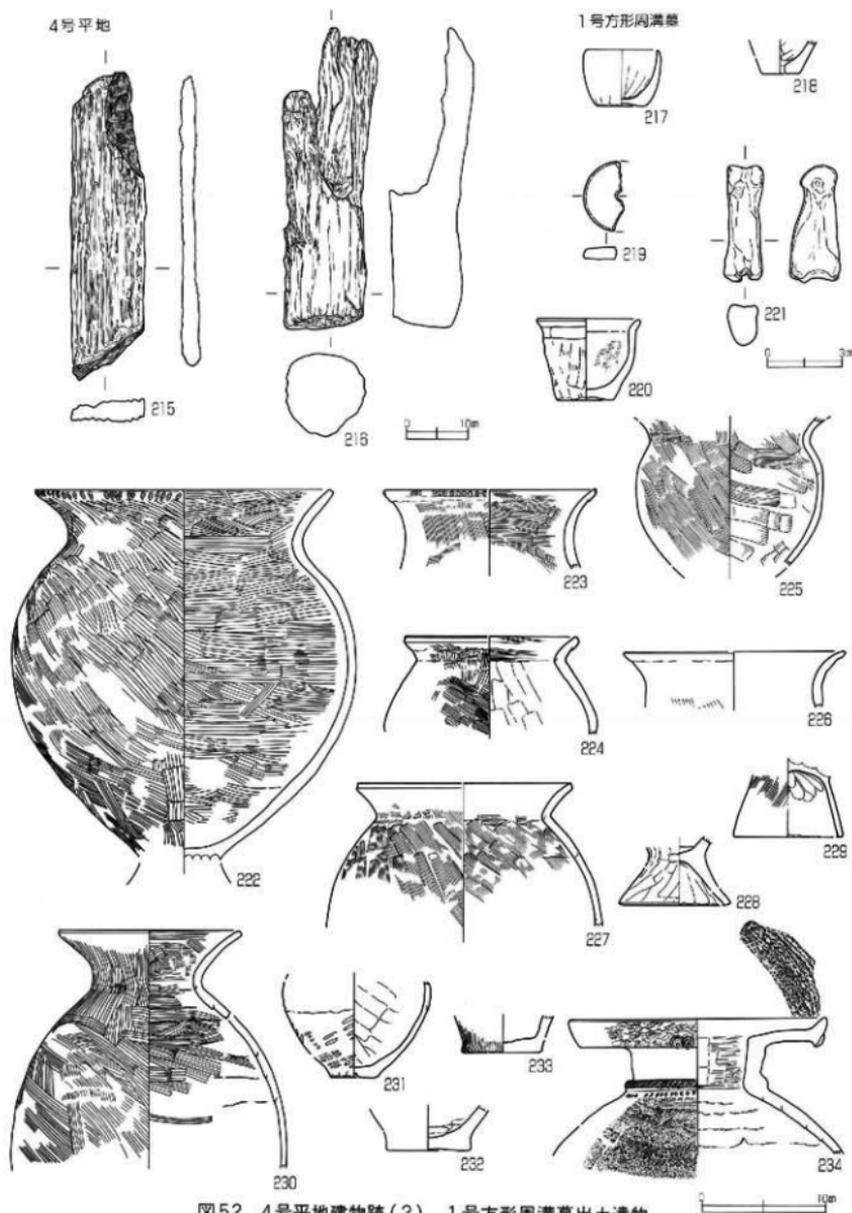


图52 4号平地建物跡(2)、1号方形周溝墓出土遺物

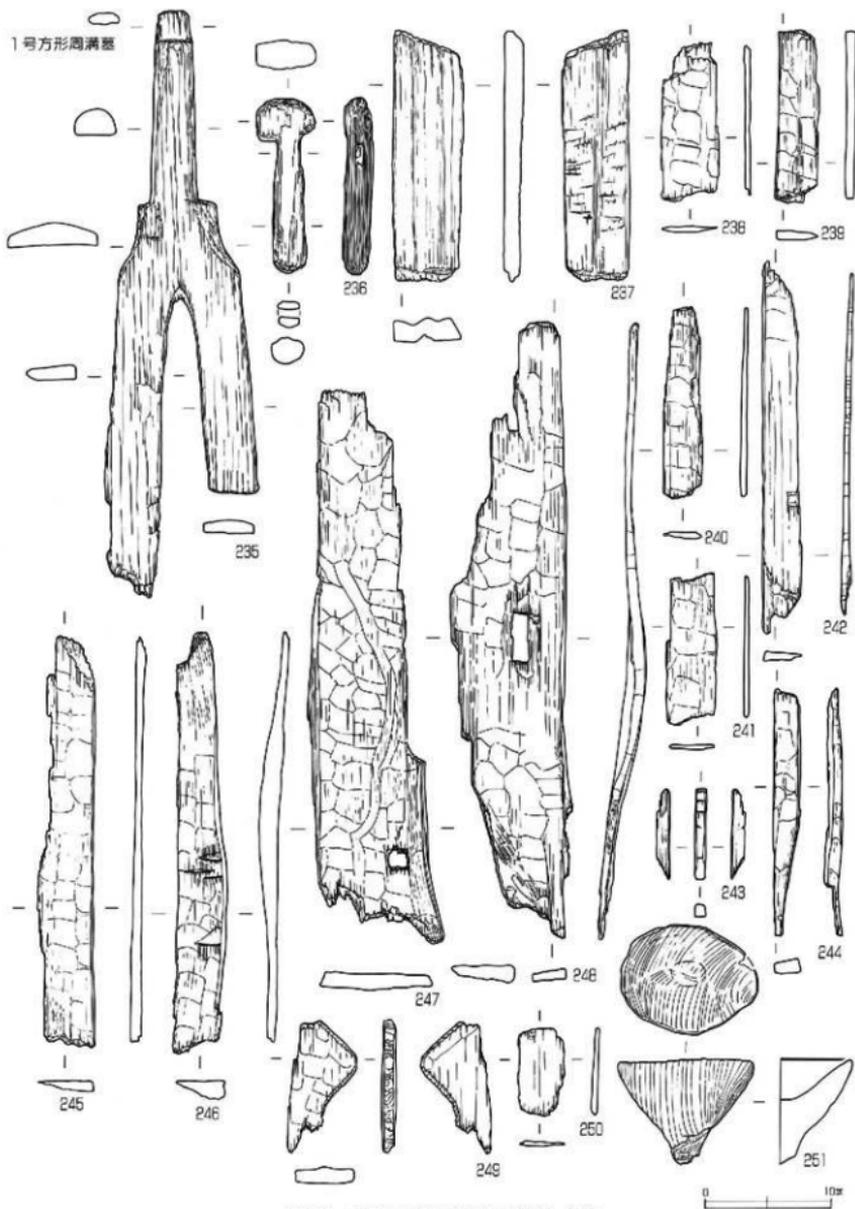


图 53 1号方形周溝墓出土遺物(2)

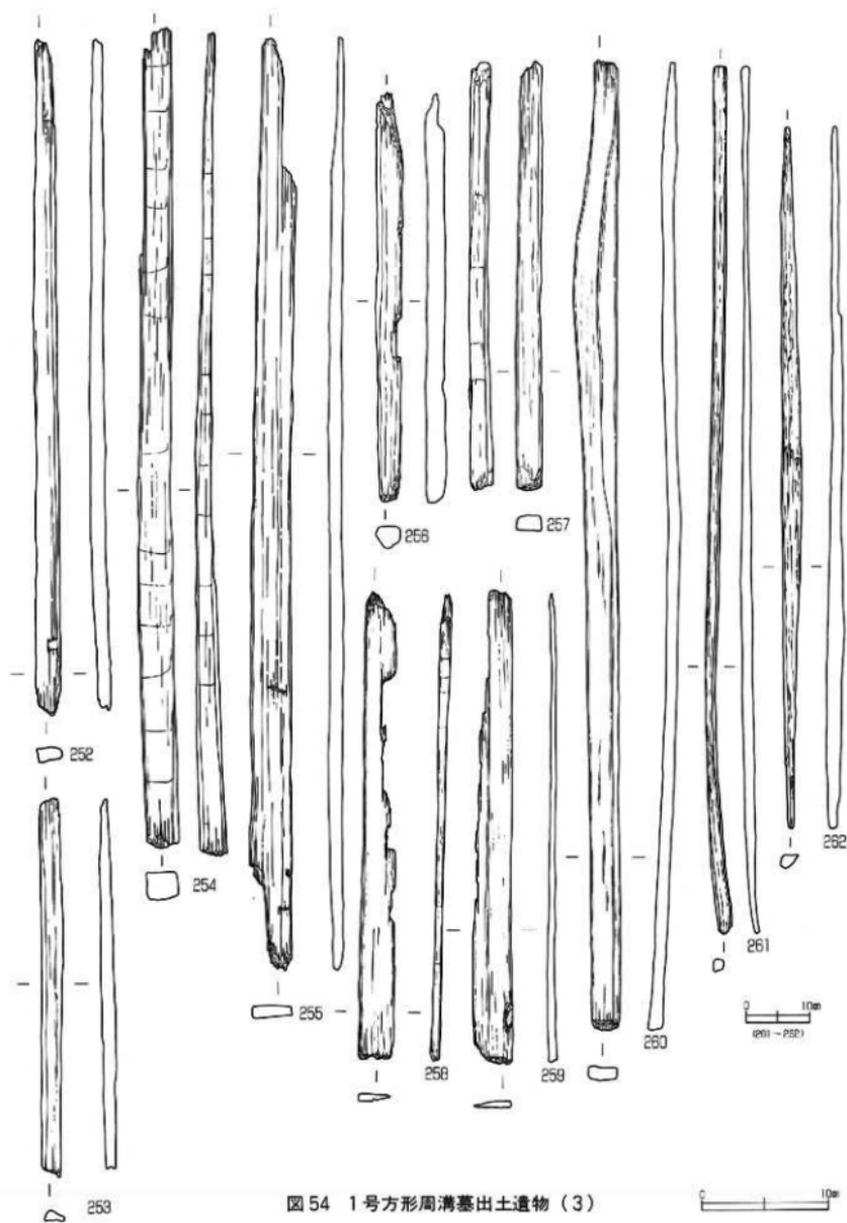
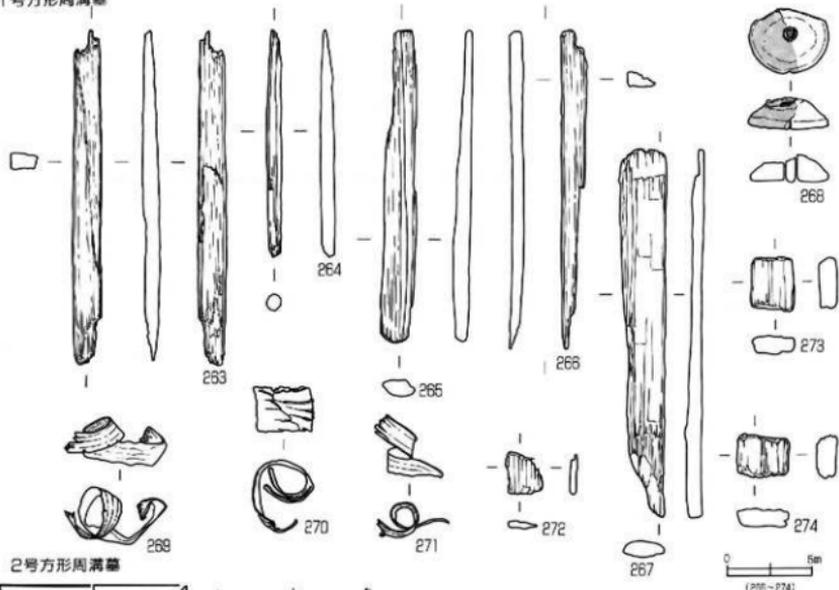
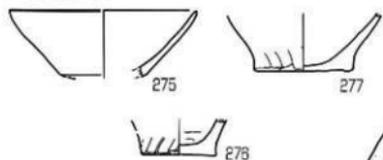


图 54 1号方形周冢出土遗物(3)

1号方形周溝墓



2号方形周溝墓



3号土塚

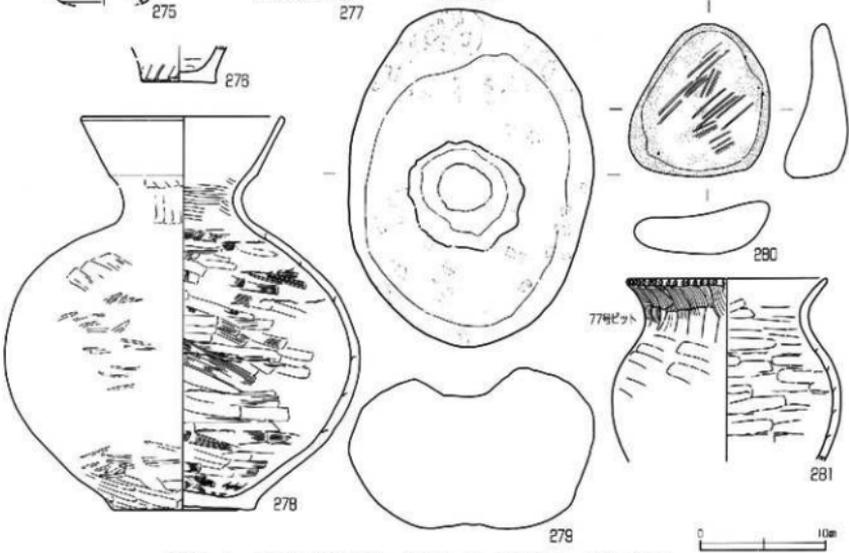


図55 1・2号方形周溝墓、3号土塚、77号ピット出土遺物

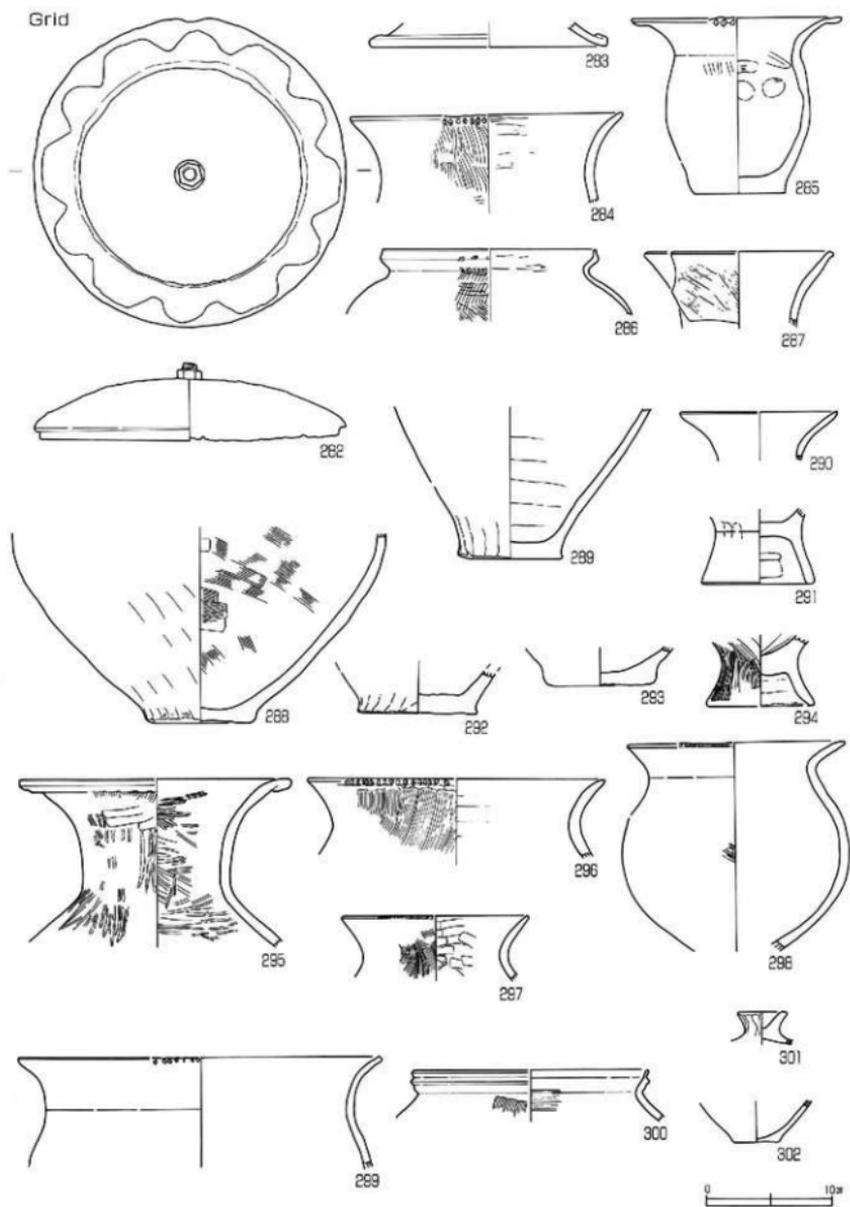


图 56 Grid 出土遺物

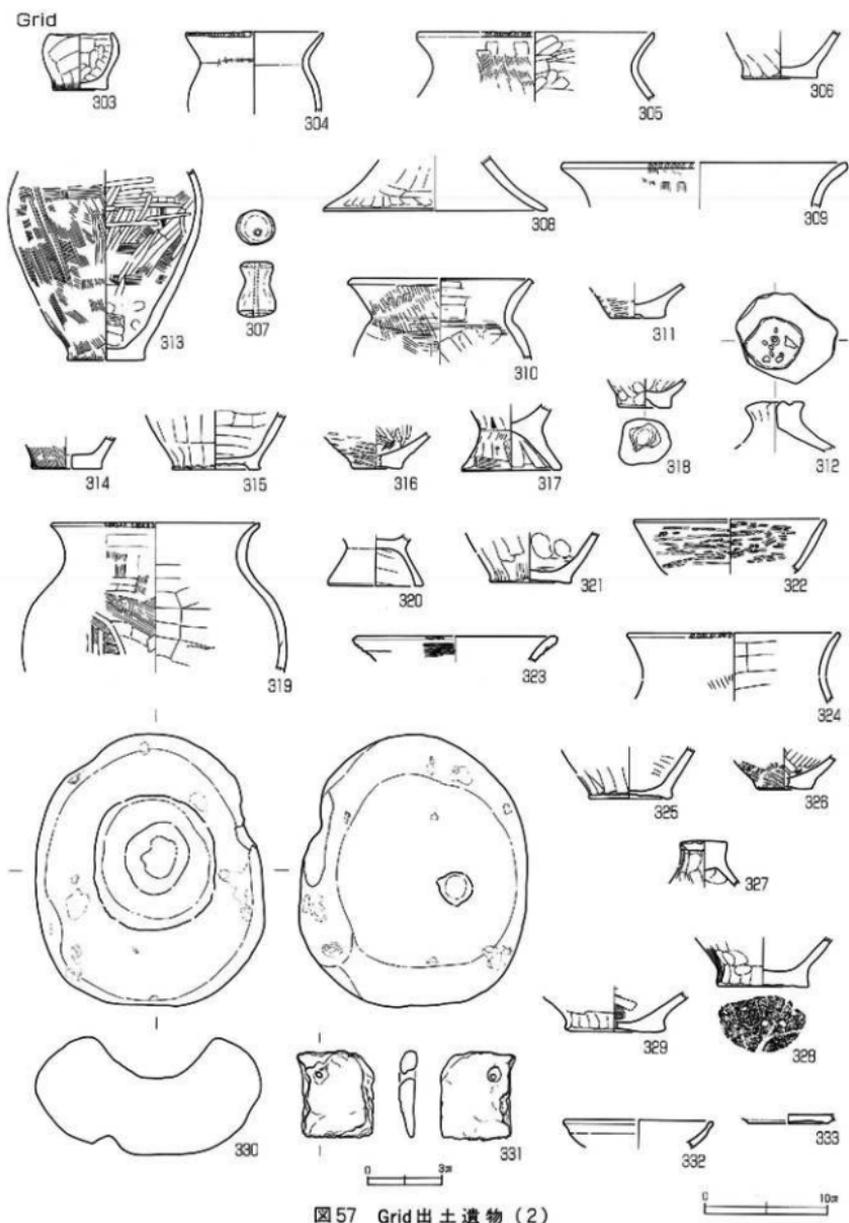


图57 Grid出土遗物(2)

D地区

平成15年度に調査を実施しており、調査面積は約170㎡である。本調査区で検出された各遺構数は、溝跡9、竪穴建物跡1、掘立柱建物跡1、土壇2、ピット8（掘立柱建物跡も含む）である。主な遺構の時期は、弥生時代末期から古墳時代初頭までの遺構群と考えられる。全体的に近世以降の水田開発などで大きく削平されており、擾乱なども多い。また、本調査区から東側には黒色粘質土で形成された低湿地が広がっていたと考えられ、遺構も希薄であった。

第1節 溝跡

調査区全体で浅く細長い畝状の溝跡が9条検出されている。

1号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：調査区西側

検出状況：北から南方向にやや湾曲しつつ延びる溝跡で、検出範囲内では全長約2.1m、幅約0.15m、確認面から深さ0.1mである。掘削面が他の遺構に比べ高い位置にあったことから、近世以降の水田に伴う溝跡と考えられる。

重複関係：4号溝跡より新しい。

出土遺物：なし。

2号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：調査区中央

検出状況：北から南方向に直線的に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約2.0m、幅約0.1m、確認面から深さ約0.15mである。掘削面が他の遺構に比べ高い位置にあったことから、近世以降の水田に伴う溝跡と考えられる。

重複関係：2号土壇より新しい。

出土遺物：なし。

3号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：調査区中央

検出状況：北から南方向に直線的に延びる溝跡で、2号溝跡と並行する。検出範囲内では全長約2.65m、幅約0.2m、確認面から深さ0.15mである。掘削面が他の遺構に比べ高い位置にあったことから、近世以降の水田に伴う溝跡と考えられる。

重複関係：7号溝跡より新しい。

出土遺物：なし。

4号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：調査区西側

検出状況：北西から南東方向に延びる溝跡で、調査区西側を縦断している。検出範囲内では全長約2.2m、幅0.3m、確認面から深さ0.2mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：1号溝跡より古い。

出土遺物：なし。

5号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位 置：調査区西側

検出状況：北西から南東方向に延びる溝跡で、北側は擾乱されている。検出範囲内では全長約5.7m、幅約0.8m、確認面から深さ約0.2mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：なし。

出土遺物：なし。

6号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

1号竪穴建物跡の周溝と考えられるため、第2節 建物跡 1号竪穴建物跡で報告する。

7号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：調査区中央

検出状況：北西から南東方向に湾曲しつつ延びる溝跡で、北側は二又に分岐していた。検出範囲内では直線距離で全長約5.6m、幅約0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：5・6・9号溝跡、1号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：なし。

8号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：調査区中央

検出状況：北東から南西方向に直線的に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約3.2m、幅約0.3m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：5号ピットより古く、7・8号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：なし。

9号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：調査区中央

検出状況：北東から南西方向に直線的に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約2.1m、幅約0.35m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：2号ピットより古い、7号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：なし。

10号溝跡（遺構：全体図中 遺物：なし）

位置：調査区中央

検出状況：北西から南東方向に直線的に延びる溝跡で、検出範囲内では全長約2.0m、幅約0.35m、確認面からの深さ約0.1mである。規模と付近の溝跡の状況を考慮すると畝跡の可能性はある。

重複関係：6号溝跡、5号ピットより古い、7・8号溝跡との新旧関係は不明である。

出土遺物：なし。

第2節 建物跡

本地区で検出された建物跡を大別すると、(1) 竪穴建物、(2) 掘立柱建物に分類され、それぞれ各1基検出されている。

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡 (遺構：図58 遺物：図60)

位 置：調査区東側

主軸方位：N-28°-E

検出状況：本建物跡は周溝と考えられる6号溝跡と一体であり、竪穴建物本体の東側半分は擾乱によって失われているが、平面形は隅丸方形を呈すと考えられる。検出範囲内での建物規模は竪穴本体が南北約3.9m、東西約2.7mであり、深さは削平の影響から約0.15mであった。周溝まで含めた規模は直径約8.6mで、周溝は幅約0.5m、深さ0.1mであり、南東方向が開口していると考えられることから本建物跡の出入り口は南東側であったと考えられる。主柱は2基検出したが、炉跡は2石の軸石を設置したもので、掘り込み等は確認されなかった。床面全体には炭化物が広がっていたことから、火災により焼失した建物と考えられる。

重複関係：10号溝跡、6号ピットより新しい。

出土遺物：掲載遺物は1～5である。

(2) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (遺構：図59 遺物：なし)

位 置：調査区中央

主軸方位：N-20°-E 柱穴：1・2・4・5号ピット

検出状況：調査区全体が削平されているため、本遺構も竪穴建物跡柱穴である可能性が高いが、現状で確認する術はないため、ひとまず掘立柱建物跡とした。北面から底部までが残存していた。柱穴は4基検出しているが、柱穴平面形は方形または長方形とみられ、1号から2号ピットの柱間は約2.7m、1号から5号ピットの柱間は約2.2mを測る。

重複関係：9・10号溝跡より新しい。

出土遺物：なし。

第3節 土壌

1号土壌 (遺構：図59・遺物：なし)

位 置：調査区東側

検出状況：遺構平面形は楕円形で、規模は長軸約0.8m、短軸約0.55mである。

重複関係：なし。

出土遺物：なし。

2号土壌 (遺構：図59・遺物：図60)

位 置：調査区西側

検出状況：遺構平面形は不整楕円形で、規模は長軸約0.8m、短軸約0.7mである。

重複関係：2号溝跡より古い。

出土遺物：掲載遺物は6のみである。

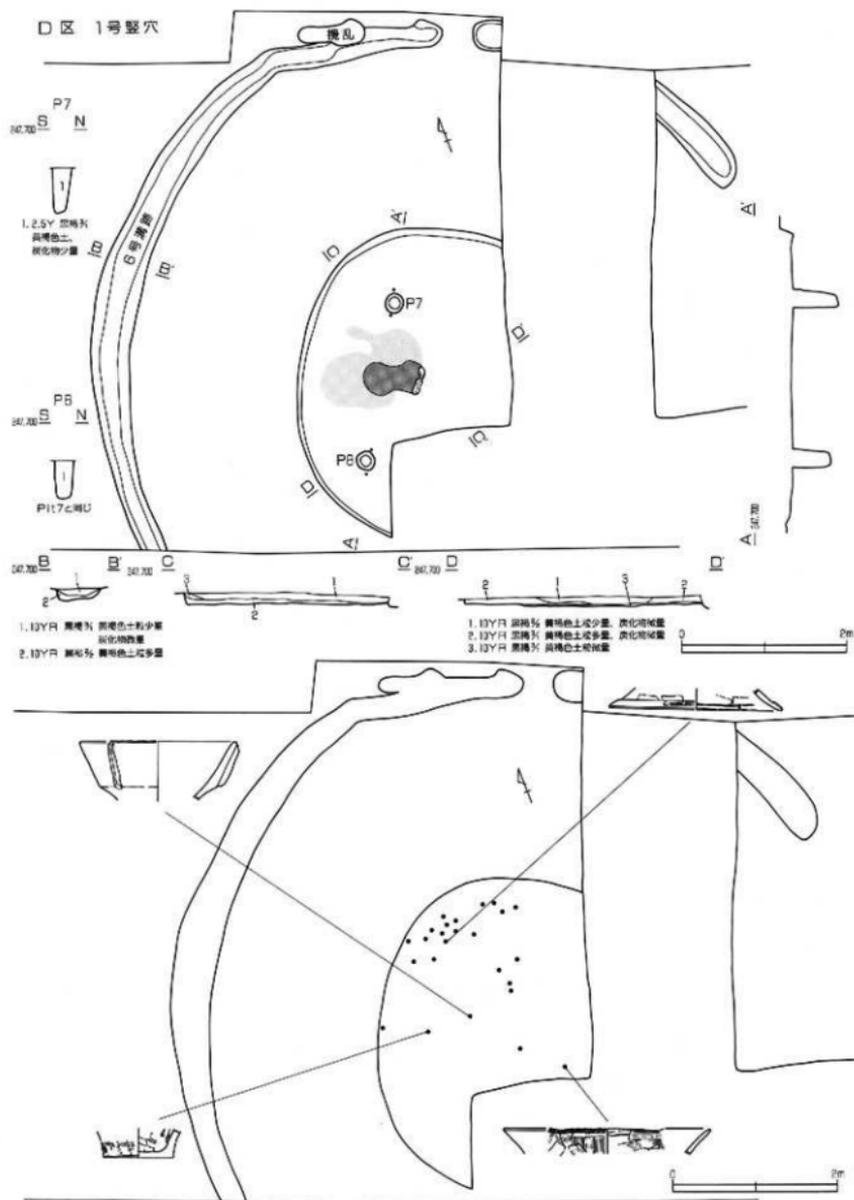


图58 D区1号竖穴建物跡

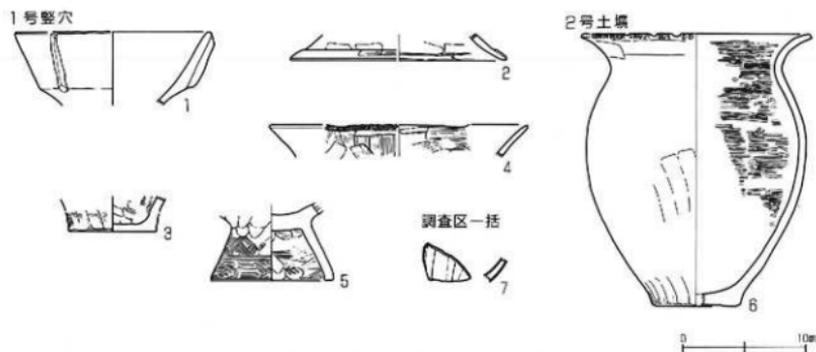


図 60 D区1号竪穴建物跡、2号土壇、調査区出土遺物

ビット観察表 D区

単位：cm () は現存値

1	円形	1号掘	35	31	51		5	円形	1号掘	42	42	60
2	円形	1号掘	39	38	48		6	円形	調査区	15	15	15
3	円形	調査区	20	18	20		7	円形	1号竪	24	21	55
4	不整円形	1号掘	59	50	60		8	円形	1号竪	24	22	47

出土遺物観察表 D区

単位：cm () は灰鉛尺測による復元値

図版 番号	番号	出土位置・遺構	器種	法 量			色 調	焼成	備 考
				口径	器高	底径			
60	1	1号竪穴建物	壺	(16.0)	—	—	5YR 橙 6/8	良	
60	2	1号竪穴建物	蓋	17.7	—	—	5YR 橙 6/8	良	
60	3	1号竪穴建物	壺か壺	—	—	7.2	5YR 橙 6/6	良	
60	4	1号竪穴建物	甕	21.0	—	—	7.5YR 褐 4/3	良	
60	5	ビット8	台付甕	—	—	10.0	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
60	6	2号土壇	甕	18.8	22.3	7.2	5YR 鈍い赤橙 5/4	良	
60	7	調査区一括	碗	—	—	—	5Y 灰 オリーブ 5/2	良	青磁II類

第4章

第1節 塩部遺跡出土土器の胎土分析

はじめに

塩部遺跡は、甲府盆地北部の相川扇状地崩落部に位置する遺跡であり、弥生～平安時代の遺構が検出される。塩部遺跡付近の相川扇状地は、荒川扇状地と湯川をほぼ境界として接しており、荒川に沿った東西方向の旧河道が存在することから、荒川の氾濫時に影響を受けたものと指摘されている（山梨県埋蔵文化財センター、1996）。今回、本遺跡出土の古墳前期土器について産地推定を目的とした胎土分析を行ったので、以下に報告する。

分析試料

試料表を第1表に示す。No.1とNo.2は山梨県内では出土例が極めて少ない畿内系土器とされる試料である。S字状山塚台付壺No.3および在地系台付壺No.4は、甲府盆地では普通に出土する器種である。No.5の手あぶりは、甲府盆地において出土例が少ないものとされる。

分析方法

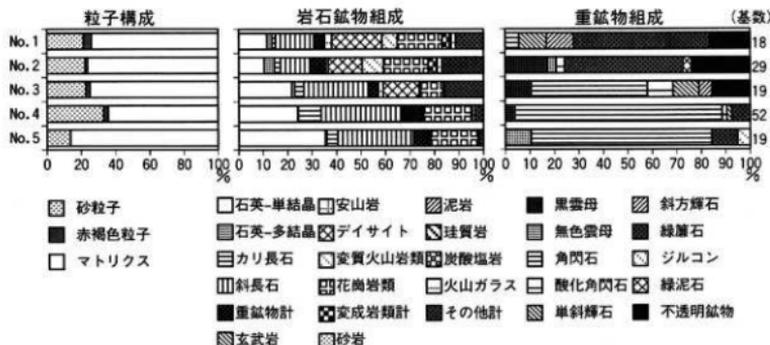
土器試料は、切断機で3×2.5cm程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。土器片試料はエポキシ樹脂を含ませて補強し、土器の鉛直断面切片（厚さ3mm）を切断し、その後岩石薄片と同じ要領で薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッチングし、コバルチ亜硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパレートとした。次に以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ポイントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に0.33mm、短辺方向に0.40mmとし、各薄片で2,000ポイントを計測した。計数対象は、粒径0.05mm以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリクス（「粘土」）部分とし、植物性炭体はすべてマトリクスに含めた。

分析結果および考察

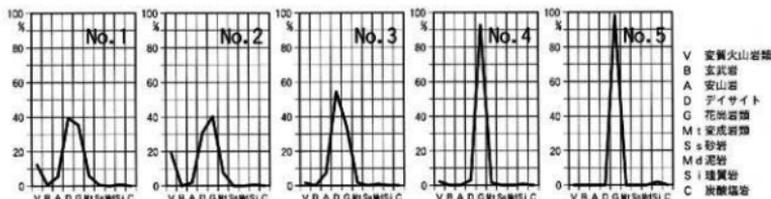
分析結果を第2表に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリクスの割合（粒子構成）、および砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第1図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。岩石組成折れ線グラフを第2図に示す。この折れ線グラフは、各岩石のポイント総数を基数とし、各岩石の構成比を示したものである。折れ線グラフの第1・第2ピークの組み合わせによって土器を分類した（第3表）。クラスター分析の樹形図を第3図に示す。クラスター分析は、折れ線グラフと同様の10種の岩石データを用いて行なった。クラスター分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、最短路距離法によって算出した。第3図は、今回分析試料のほか、南アルプス市村前東A遺跡、寺部村附第6遺跡などの胎土組成、および甲府盆地周辺地域河川砂の岩石組成などを比較したもので、便宜的に番号1～21をクラスターに付した（河西、1999, 2004）。

畿内系土器（Nos.1～2）

粒子構成に占める砂粒子の割合（含砂率）は、21～22%と類似性が高く、赤褐色粒子の割合は2～5%である。岩石鉱物組成では、デイサイト・花崗岩類・その他（泥質ブロックから主としてなる）が多く、変質火山岩類・ホルンフェルス・火山ガラスなどを伴う。デイサイトは、石基は細粒で、角閃石・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物・オパサイトなどの珪石を含む。角閃石斑晶はときに周縁部がオパサイト化する。これらのデイサイトの特徴は、黒富上火山噴出物のもとの類似性が認められる一方、脱ガラス化など変質した粒子も多く含まれる。緑簾石を主体とする岩石（緑簾石岩）も共通して少量含まれる。重鉱物組成では緑簾石が半数近くを占



第1図 土器胎土の岩石鉱物組成



第2図 岩石組成折れ線グラフ

構成される。珪質岩が極めてわずかに計数された。重鉱物組成は、角閃石が74%を占め、無色雲母・緑簾石・ジルコンなどをわずかに伴う。第3表ではG群に、第3図では笛吹川流域河川砂や村前東A遺跡出土土あぶり試料とともにクラスター4に含まれる。産地は、花崗岩類が分布する地域に推定される。

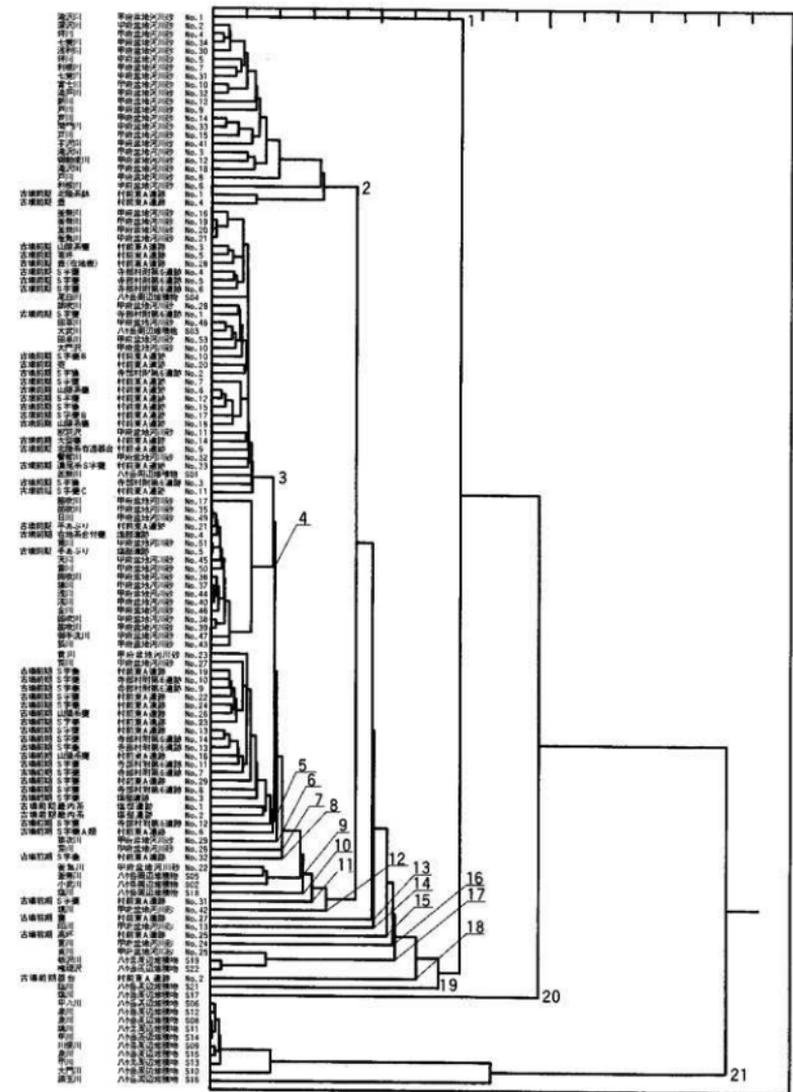
考察

奥田(1994)は、花崗岩質起源の砂礫を主体とする畿内の堆積物岩石鉱物組成と関東地域の組成とは全く異なることを指摘している。デイサイトを花崗岩類と等量程度含む本遺跡Nos.1,2の岩石鉱物組成は、明らかに畿内の土器とは異なる。

畿内系土器Nos.1,2とS字壺No.3はともにデイサイトと花崗岩類を主体とする岩石組成の特徴から荒川流域が有力な産地候補のひとつと推定されている。しかし緑簾石が多い畿内系土器の特徴は、角閃石を主体とし黒雲母・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石などを伴う荒川流域堆積物の重鉱物組成とは異なる。

緑簾石は、若鉄質火山岩類の変成岩構成鉱物として、スカルン鉱物として、あるいは斜長石の分解産物として産出する。甲府盆地堆積物中での緑簾石は、境川・芋沢川周辺堆積物などの緑色変質火山岩類で代表される新第三系分布地域において多く含まれる(河西,1998,1990)。ただし他地域の甲府盆地堆積物での緑簾石含有は極めて少ない。緑簾石を含有する組成は、荒川流域における極めて局所的な堆積物の特徴を示しているのかもしれない。あるいは土器作りでの胎土調整における特殊な事情を反映している可能性もありうる。同様の岩石組成を示す県外地域に産地が存在する可能性も考慮する必要がある。

村前東A遺跡・寺部村附第6遺跡での多くのS字壺が、荒川・塩川流域に産地が推定された(河西,1999,2004)。



第3図 土器胎土と河川堆積物のクラスター分析樹形図

今回の分析でも同様の結果となった。本遺跡のS字甕No.3は、安山岩が少ないことおよび地理的に近接していることから、荒川流域が産地候補としてより有力であると考えた。荒川流域は、甲府盆地西部から北部にかけて分布するS字甕の重要な土器産地のひとつであったと推定される。

相川扇状地上流域には、昇仙峡花崗岩・太良ヶ峠火山岩・水ヶ森火山岩などが分布する（三村ほか、1984）。相川扇状地堆積物の岩石鉱物組成は、まだ十分なデータを持ち合わせていないが、表層地質の分布から花崗岩類と安山岩・変質火山岩類などを主体とする可能性が推定される。今回の分析試料は、相川扇状地堆積物を原料として製作された土器である可能性は低く、したがって狭義の搬入土器の範疇に含まれる。しかし、相川扇状地と荒川扇状地との境界部に位置し、荒川の洪水の影響がおよんでいる地理的特徴を示すことから、荒川流域に産地が推定される本遺跡出土土器は、広域的に見た場合在地的土器に含まれるとも考えられる。

在地系土器No.4は、花崗岩類地域に産地が推定された。遺跡周辺の相川扇状地堆積物を直接原料に製作された可能性は低い。在地系土器の産地は、昇仙峡花崗岩が露出する甲府北部山地の上積草寺・千代田湖周辺、および広大な甲府岩体が露出する笛吹川流域などが有力な産地候補として考えられる。

手あぶりNo.5は、重鉱物に無色(白)雲母が計数され黒雲母の計数がないこと、赤褐色粒子が極めて少ないことなど他の土器と異なる。これらの特徴は、村前東A遺跡手あぶりNo.21にも認められることから、この器種に特有の岩石鉱物組成である可能性も考えられる。昇仙峡花崗岩は、白雲母を含むとされるが黒雲母が主体である。笛吹川流域に分布する花崗岩類は、黒雲母が主体である。したがって手あぶりNo.5の産地は、甲府市北部山地および笛吹川流域が候補である可能性はあるものの、黒雲母・白雲母を含む領家花崗岩などの分布地域である近畿・東海西部・伊那地域などが候補のひとつとなる。他地域の事例などとの比較や資料の蓄積を待って再検討したい。

(山梨文化財研究所 河西学)

註

註1 ここではアイサイト～流紋岩質の柱長質火山岩の総称としてアイサイトを使用する。

文献

河西学(1989)甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成—土器胎土分析のための基礎データ。『山梨考古学論集Ⅱ』、505-523。

河西学(1990)岩石学的手法による天狗沢瓦窯跡瓦の胎土分析。『天狗沢瓦窯跡』、山梨県飯岡町教育委員会、106-114。

河西学(1999)村前東A遺跡出土土器の胎土分析。『村前東A遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第137巻、358-369。

河西学(2004)寺部村第6遺跡出土土器の胎土分析。『寺部村第6遺跡』、南アルプス市埋蔵文化財調査報告書、第2集、60-66。

三村弘二・加藤肇三・片田正人(1984)御岳昇仙峡地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1図幅)、地質調査所、61p。

奥田尚(1994)神奈川県東部の遺跡の土器の砂礫。庄内土器研究、V、庄内土器研究会、44-55。

山梨県埋蔵文化財センター(1996)『塚部遺跡』。山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第123巻。

第2節 塩部遺跡の土器様相

塩部遺跡C地区の土器様相について考察を行うが、まず基本となる土器編年については、弥生末期から古墳時代初頭に起こる畿内系の庄内式土器や伊勢湾系S字甕の広域拡散を受け、全国各地で土器の年代や併行関係が精力的に検討されている。山梨県内では中山誠二氏・小林健二氏が編年や画期の設定を試みており、弥生時代後半から古墳時代前半の土器研究を大きく牽引してきた。しかし、弥生時代末期から古墳時代初頭の移行期の捉え方をめぐっては、中山氏が弥生時代末期に中部及び東部東海系、西相模系の土器様相と伊勢湾系などの土器様相が同時期に地域内で併行すると想定し、それぞれ6A相、6B相として位置づけているのに対し、小林氏は、伊勢湾系のS字甕に主眼を置きながら、その出現、拡散を最大の両期と位置づけて個別の時期を設定している。具体的には弥生時代の土器様式がどの段階で終わり、古墳時代の土器様式がどの段階から始まるかという手法の違いによるものである。よって、両者とも弥生時代末期から古墳時代初頭の移行期を取り込む編年となっているため、中山氏6B相と小林氏I期は併行関係にある。現段階では両者の研究成果に対する評価や修正を加えるだけの蓄積を持ち合わせていないため、どちらが正しいとの判断もできかねるが、本稿を進めるにあたり使用する年代観については、ひとまず小林編年(小林1998a・b)と中山編年(中山1999)を併記して用いることとする(101頁対比表参照)。

県内の調査事例や遺構の重複関係などからC地区で最も古い段階に位置づけられる土器は、中部高地系の甕を主体とする土器群であり、少なくとも弥生時代の延長で捉えられる一群と考えられる。この段階の様相は、口唇部に刻み目文が施され、体部に櫛描文が顕著にみられる台付あるいは平底の甕を主体とする土器群であり、他に折り返し口縁壺や高坏、蓋などがみられる。特に焼失住居である1・13号竪穴建物跡、16号竪穴建物跡下層が一括資料としてまとまっているが、甕はすべて口唇部に刻み目文がめぐる有刻口縁形態で、体部には櫛描文が施されている。最も充実した土器が出土した16号竪穴建物跡下層では、片口坏や鉢、小壺、紡錘車など多様な器種がみられ、甕の蓋なども多くみられる。175は中部高地系の様相が強く、この段階では伊勢湾系の影響は見受けられない。

しかし、後続する14号竪穴建物跡、17号竪穴建物跡上層段階になると、急激に外来系の影響が強くなり、伊勢湾系や北陸系の土器群が主体となり始める。17号竪穴建物跡上層では伊勢湾系のS字甕A類とヒサゴ形壺が出土し、14号竪穴建物跡からは北陸系の有段口縁甕が少なくとも2個体確認され、周溝部からも北陸系の高坏が出土している。特に14号竪穴建物跡では北陸系の土器と伊勢湾系のS字甕A類が共存関係にあり、これまで主体であった中部高地系の土器群の使用数が急激に低下することから、14号竪穴建物跡の様相をみれば伊勢湾系、北陸系の土器で構成される段階が存在すると考えられる。その意味では、小林氏の指摘どおり中山氏6A相と6B相の間には隔絶があり、独立した時期設定をすることも可能であるかもしれない。ただし、竪穴建物跡単位で居住者の住み分けが集落内で存在しているとなると、14号竪穴建物跡は北陸系移民の住居と位置づけられなくもないため、伊勢湾系、北陸系の土器様式の急速な浸透はあるものの、在地のものを含まないというだけでは検証は難しい。そう考えると、中山氏の論が全く否定されるものではないことも確かであろう。その辺りの画期や歴史背景を考える上で一つの判断材料となるような資料が伊勢湾系のS字甕A類、手焙形土器とともに24号溝跡から出土した。ある時期の火災処理層と考えられる24号溝跡5層からは、焼け焦げた木製品とともにタタキ目が施された庄内式土器と併行する畿内系の甕がまとめて出土した。畿内系の甕は、口縁部から頸部にかけて一部刷毛目が見られ、体部は全面タタキ目が施されるものが多い。表面面積が狭くなる底部付近の観察では、底部の平面形状が多角形になるものが存在することから板状のタタキ工具によって整形されたものであることがわかる。ただし、小壺など一部にはタタキ目が少なく刷毛目が残るものもあることから、刷毛状工具により整形

した後叩き締める技法であったと考えられる。もう一つの特徴として体部中央から下方にかけて、粘土の継ぎ目痕のような帯が残る。粘土の帯はタタキ目を有するすべての土器にみられる特徴であり、その帯を境にタタキ目の方向がやや異なる。底部は台付甕以外いずれも中央が窪むものが多く、内面の調整は頸部付近から細かな刷毛目が確認できることから、布か刷毛状工具により丁寧に整形されていると考えられる。

畿内系タタキ甕の本県における出土例は、上九一色村で工事中に発見された甕が1例あるが、出土地点が静岡県側に近かったこともあり、その評価は静岡側との関係で理解されてきた(図62)。同時期に存在したと考えられる村前東遺跡や坂井南遺跡、あるいは大塚遺跡などの比較的大きな集落においても伊勢湾系のS字甕や北陸系の有段口縁甕などは確認されているが、庄内式土器の報告例はないことから、広域に展開したものではないようである。さらに限定すると塩部遺跡近隣の遺跡や同じ塩部遺跡内でもこれまでに確認例がなく、本調査区内でも主に西側に分布することから、今のところ畿内系タタキ甕は塩部遺跡の本地区のみで使用された土器と限定される。胎土分析の結果、使用した粘土は山梨県内あるいは畿内以外の別の場所で調達した可能性が高いとの結果が得られているが、技術を携えた人物が直接塩部付近に移住し、製作した土器である可能性は十分に考えられる。

土器様相からみれば、少なくとも塩部には在地の人間の他に畿内、北陸、東海、中部高地の人々が生活していたと考えられ、長期短距離間の相互交流から短期長距離間の広域移動に人の動きが変化していることが想像される。移動の要因と人々が辿り着いた塩部の集落がどのような性格の場所であったかは現段階では判然としませんが、同時期に畿内系の土器は東海地域にはあまり入らないとされていることから、塩部の土器構成と立地環境などから推測すると、東山道の起源となるようなルートで中部高地を経由して塩部に到達しているのではないだろうか。

以上のような様相からみたC地区の土器は、当初は中部高地系の中山編年6A相に始まり、畿内や伊勢湾周辺、北陸方面など遠隔地の影響を受けた中山編年6B相または小林編年I期の範囲内と位置づけられる。現時点でも研究者や地域によって併行関係や位置づけが異なるため、未だ実年代は定まっていないが、概ね3世紀初頭から3世紀後半までの時間内と考えられ、小林編年II期以降を主体とするA・B地区の前身となる集落と位置づけられるのではないだろうか。A・B地区一帯が東海色の強い土器様相であることを考えると、一段階古い集落域を破壊して造営された本地区1号方形周溝墓の存在が気になるところである。

第3節 塩部遺跡の集落変遷

前節の土器様相や年代観を受けて、ここでは調査された集落の変遷や構造について若干の考察を行う。今回検出された集落の主たる時期は、弥生末期から古墳時代初頭であり、塩部遺跡B地区より一段階古い様相の集落となる。既刊の「塩部遺跡I」では主に古墳時代初頭から後期の集落変遷や構造について検討を試みたが、その西側に展開する本地区の集落変遷や構造についても同じように考えてみたい。

I a 期

まず、本地区において最も古い段階に位置づけられる遺構群は、時期決定の根拠となる遺物も乏しく、土器様相のみでは峻別が困難であるが、重複関係や建物配置などからみて、4・6～9・11・15・19～22号竪穴建物跡と想定する。ただし、7・9号竪穴建物跡のように部分的な調査で判然としないものも該期としている。土器は有刻口縁甕を主体とする時期であるが、後続時期も含め、土器様相のみでは区分できないため、I期についてはa・bに分割して提示する。

I b 期

この時期と考えられる遺構は、1～3・10・13・16～19号竪穴建物跡である。中でも2・16・17号竪穴建物跡は火災の後で同じ場所に建て替えが行われている。特に17号竪穴建物跡などは上下で土器様相の違いが顕著であるため、本段階では下層の建物跡を併行する時期とみなし本段階に位置づける。2号竪穴建物跡は土器も少なく正確な時期などは不明であるが、下層が焼失した後建て替えられていることから同時期とみなした。しかし、当該期の建物群は焼失している建物跡が多いが、3号竪穴建物跡は焼失してはいないが、4号竪穴建物跡との重複関係を重視してこの段階に位置づけた。個々の遺構でみた場合、焼失した建物跡、していない建物跡、あるいは建て替えがあった建物跡で3つのパターンがあり、それによって時期区分が可能であるかもしれない。いずれにしてもI a期・I b期では土器様相に大きな時間差は感じられないため、時期的には一つのまとまりとして捉えることが可能である。

II 期

5・12・14・16・17号竪穴建物跡及び4号平地建物跡、24号溝跡が畿内系・伊勢湾系・北陸系などの外来系の土器を主体とする段階の遺構群として同時期に位置づけられる。5・12号竪穴建物跡は部分的な検出であり、時期を特定する遺物も少なかったが、前段階との重複関係や遺構の状況から当該期に位置づけている。24号溝跡は部分的な確認であるため、正確なところは周辺部における今後の調査を待たねばならないが、検出規模や形状、土層堆積状況から判断すると集落の環濠である可能性が想定される。溝跡の機能が外敵からの防御を意図した溝か、排水機能を期待した溝であるかは判断が難しいところであるが、少なくとも火災処理層である5層の検出位置より下層には厚く堆積物があり、幅も防御用としてはやや狭いように感じられた。また、低地に位置する4号平地建物跡の位置と状況からみて、排水性を期待したのではないかと考えられる。

III 期

本地区において最新となる遺構は、竪穴建物跡を破壊するように造営された1・2号方形周溝墓である。方形周溝墓は、甲府工業高校地区やA地区を中心に大きな墓域を形成していたと考えられるが、南端はB地区内でも確認されている。本地区で検出された1・2号方形周溝墓は確認されている中で最も西端に位置するが、重複するすべての竪穴建物跡を破壊するように造営されていた。造営時期については、周溝内から出土した最新の土器がS字甕A類であり、後続の遺物群は検出されていないことから集落が廃絶して間もなく造営され、比較的短い時間内に洪水によって調査区ともども埋没したものと考えられる。1号方形周溝墓下層からは東海系の曲柄二股鎌が出土していることから、方形周溝墓造営に東海系の影響力が窺われる。後続する集落の土器様式が東海化する現象と合わせると興味深い。

IV 期

本遺跡の最終期は、溝状の遺構が面的に確認されるが、実際には方形周溝墓の際まで溝跡は延びるが、直接的な重複関係がないため、同時期あるいは溝跡の方が古いことも考えられる。溝跡の性格は定かではないが、畝のような性格であろうか。

以上のように大きくIV期に分けて変遷を辿ってみたが、やはり土器様相では外来系の土器群が入り始める時期が最も変化を捉えやすく、建物構造でも14号竪穴建物跡で顕著なように、小判型の形態から隅丸方形の建物形態がみられるようになる。おそらくB地区の状況などを考慮してもこの時期以降竪穴建物跡の形態が変化したものと考えられる。また、本集落を考える上で建物跡の焼失と24号溝跡の存在が特徴として挙げられる。中山氏が指摘するとおり、弥生時

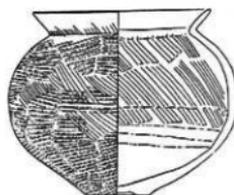
代末期から古墳時代初頭に位置づけられる本地区の建物群の多くは何かの理由で焼失しているが、その原因が偶発的な失火であるのか、意図的な放火によるものであるかの判断は難しい。しかし、本集落が火災後に廃絶し、墓域が形成され始めるということは事実のようである。その辺りの歴史背景などが説明できるまでには今少し補足資料が必要となるだろう。

また、16号溝跡からは馬に類似した歯が出土している。一括で取り上げている上、出土状態が悪く断定には至っていないが、仮に馬の歯であるならば、甲府工業高校地区SY-3から出土した馬よりも約1世紀も古い段階に位置づけられることになる。その場合確認されている事例の中では日本最古級となるため、慎重な取扱いが必要である。土器の移動の背景に人の遠距離移動があることから、その手段として馬の存在も十分考えられる。別の機会に専門家による鑑定及び分析ができればと考えているが、今後周辺部も含めて再検討の余地を残した。

参考文献

- 山梨県教育委員会 1985『飯田一丁目遺跡』
 甘粕健 春日真実編 1994『東日本の古墳の出現』山川出版社
 山梨県教育委員会 1996『塩部遺跡』
 赤塚次郎 1996『濃尾平野低地部における古墳時代の甕』『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
 山梨県 1997『山梨県史 資料編2 原始・古代2』
 上九一色村教育委員会 1998『遺跡詳細分布調査報告書』
 小林健二 1998a『山梨県出土の東海系土器—波及と定着の変容—』山梨県考古学協会誌 第10号山梨県考古学協会
 小林健二 1998b『甲斐における古式土師器の成立—3・4世紀の土器編年と墳墓—』専修考古学 第7号 専修大学考古学会
 小林健二 1999『山梨県出土の北陸系土器』山梨県考古学論集IV 山梨県考古学協会
 山梨県教育委員会 2000『富士見一丁目遺跡』
 中山誠二 2002『地域の様相 甲斐』『弥生時代のヒトの移動』西相模考古学研究会
 甲府市教育委員会 2004『塩部遺跡I』

中山編年	小林編年・分類	観内編年	東海西部	塩部遺跡(C地区)
5期			山中式	
6A相	弥生末期	庄内式期I	磨間I式	1号・10号・13号・16号 (下層)竪穴建物など 14・17号(上層)竪穴建物・4号平地・24号溝跡など 1号方形周溝墓
			S字壺 A型	
古墳時代	6B相			
	1期	庄内式期II	磨間II式	B型
	2期	庄内式期III		
	3期	庄内式期IV	磨間III式	C型
		布留式期I		
	4期			



0 10cm

図62 上九一色村西一条遺跡出土土器

弥生時代末期から古墳時代前半の土器編年対比表

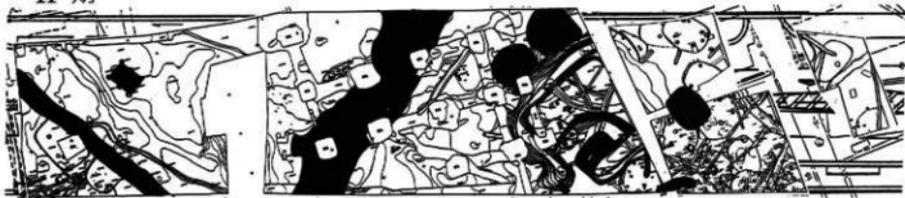
I a 期



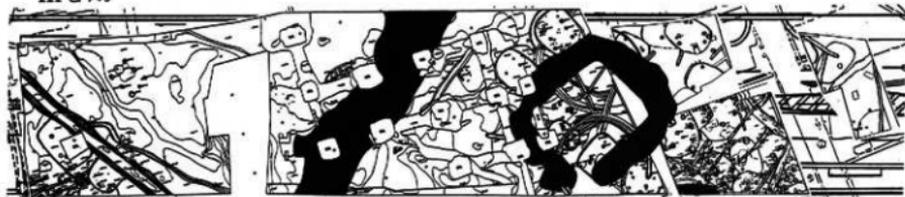
I b 期



II 期



III a 期



III b 期



图 63 C 地区遗构变迁图



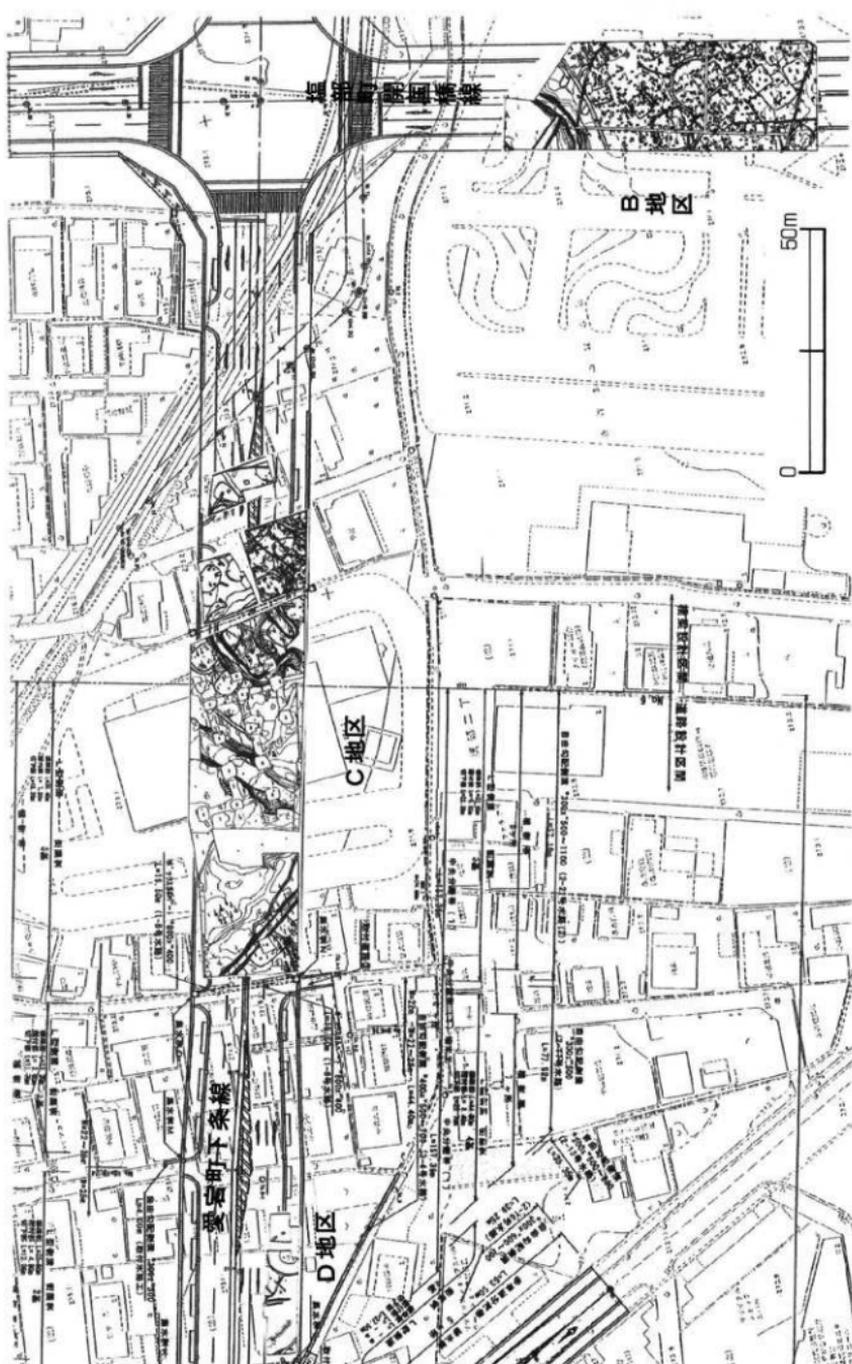


図 64 塩部遺跡 B・C地区遺構展開図

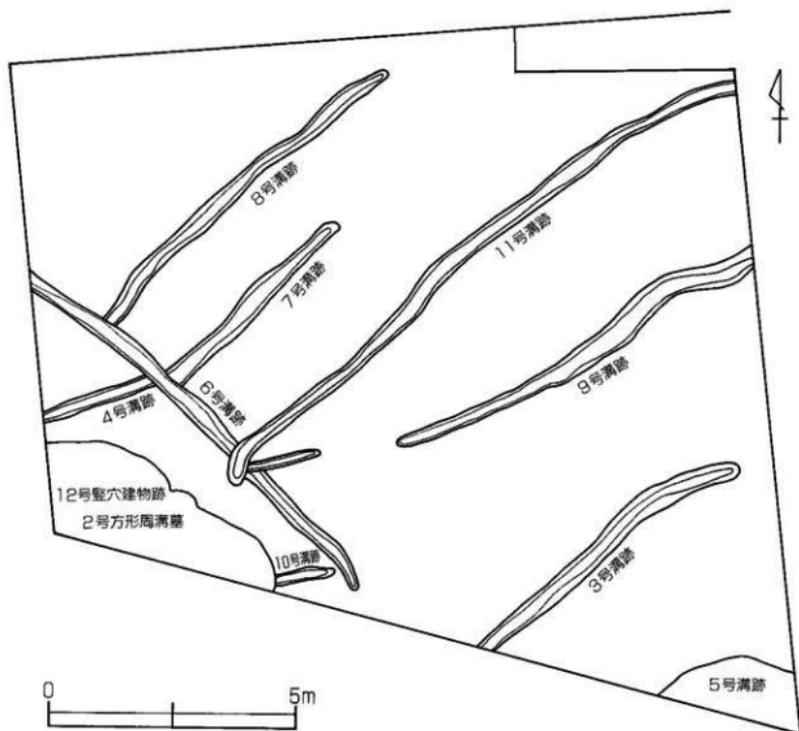


图 65 平成 14 年度調査区南侧溝跡全体図

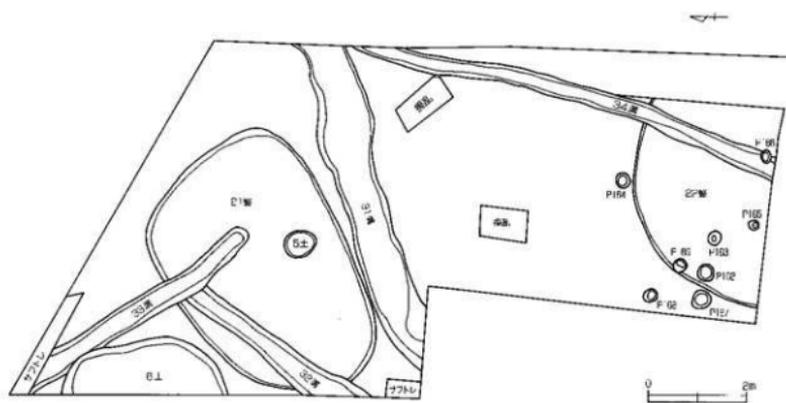


图 66 東側確認調査区全体図

第5章 結 語

本書により県道改良工事に伴う塩部地区における埋蔵文化財発掘調査の成果報告はすべて完了することとなった。今回の調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地範囲の隣接地における調査であったが、峡中地域振興局建設部のご協力のもと、本県の弥生時代から古墳時代への移行期を考える上で重要な成果を挙げる事ができた。

大きな成果としては、庄内式土器と併行する時期と考えられる畿内の土器が盆地内で初めて遺構からまともに出土したことであろう。土器そのものは畿内周辺で製作されたものと技術的に大きな違いはみられないが、第4章で報告した胎土分析によって、少なくとも畿内から持ち込まれたものではないことが明らかにされたが、このことは土器そのものが西から持ち込まれたものではなく、畿内の作り手が別の場所で製作したものであることを裏づけることとなった。しかし、鉱物組成をみる限り荒川流域ではなく、県外地域も視野に入れる必要があるときれ、県内であれば境川に所在する芋沢川流域の可能性があると指摘されており、中道町所在の鏡子塚古墳などの成立を考える上でも興味深い情報が得られた。土器そのものは現在のところ塩部遺跡の本地区内で完結しており、継続性もないことから短期間製作あるいは持ち込まれ、消滅したものと考えられる。

また、同時期の様相として畿内周辺の土器とともに伊勢湾、北陸系の技術によって製作された土器も集落内から同時に出土していることも人の動きを考える上で見逃せない。弥生時代末期までの県内の土器様相は、隣接する周辺部の影響を受けつつ成立しており、土器からは人々の比較的距離離間の緩やかな相互交流を読み取ることができた。しかし、畿内周辺の庄内式のタタキ甕やS字甕、有段口縁甕は、明らかに畿内や伊勢湾周辺、北陸の技術によって製作された土器であり、小地域の枠組みを越えて短時間のうちに直接塩部に到達していると考えられる。この結果が何を意味しているか現段階では定かではないが、畿内周辺の人々に加え、伊勢湾周辺、北陸の人々も同時に塩部の集落運営に直接関わったと考えられる。同時期に全国規模で人の動きが活発化するということが研究により明らかにされているが、土器様相と集落の状況からは、甲斐と王権が成立しつつあった西日本との直接的な人の移動があったことは間違いなく、その後の県内の勢力図を考える上でも貴重な発見であった。本地区の集落が火災により消滅した後は、県内全域に東海系の影響力が強まることを考えると、その背景に東海地域と甲斐、あるいは畿内との政治的、軍事的緊張が存在したことも決して無関係とは言い切れないかもしれない。既刊の『塩部遺跡 I』の成果や周辺の状況も踏まえ、人の移動の契機や塩部の位置づけや歴史背景について今後更なる研究の進展が期待される。

最後になるが、文化財保護行政が様々な意味で岐路に立たされている現在、文化財を保存・管理し、陳列するだけではなく、調査成果をいかに活用し、市民に還元できるかが問われている。その意味でも担当者は、発掘調査の事実記載のみで終わるのではなく、遺跡を通してその場所がどのような性格の遺跡で、いつの時代に何が起き、何がわかったのか、何が考えられるのかという遺跡の評価をできるかぎり明示すべきであり、それは個々の遺跡だけではなく遺跡をとりまく歴史環境も含めた所見を提示することが望ましいと考える。調査の客観性は重要であるが、現状では調査や報告書の編集が個々の担当者の主観や裁量によるところが大きい以上、担当者がどのような観点に基づいて調査し、まとめたものであるかを明確にすることは、むしろ客観的に評価する際の材料になると筆者は考えている。よって、本報告ではこれまで調査してきた塩部遺跡の成果を少しでも地域に還元することを目的に調査結果の評価として若干の考察を試みているが、その評価が妥当なものであったかどうかは別の機会に判断されるものと考える。今回の調査成果が歴史教育、歴史研究に活用されることを切に望みつつ、本書を結ぶこととする。

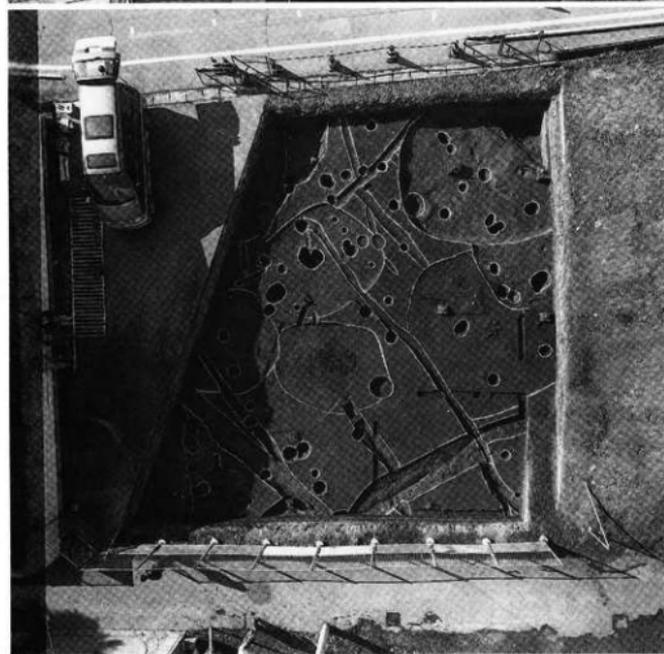
平成15年度調査 埜部遺跡

平成14年度調査区

10 1 : 400

30





平成14年度調査区



平成15年度調査区



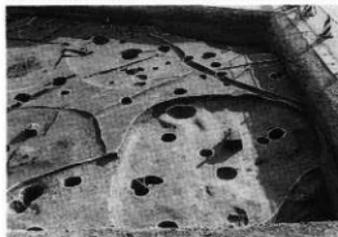
平成14年度
調査区北側
西全景(北-)



平成14年度
調査区北側
東全景(北-)



平成14年度
調査区南側
全景(東-)



平成14年度
調査区南側
全景(北-)



平成14年度
調査区東側
全景(北-)



平成15年度
調査区東側
全景(北-)



平成15年度
調査区西側
全景(東-)



平成15年度
調査区西側
全景(西-)



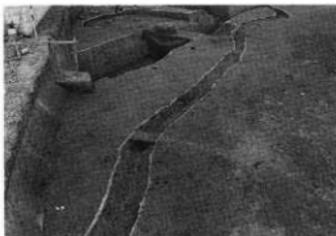
13号溝跡



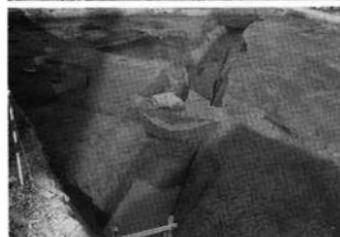
20・21号
溝跡周辺



15号溝跡



23号溝跡



24号溝跡



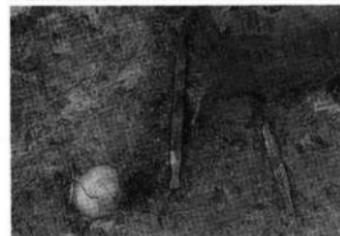
24号溝跡
セクション
(北西→)



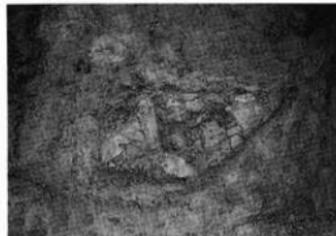
24号溝跡
セクション
(東→)



24号溝跡
下層出土高坏



24号溝跡
5層出土遺物



24号溝跡
土土ヒョウタン



25-26-27-28
29号溝跡



31-32-33号
溝跡



川跡全景



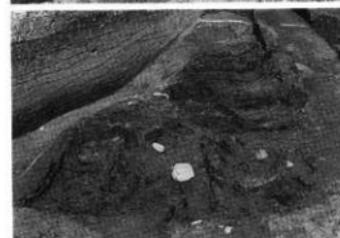
川跡
セクション
(北～)



1号竪穴
建物跡
炭化材
検出状況



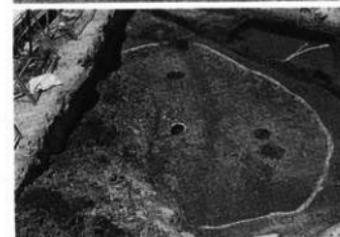
1号竪穴
建物跡
炭化材
検出状況



1号竪穴
建物跡
炭化材
検出状況



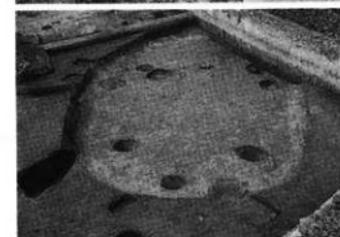
1号竪穴
建物跡
埋壺炉



1号竪穴
建物跡



2号竪穴
建物跡



3号竪穴
建物跡



4号竪穴
建物跡



6号竪穴
建物跡
セクション
(南~)



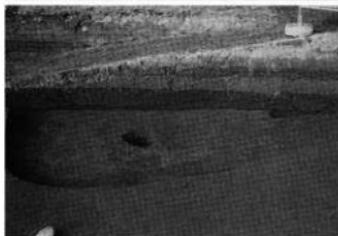
6号竪穴
建物跡
セクション
(東~)



6号竪穴
建物跡
遺物状況



6号竪穴
建物跡



7号竪穴
建物跡
セクション
(南~)



8号竪穴
建物跡
セクション
(南~)



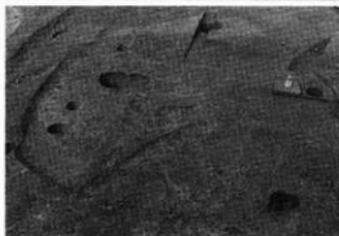
9号竪穴
建物跡
セクション
(西~)



10号竪穴
建物跡
セクション
(南~)



10号竪穴
建物跡



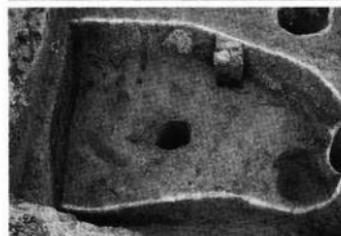
11号竪穴
建物跡



12号竖穴
建物跡
セクション
(西~)



12号竖穴
建物跡
遺物状況



12号竖穴
建物跡



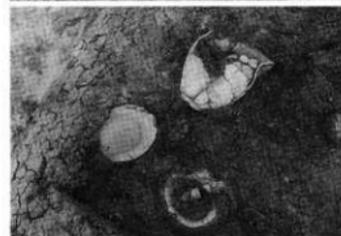
12号竖穴
建物跡



13号竖穴
建物跡
セクション
(西~)



13号竖穴
建物跡
遺物状況



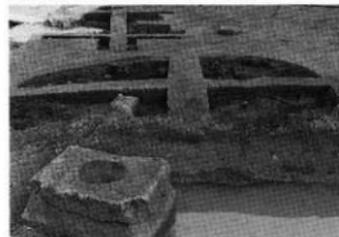
13号竖穴
建物跡
遺物状況
(127-130-134)



13号竖穴
建物跡



14号竖穴
建物跡
セクション
(西~)



14号竖穴
建物跡
セクション
(南~)



14号竪穴
建物跡
炭化材検出
状況



14号竪穴
建物跡
炭化材検出
状況



14号竪穴
建物跡
遺物出土状況



14号竪穴
建物跡
炭化材



16号溝跡
セクション



16号溝跡



14号竪穴
建物跡
及び
16号溝跡



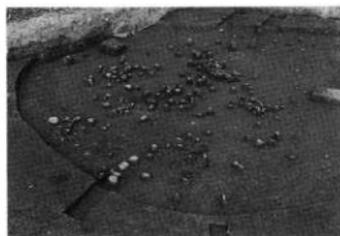
14号竪穴
建物跡
及び
16号溝跡



14号竪穴
建物跡
及び
16号溝跡



15号竪穴
建物跡



16号竪穴
建物跡上層
遺物状況



16号竪穴
建物跡下層
セクション
(西~)



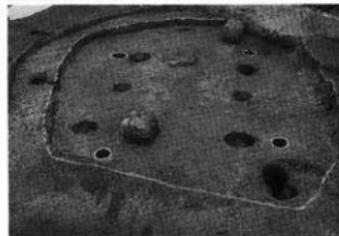
16号竪穴
建物跡下層
遺物状況



16号竪穴
建物跡遺物
及び
筵出し状況



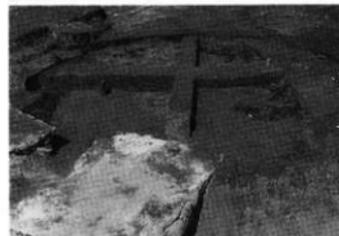
16号竪穴
建物跡
炉跡



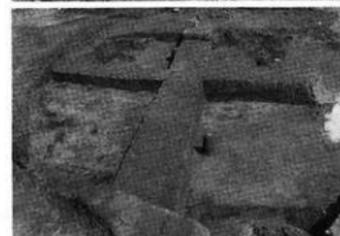
16号竪穴
建物跡



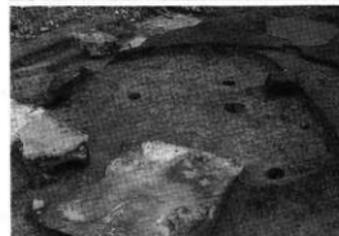
16号竪穴
建物跡



17号竪穴
建物跡
セクション
(南~)



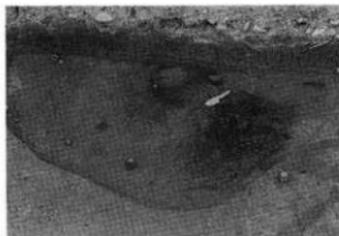
17号竪穴
建物跡
セクション
(西~)



17号竪穴
建物跡



18号竪穴
建物跡
セクション
(東→)



18号竪穴
建物跡



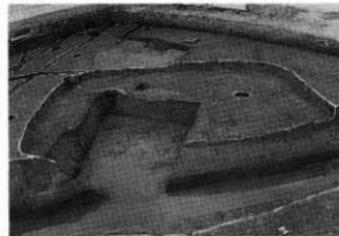
19号竪穴
建物跡
セクション
(南→)



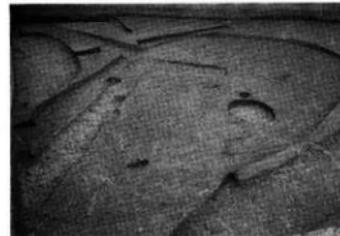
19号竪穴
建物跡



20号竪穴
建物跡
セクション
(東→)



20号竪穴
建物跡



21号竪穴
建物跡



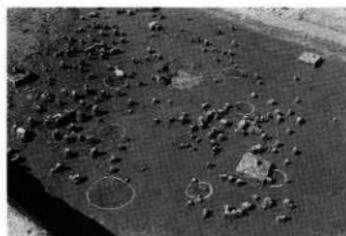
22号竪穴
及び
5号平地
建物跡



1号平地
建物跡



4号平地
建物跡周辺



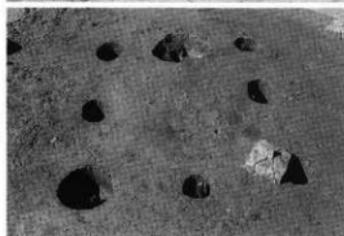
4号平地
建物跡
遺物状況



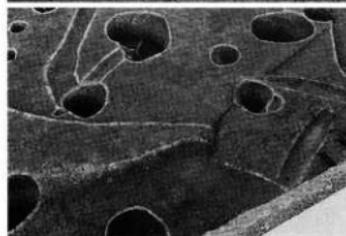
141号
ビット



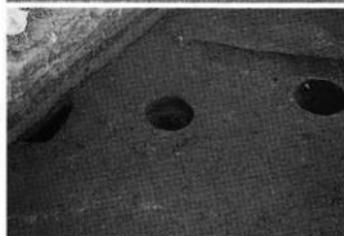
4号平地
建物跡



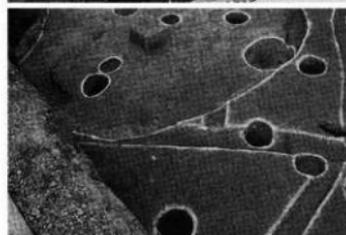
4号平地
建物跡



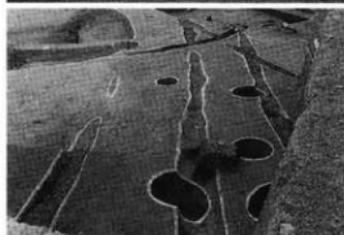
1号掘立柱
建物跡



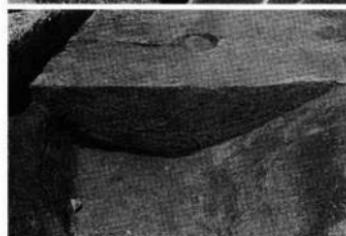
2号掘立柱
建物跡



3号掘立柱
建物跡



1・2号
柱穴列跡
及び
27・28・29
号溝跡



1号方形
周溝墓
セクション
(南~)



1号方形
周溝墓跡



1号方形
周溝墓跡
セクション



1号方形
周溝墓跡
セクション



1号方形
周溝墓跡
セクション



1号方形
周溝墓跡
セクション



1号方形
周溝墓跡
セクション



1号方形周
溝墓E-9グ
リッド
木製品出土
状況



1号方形周
溝墓土器・
炭化米・骨
出土状況
(220・221)



1号方形周
溝墓土器・
炭化米出土
状況



1号方形周
溝墓全景
(北~)



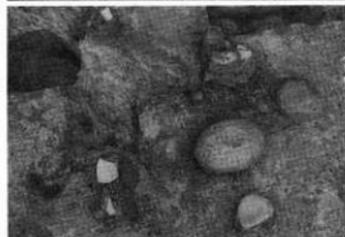
1号方形周
溝墓全景
(東~)



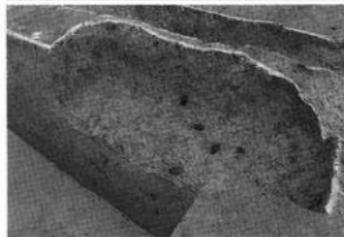
2号方形
周溝葬出土遺物
(278)



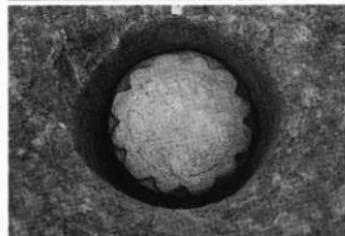
2号方形
周溝葬跡



3号土瘡



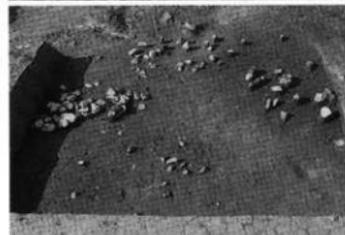
4号土瘡



焼夷弾弾頭
出土状況



微高地から
低地への落
ち込み



低地部遺物
出土状況



掘削状況



調査風景



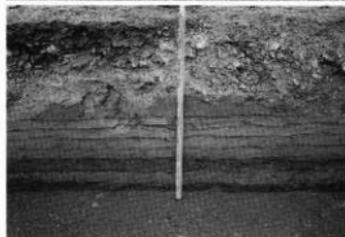
平成15年度
調査参加者



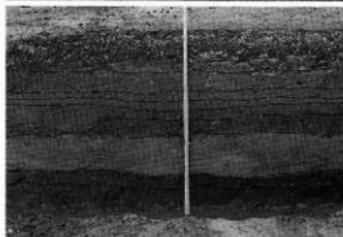
平成14年度
調査前



平成15年度
調査前



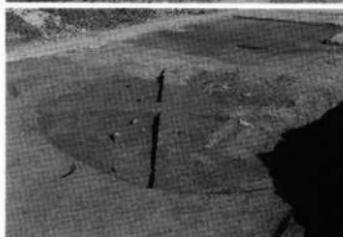
平成14年度
東側層序



平成15年度
西側低地
層序



D区全景



D区
1号竪穴
建物跡
セクション
(西～)



D区
1号竪穴
建物跡



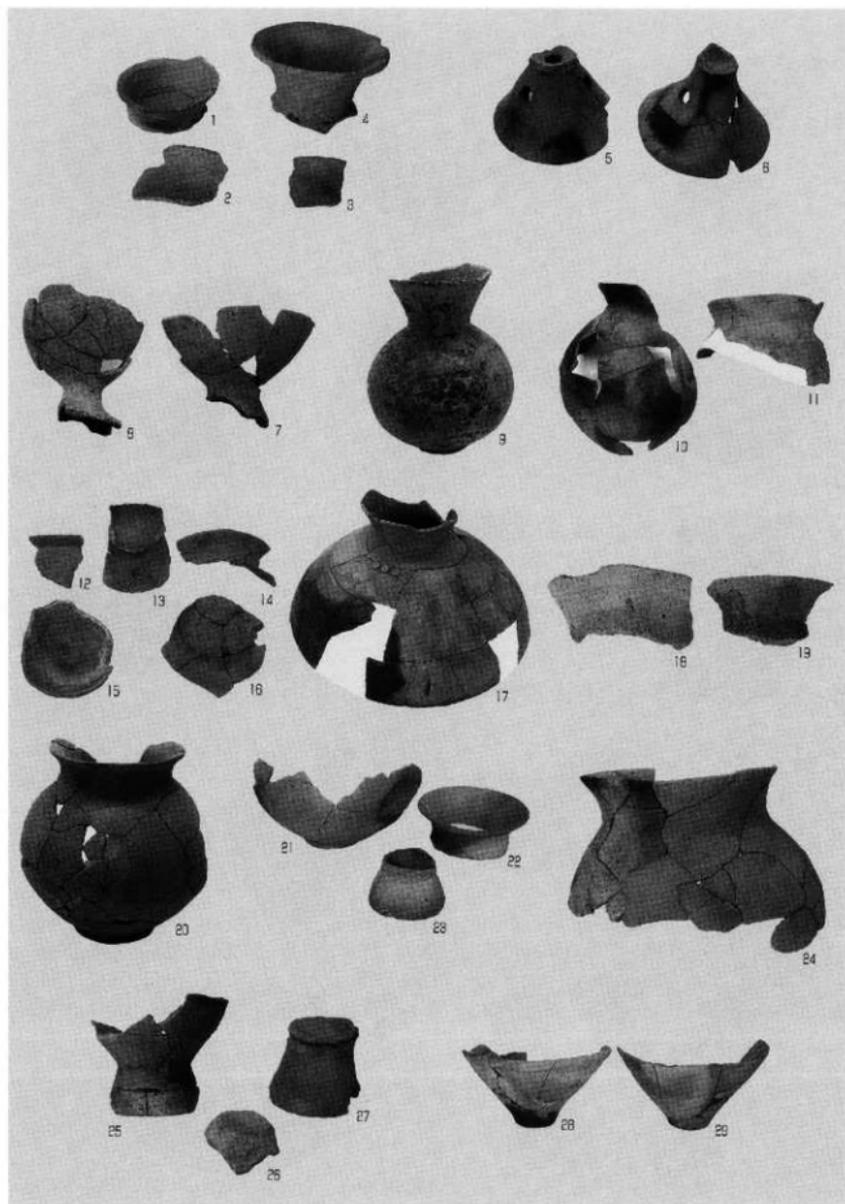
D区
1号竪穴
建物跡及び
6号溝跡

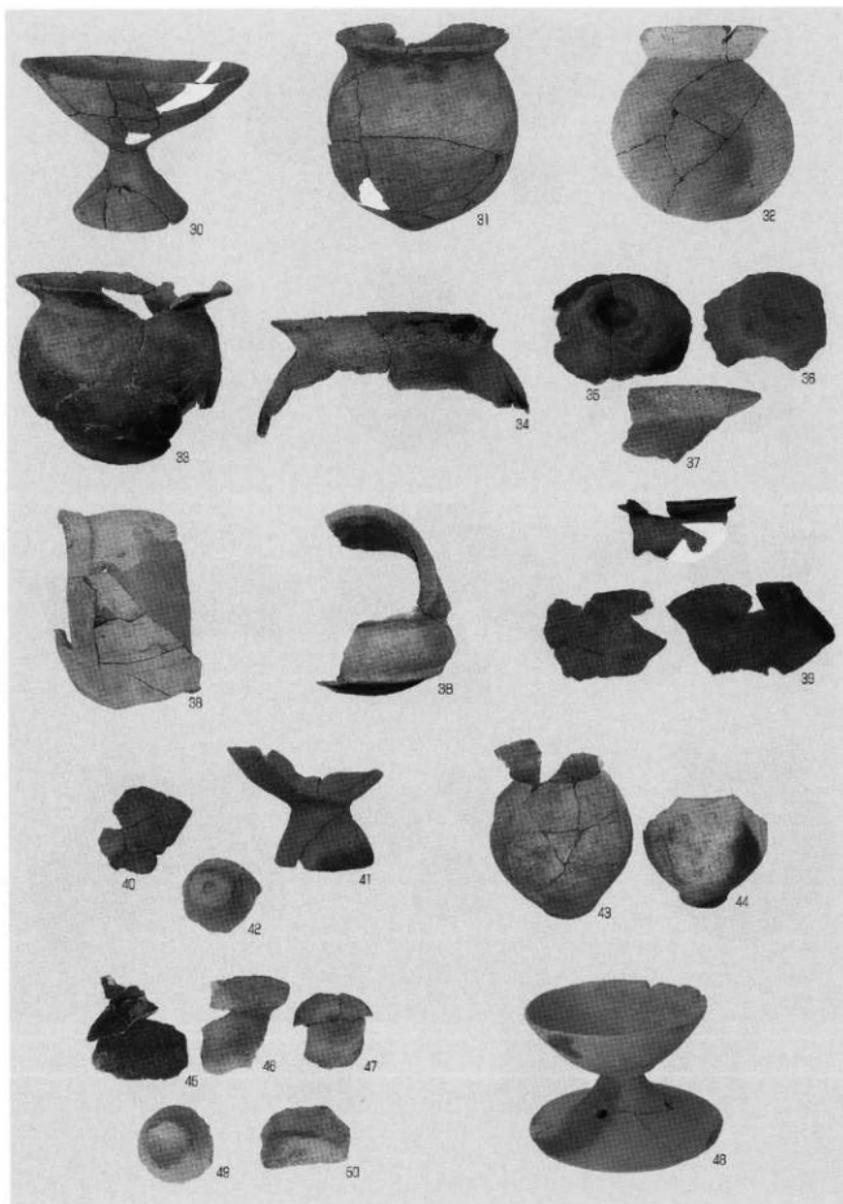


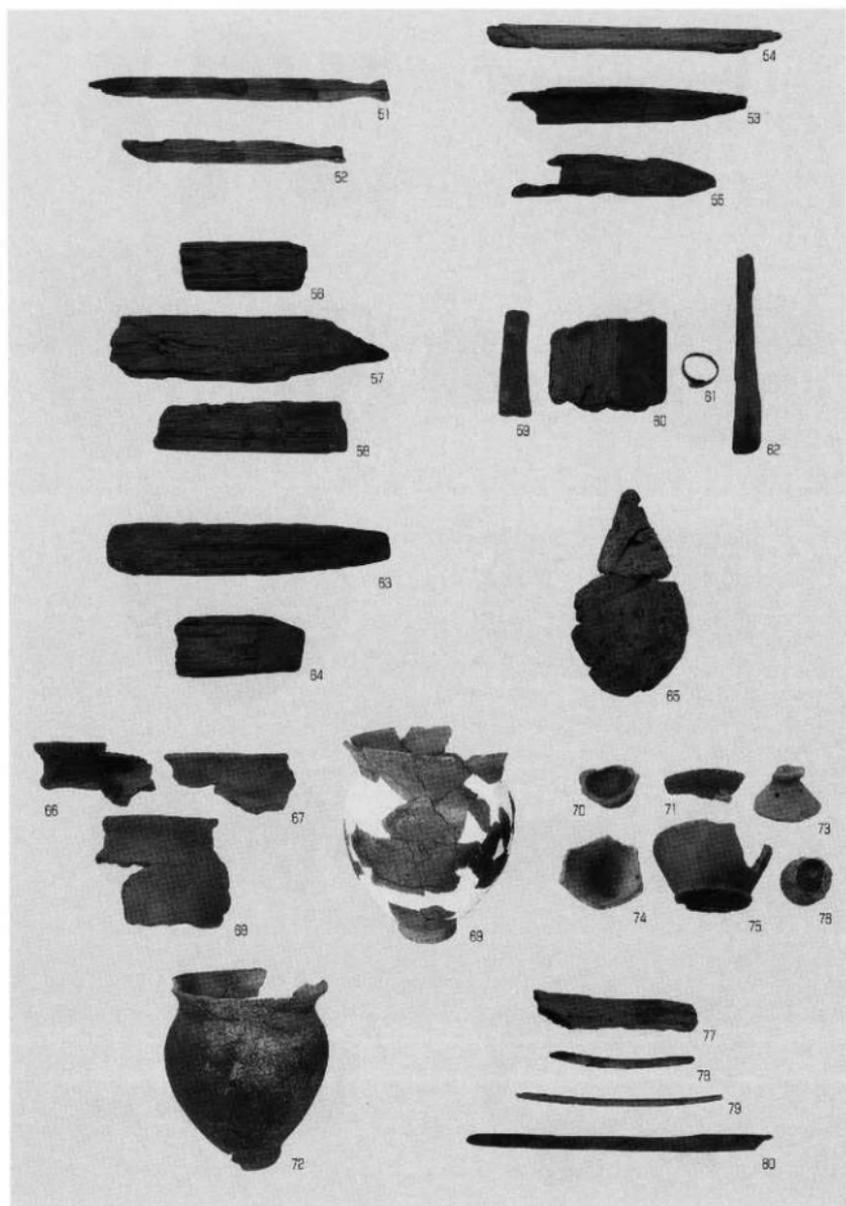
1号掘立柱
建物跡

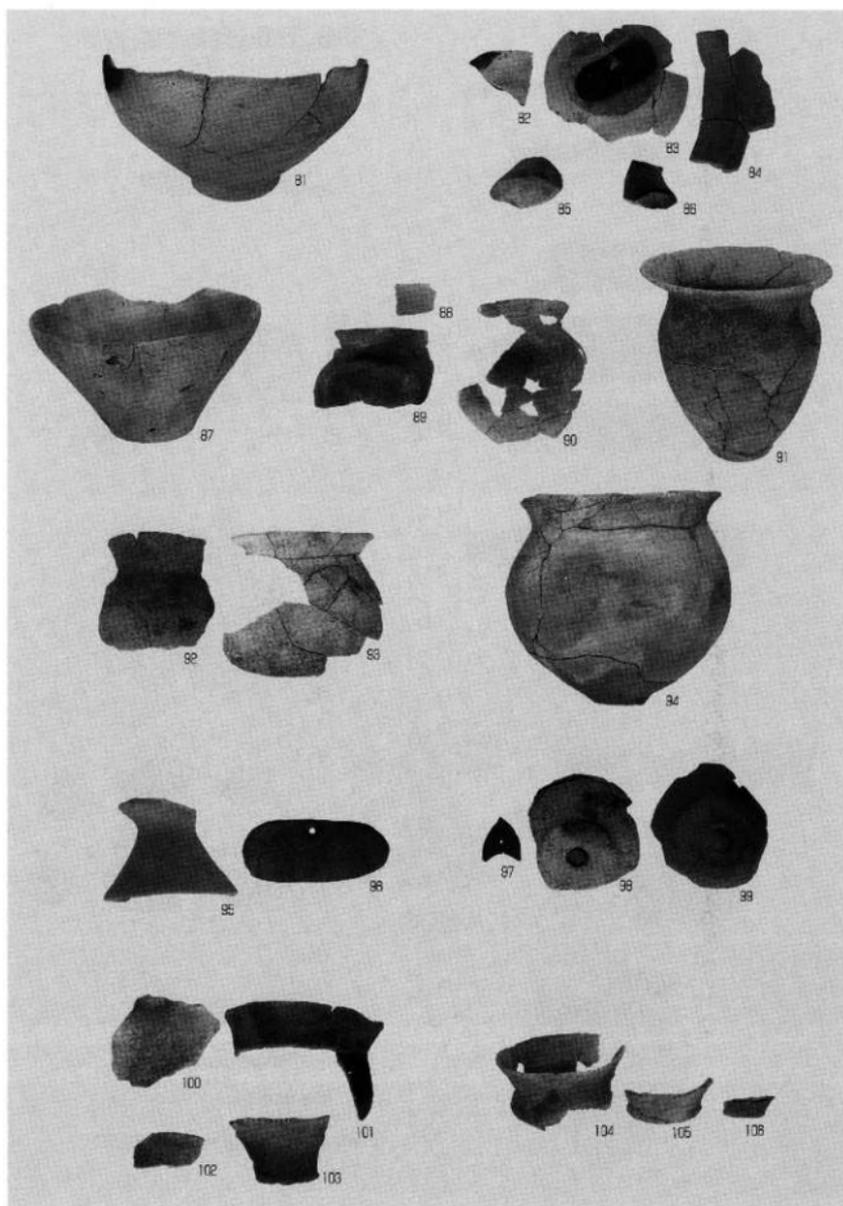


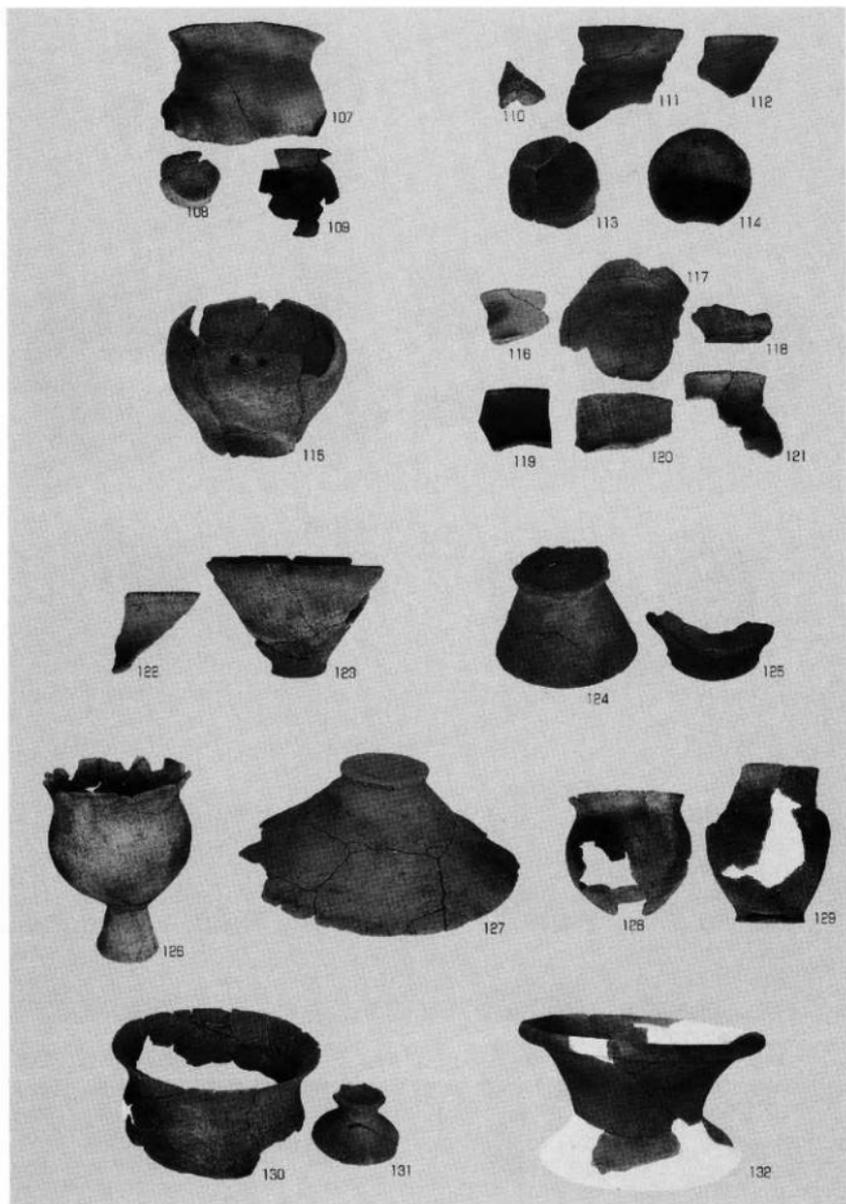
1号掘立柱
建物跡

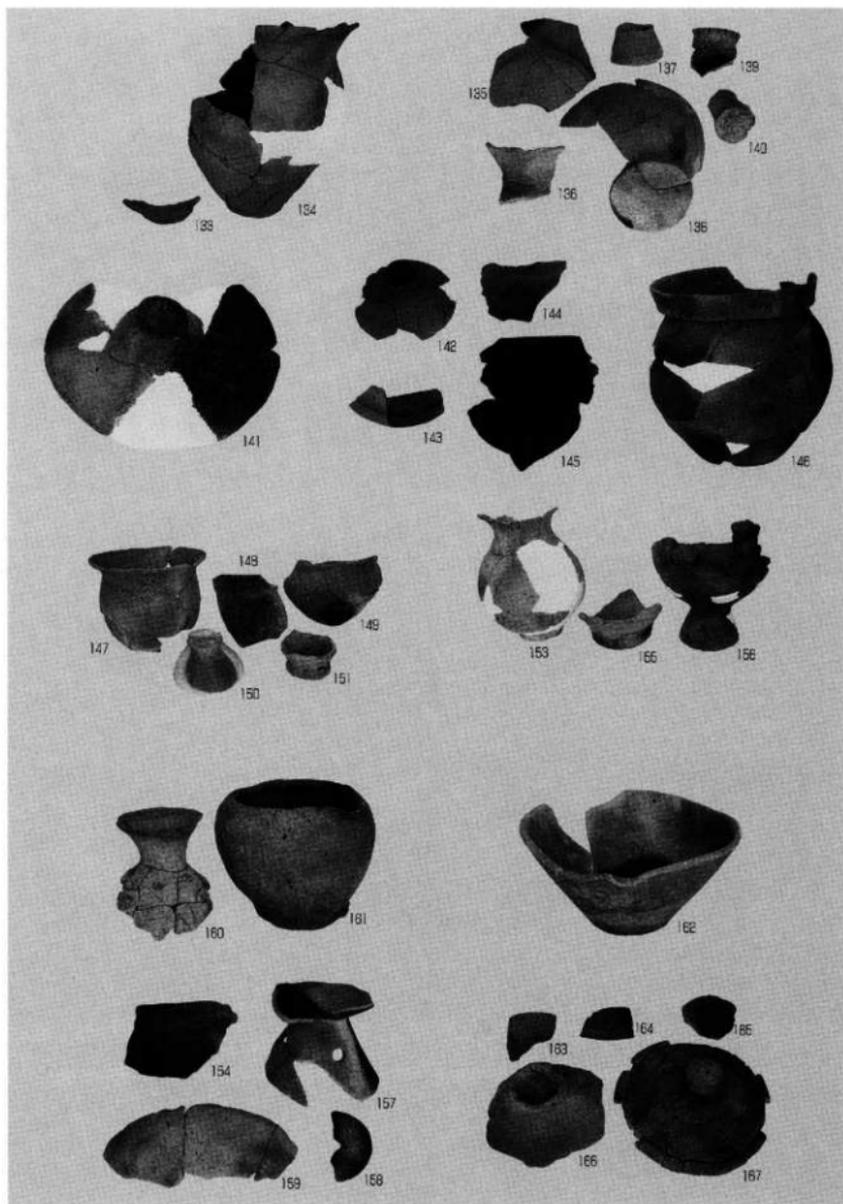


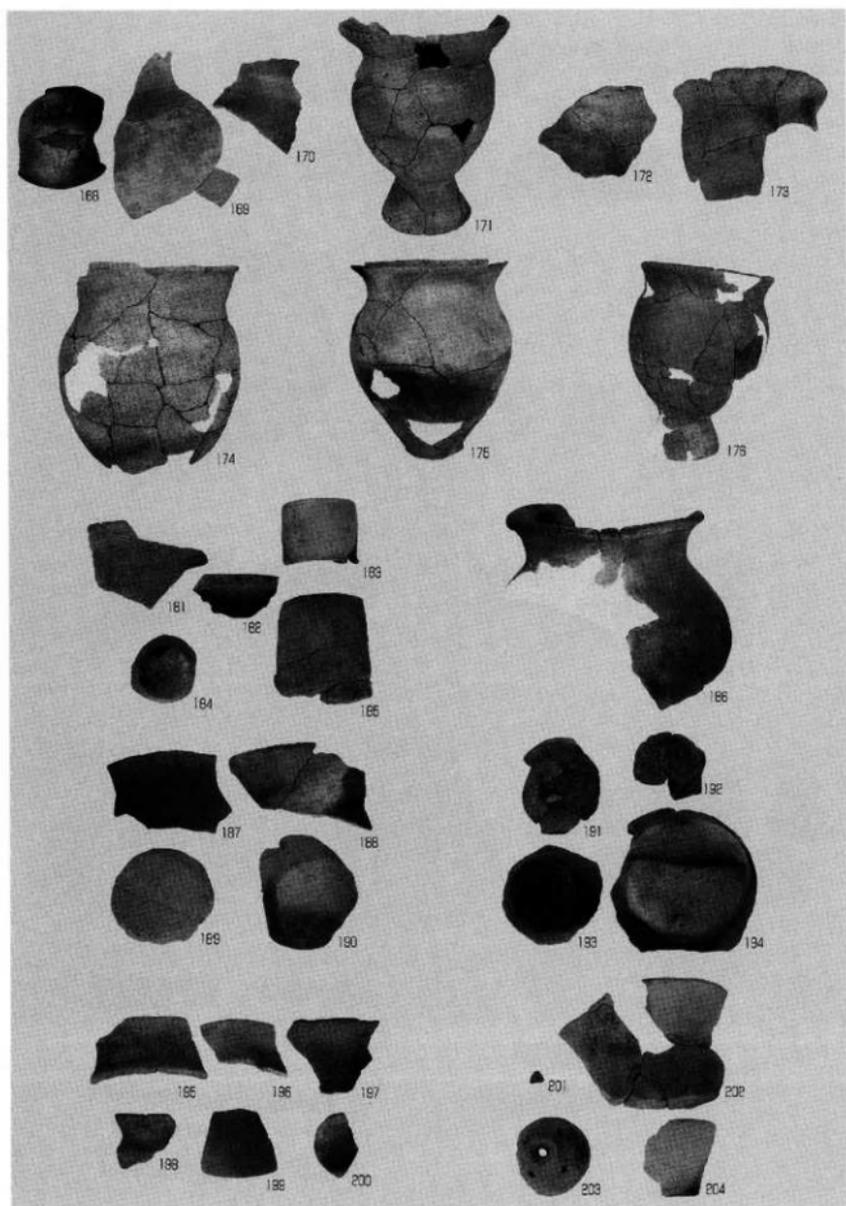


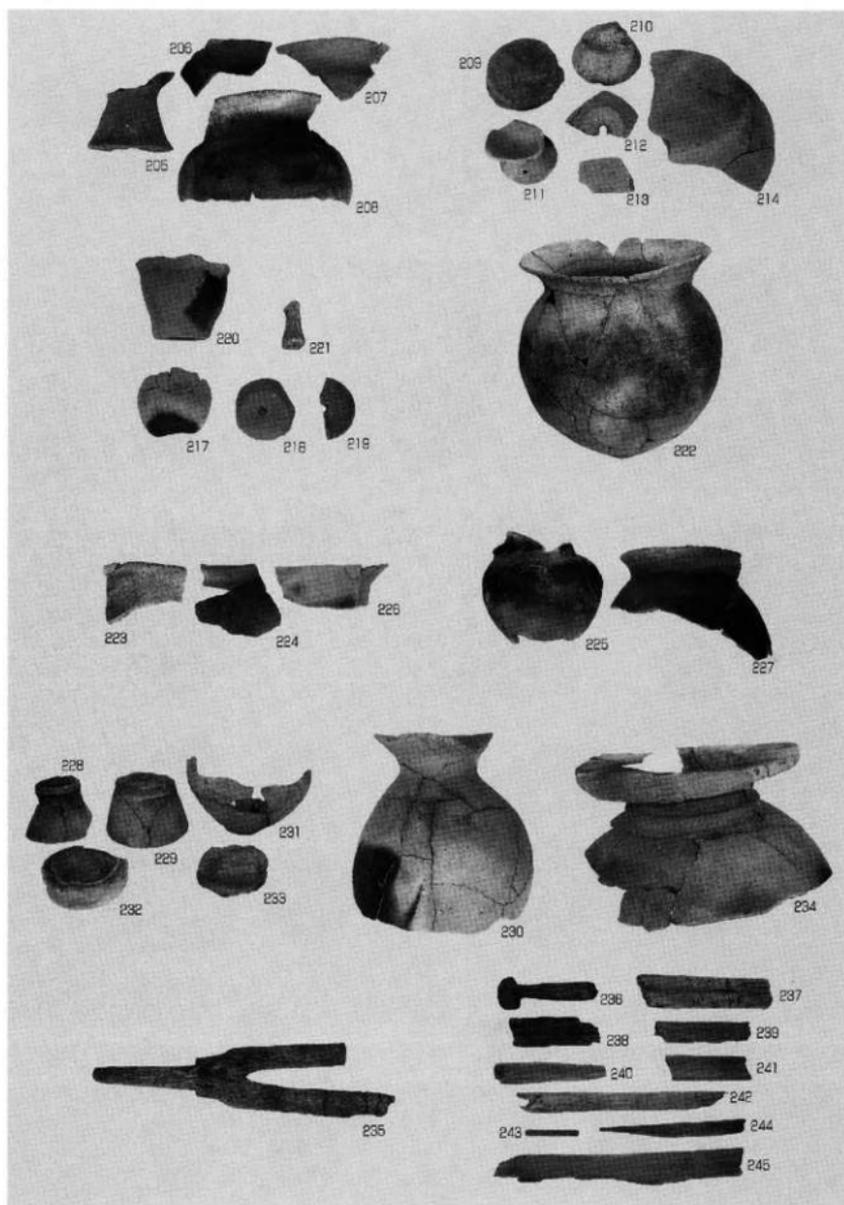


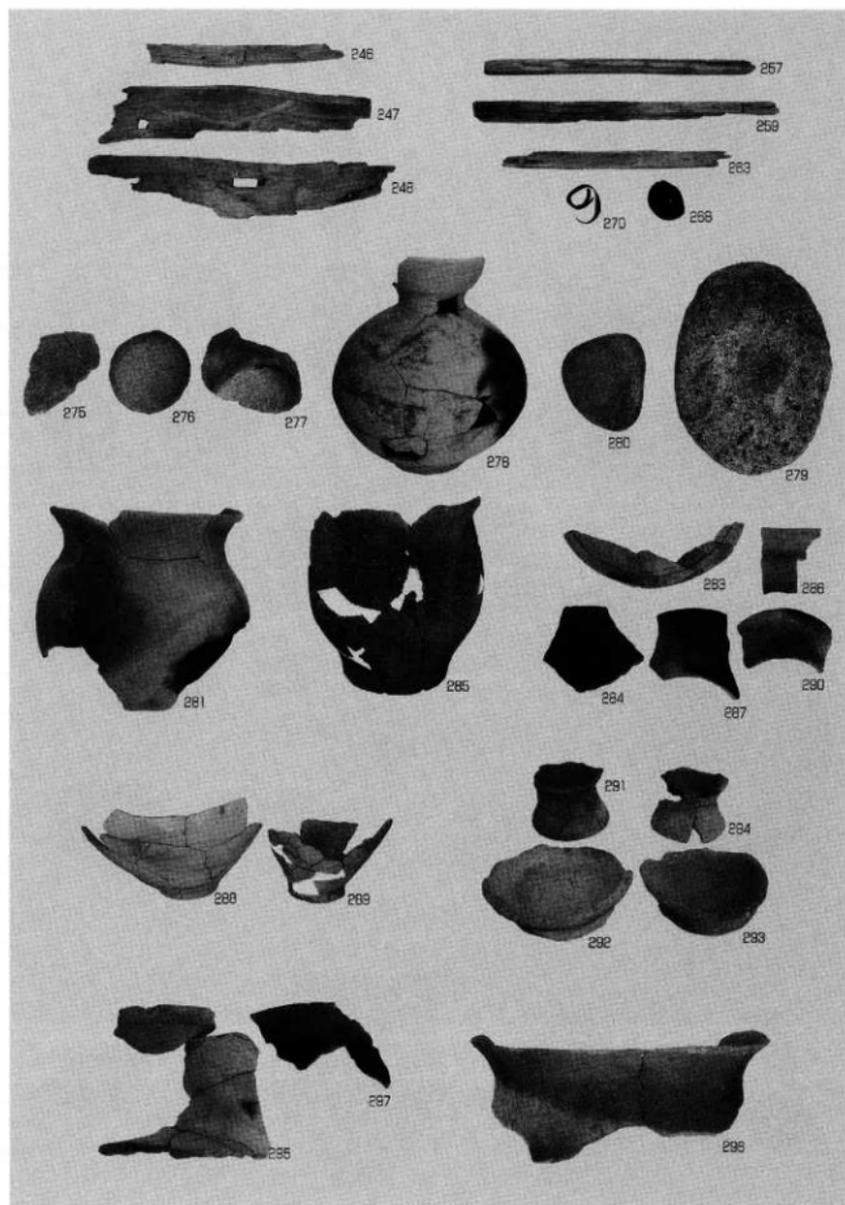


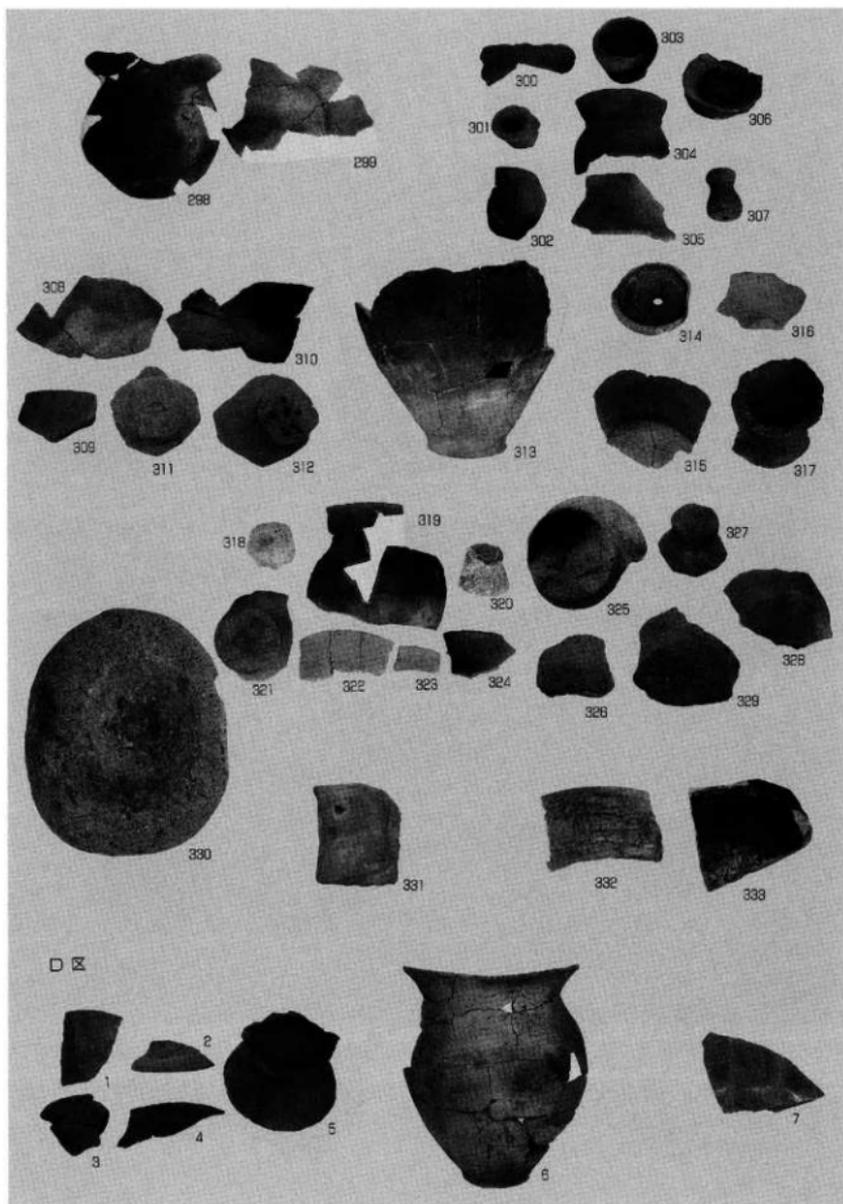












報 告 書 抄 録

ふりがな	しおべいせき						
書 名	塩部遺跡II						
副 書 名	山梨県都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴う発掘調査報告書						
巻 次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告書						
シリーズ番号	30						
編 集 機 関	甲府市教育委員会						
所 在 地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055 (223) 7324						
発行年月日	平成17年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	′′′′	′′′′		
しおべいせき 塩部遺跡	やまがしけんこうふし 山梨県甲府市 しおべ 塩部二丁目	19201	74	35′ 40′ 14″	138′ 33′ 20″	20021107 ～ 20040202	県道改良 工事に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
塩部遺跡	包蔵地	弥生～古墳	溝跡・竪穴建物跡・平地建物跡・掘立柱建物跡・方形周溝溝・土塚		弥生・古墳時代の土器・石器・木製品		

甲府市文化財調査報告30

塩 部 遺 跡 II

—山梨県都市計画道路愛宕町下条線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—

平成17年3月31日

発 行 山梨県峡中地域振興局・甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

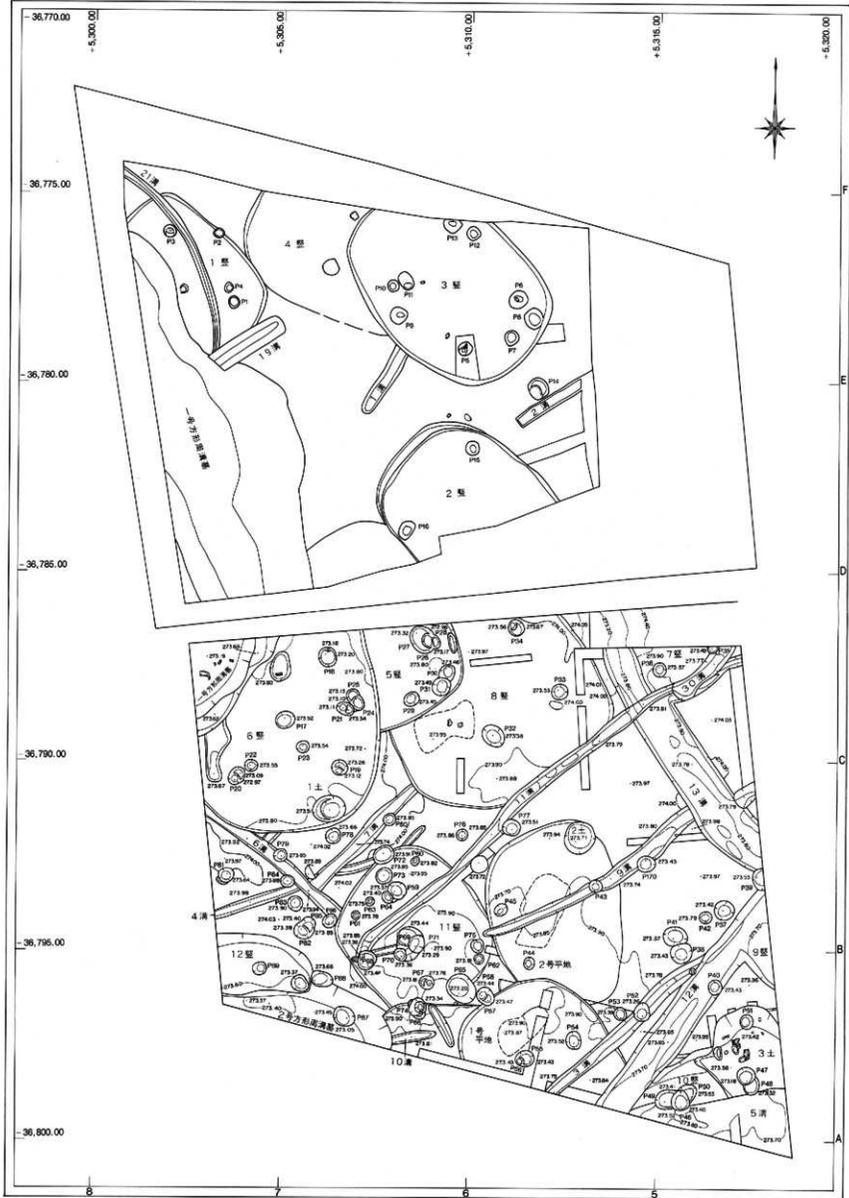
TEL 0 5 5 (2 2 3) 7 3 2 4

FAX 0 5 5 (2 3 5) 5 6 4 8

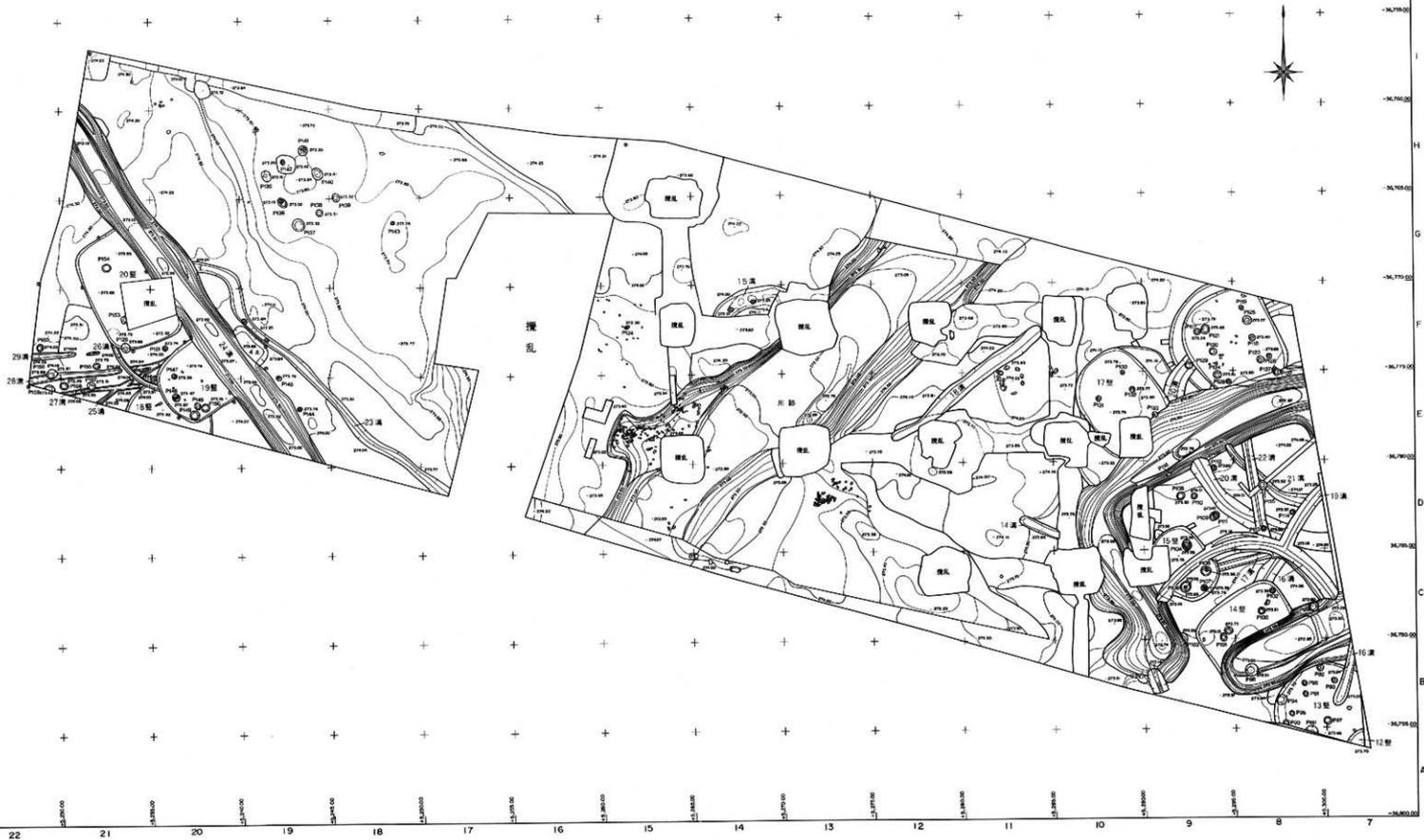
印 刷 榎内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

塩部遺跡 平成 14 年度調査区



塩部遺跡 平成15年度調査区



0 (1:200) 10m

